575-260
1200800033699
575
260

452

ロシア大革命史

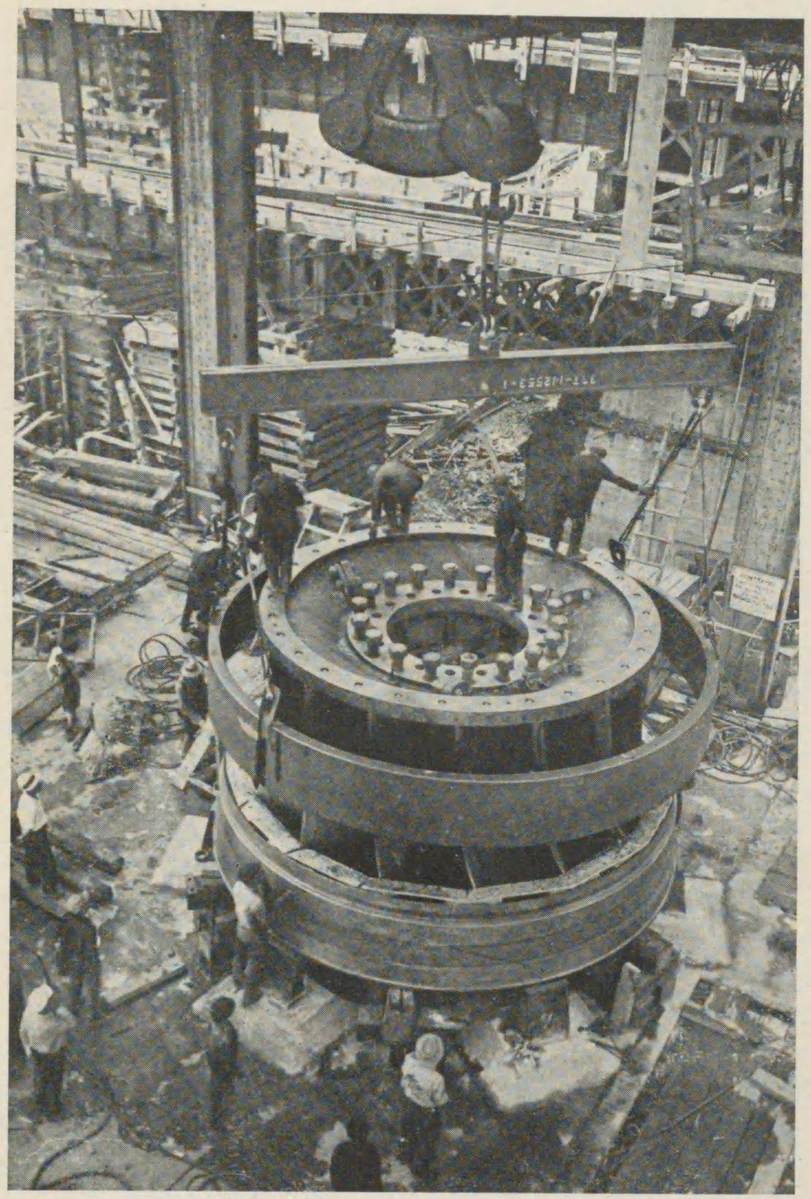
第十卷

五ヶ年計畫を觀る

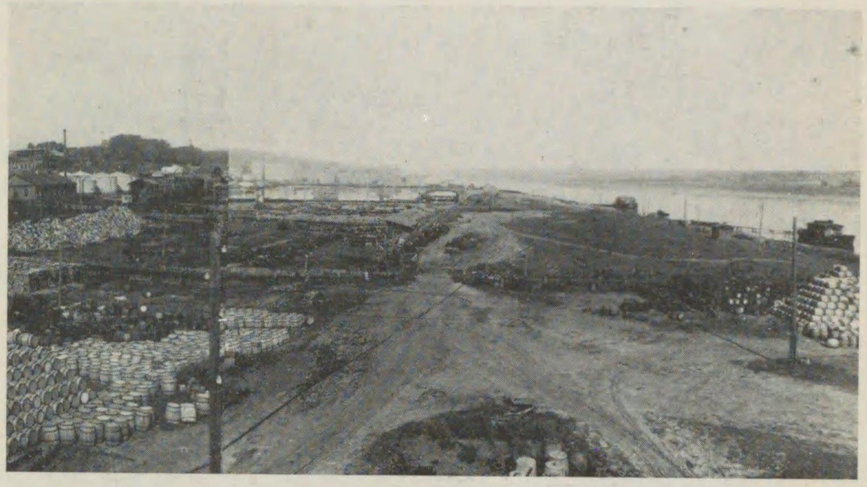
大竹博吉著

平凡社

昭和七年十月廿日 帝國圖書館

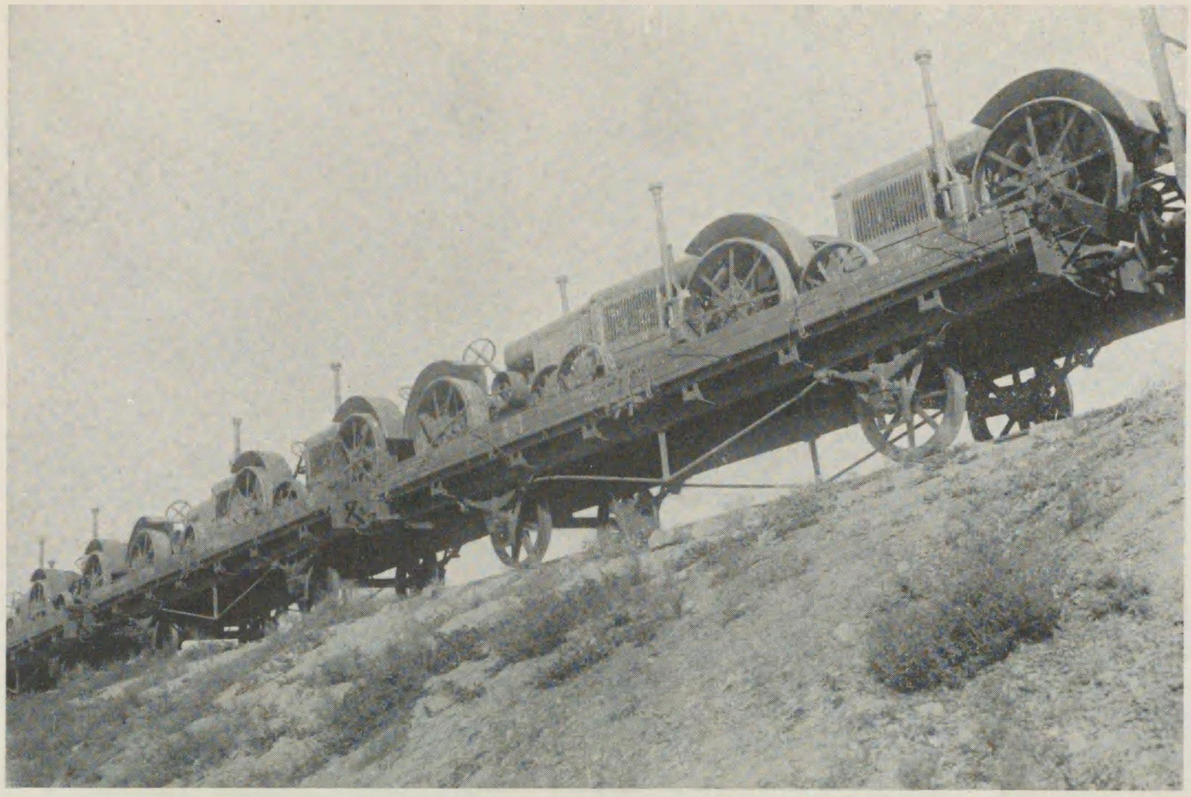


部一の機電發な大巨。所電發力水イロトスロプネトの中設建
（るゐでんらな臺九が機電發ふいうか）



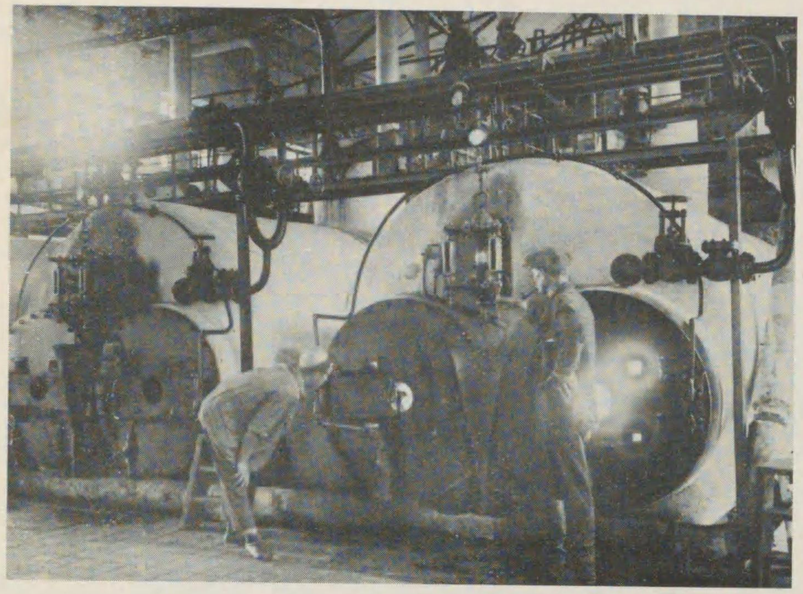
所油精大の
室工手の供子の所兒托…左下

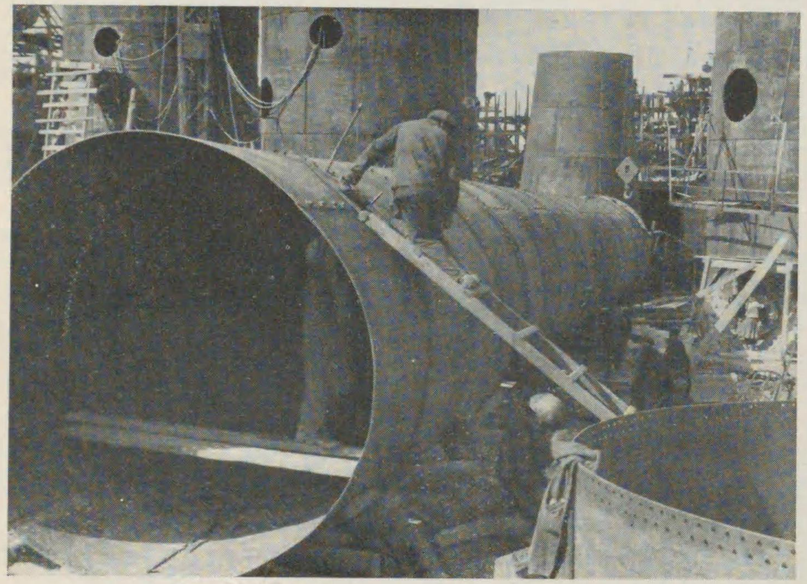
リウラスロヤ…上
でのるけか出にき働が人婦。いなり足が手人に設建……右下
。るれらけ預へ所兒托なんみは達供子の者働勞



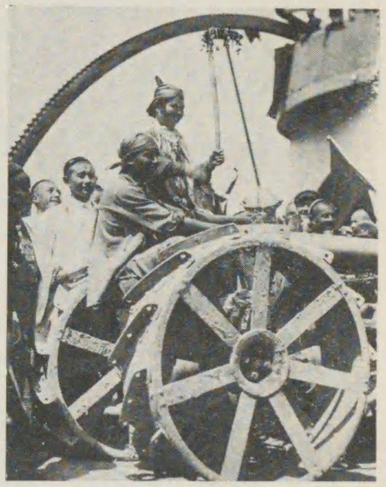
今やソヴエト國產のトラクターはうしてし大量的に全聯邦の隅から隅まで配給される

農業の機械の大群を見よ！





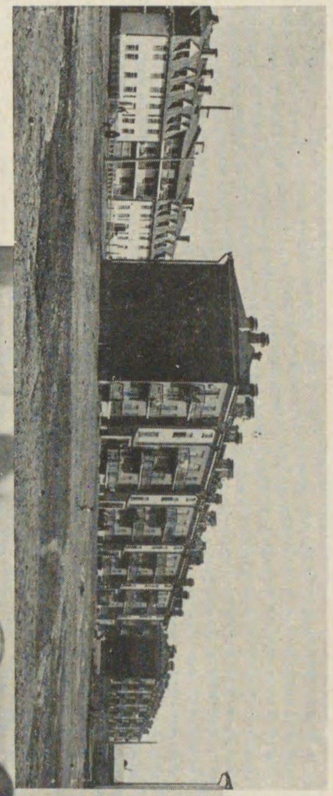
所油精大のリウラスロヤ……上
所鐵製新のクスルゴトニグマの中設建……下

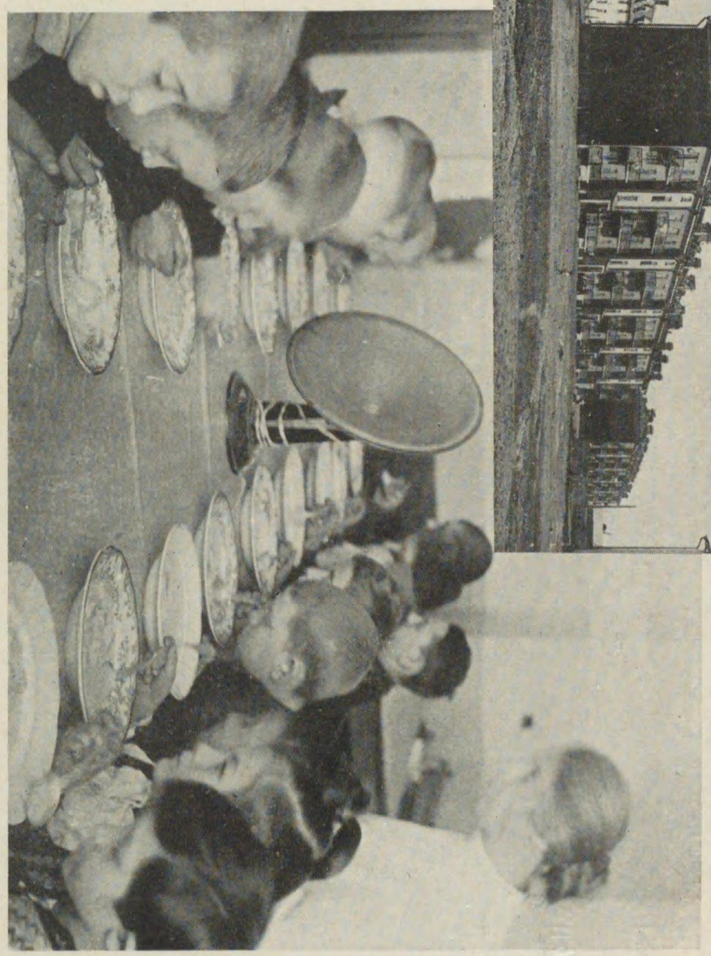


上……國營農場の收穫は かばそらかばそ原平大てしうかは穫收の場農營國……上
るゐてし穀精らかばそる取刈で原平大てしうかは穫收の場農營國……上

シタのアジア央中地產主の花綿……右下
。たきてつやがータクラトもへトンケュ
クラトゝてすを鋤な的始原も人クベズウ
。たつなにうやる握をルドンハのータ

の蔦產共る通をばその刷シェレ……左下
員委民人）フトロモ　らか右てつ向部幹
會員委央中黨產共）ンリータス（長議會
（長員委民人裝軍）フロシロオヴ（長肥書
キヌェ（長議會員委行執央中）ンニリカ
（長肥書會員委行執）ゼッ





トーパア者働勞たれさ築新にドーラグンリタス地心中の業工炭石と鐵……上
るれさ食給で堂食同共は達供子の場農團集……下

575-260

序

物を正確に視るといふことは、非常にむつかしい。そこに靜かに置かれてある物體を觀察する場合でさへ、それを視る人の視角によつて、またその時の光線の具合によつて、形や色がさまざまに印象されるものである。いはんや絶えず動いてをり、變化してをり、そして人間の視野のかぎりでは測りきれない社會現象を正確に把握するといふことは、至難な仕事の中でも、もつとも至難のことである。

私は、ソヴェト聯邦における五ケ年計畫の進展する狀態を親しく視察したく思つて、昨一九三一年の四月に日本を出發し、まづモスクワに赴いた。それから凡そ十ケ月間ソヴェト聯邦の各地を旅行し、建設の途上にあるこの國の工場や農村や文化施設などを觀てあるいた。正直にいへば、その建設のありさまの豫想したよりも遙かに眼ざましいのに驚ろいたのである。

歸つてきてから、日本の人々に出來るだけ早く詳細且つ正確にこの事を知らせるといふ責任は感じてゐたのであるが、それと同時に、現在ソヴェト聯邦で起りつゝある急激な變化と複雜な

動きとを、一人や二人の力で誰れにでも納得のゆくやうに説明するのは、全く不可能な仕事だといふことを痛感した。むしろ、自分が語るといふことよりも、一人でも多くの日本人が自分の眼なり頭なりでそれを視たり判斷したりする機會をもつやうにした方が、日本人がソヴェト聯邦を正しく理解する上に、どれだけ近道であるかも知れないといふ考へをもつ様になつた。

そのために私は、今年の二月に日本へ歸つてから自分が豫測した以上に忙がしい仕事にたづさはる事となつた。約束をした原稿を書きあげる時間のゆとりを持たなかつたばかりではない。いま上梓されることゝなつたこの書物は、私が歸朝以來、匆忙のうちに雜誌や新聞に執筆した記事と講演の筆記とを蒐めて作られる事になつたのであるが、その編輯の仕事さへも友人の手をわづらさねばならなかつた。

物を正確に視ること、その視たところをありのまゝに表現することのむつかしさは、前にもいふ通りである。いはんや、はじめから統一なく斷片的に書かれたり語られたりした所のものを、自分で充分に整理することなしに讀んでもらふといふことは、讀者にたいしても申譯のないことであるし、自分にも心の濟まない氣がする。

けれども、現在の日本とソヴェト聯邦との關係からみて、一人でも多くの日本人が、ソヴェト聯邦にたいする正しい認識をもつといふことは、非常に緊要である。時間さへゆるせば、もういつぺん初めから整理をし書き直して出したいと思ふのであるが、今はその餘裕をもたないのが遺憾である。

この書におさめられた所のものは、極めて斷片的ではあるが、私としてはそれぞれの場合に出來るだけ正しい狀態を讀者なり聽衆なりに傳へようとした結果にほかならない。記述がごたごたと前後したり重複したりして讀みづらい點は、前にいふやうな事情であるから許してもらひたいのである。たゞ、意識的に事實をゆがめて取扱つたり、殊更に曲つた視角から觀察するといふやうな事は斷じてやつてゐないつもりであるから、その點だけは安心して讀んでもらひたいと思ふのである。

一九三二・一〇・一二

ナウカ社にて

大竹博吉

目次

五ケ年計畫を觀る……三
社會主義國の建設と個人の生活……二一
五ケ年計畫の進行狀態……二二
ソヴェト農村の新らしい姿……四九
土をいぢらない農民……九四
ソヴェト聯邦の婦人……九九
ソヴェト聯邦の子供……一一三
ソヴェトの家庭問題を語る……一三〇

數字にあらはれた工業發展のテンポ……一四九
失業者のない國……一六三
五ケ年計畫と勞働組織の諸問題……一七五
スターリンといふ男……一八九
ソヴェト炊事工場を視る……二一二
階級のない社會へ……二三一
コンミュンへの道……二二九
ネップから五ケ年計畫へ……二六九
第二次五ケ年計畫……二五四
日本とソ聯邦……二九四
滿洲事變とソヴェト外交……三一九
ソヴェト聯邦一問一答……三三四

五ケ年計畫を觀る

社會主義國の建設と個人の生活

ソヴェトに對する觀方の問題

われ〳〵日本人の間でも、いまのソヴェト聯邦の狀態については、色々な說があつて、或る人は非常にほめるが、また或る人は徹底的にけなしつける。どちらが眞實なのか、まつたく見當がつかない、といふのが一般の評である。

私の考へでは、これは日本人一般のソヴェト聯邦にたいする興味と、それから知識の程度とが、平衡を缺いてゐる結果だと思ふ。たとへば、ヨーロッパの方を長く旅行して、それからモスクワに一寸と滯在して、シベリア鐵道を通つて歸つてきた人があるとする。日本に歸つてからその人が、多くの知人たちから訊かれることは、普通の場合、ヨーロッパの事情よりは、むしろ

ソヴェトの事情である。その人は、さつとした第一印象から抽きだして、それで結論をつくりあげてソヴェトを語る。私の先輩の或る一人は、先年ヨーロッパやソヴェトを旅行して歸朝してから、外國の事情を語るのに第一印象だけで勝手に結論をつくりあげることの誤りであること、危險であることを口に筆に强調してゐた。その中でも、ソヴェトにたいする觀察については、國の制度や組織や、物事にたいするそこの國民の考へ方まで違つてゐるので、よほど愼重な態度を以てのぞまないと眞實をつかむことができないと說いてゐた。實際その通りである。

昨今の日本でソヴェトについてまつたく統一のない、或る時には全たく正反對な、毀譽褒貶が渦をまいてゐるのは、この第一印象的な報告が非常に多いからだと思はれる。一寸とした偶然な出來ごとからその人のうけた印象によつて、色々に傳へられる。その人々の印象次第で、物の觀方の角度がちがふ。これでは何度ソヴェトについての話をきいても判らないと言はれるのが當然である。

實際、第一印象だけで結論をつくる場合には、一方では全く地獄か乞食の國のやうに見え、他方ではその反對に天國のやうに見える事柄が、ソヴェト聯邦旅行者の眼にふれる。一方では非常に感服するやうな社會主義的な制度や、人間の氣持や何か可なり强く、一寸と我々の考へられないくらゐに發達してゐる部分がある。又その反面にはかなりに窮屈な、個人々々の生活の上でちよつと欲しい物があつても容易に手に入らないといふ風に、生活物資の配給などに色々な不自由があつたり、不足があつたり、缺乏があつたりする。これは新しい社會主義的な國家を建設するといふ必要の前に總てのものが動員されて、主としてそちらの方に向つて全力が注がれてゐるので、普通の平時的な社會狀態といふものはそこに當てはまらない、いはゞ戰時的な狀態である。武器をもつての戰ひではなく、經濟上の戰鬪狀態なので、よほど注意して見ないと、そのことが理解できない。感心した方面といへば、勞働者に新しい住宅を與へるとか、勞働者のための倶樂部とか、共同の食堂とか、病院とかいふものが、物資の足らない中からも盛んに建築されて行つてゐる。さういふものを見て强い印象を受けた人は、もう其處に立派な社會主義の生活が可なり强く實現されてゐるといふ印象をうける。他方では、私生活の方で自分が何か買はうと思つても消費品が足らない。すべての人々が割合に汚ない粗末な着物を着てゐる。ヨーロッパや日本などから行つて見ると、着物などから判斷したのでは、或る場合に、

乞食と普通の住民との區別がつかない。ソヴェト聯邦といふ處は革命までやつて、社會主義の國だといふのに、あんなに澤山の乞食がゐるのかといふ疑問を懷く人さへある。しかし實際に於てはそれは乞食ではない。勞働者であり、中には役所の局長級ぐらゐの人も可なりお粗末な風をしてゐる。

かういふ狀態を表面からだけ見て歸つてきた人は、この二つの面を區々な自分の主觀を中心にして語り傳へる。かうしてソヴェトにたいする兩極端な觀方が生れるのであつて、聞く方ではどつちが本當か判らないといふことになる。だから、ソヴェト聯邦の狀態を判斷するには、この國が現在社會主義へ進まうとする過渡的な段階を進んでゐるのだ、といふことを念頭においてかゝる必要があると思ふ。

シベリア線の食卓

私はソヴェト五ケ年計畫の進行狀態を、できるだけ實際について視察するために、昨年の春まづモスクワへ出かけた。それから十ケ月間いろ〳〵な地方を旅行して、主として工業や農業の建設狀態を見てあるいた。その間には、むろんソヴェト國民の私生活についても觀察する機會をえた。

ウラヂオへ上陸して、アムール鐵道を通つて、チタからシベリア鐵道へ出た。この鐵道旅行中に、私の乘つた汽車の食堂では、むろん贅澤ではないが、食料品の不足に惱んでゐるといふ噂から推して想像してゐたよりは、御馳走があつた。肉や小禽の料理に毎日腹を滿たすことができた。極東では牛乳が足りないので、コーヒーは牛乳なしの黑コーヒーだけしか飲めなかつたが、汽車がバイカル湖を越してシベリアへはひると、處々の驛に牛乳を賣つてゐたし、食堂のコーヒーにも牛乳がはひつてくる樣になつた。

だから私たちは、まづ列車の食堂からうけた印象では、旅行中に飢えるほど食料品が不足してゐるといふ噂には贊成できなかつた。列車の食堂で定食の晝飯をとる者は、午前中に『第何番目の食事時間にでるか？』とボーイが訊きにきて、一々紙片に時間を書きいれた切符をおいてゆく。一回の食事時間が約四十分間で、定めの時間に食堂へ行つて食事をする。この時間には定食以外の物はビールとかその他の飲料水を除いては勝手な註文はできない。四十分間にき

ちんと食事をすまして、あとの順番を待つてゐる人のために食卓を空けなければならない。さういふ順番が四回か五回にわかれてゐる。一寸と考へると甚だ窮屈で不便なやうだが、限りのある食堂で大勢の人が食事をするためには、さうするより外はない。秩序があつて、腹を滿たすための晝飯時に酒を呑みながら何時までも席をふさげてゐる人のないのが却つて快よいとも言へる。その代りに晩食の時間になると一品料理のメニューの中から好きな物を註文して、食卓についてゐる時間にも別に制限はない。その後ソヴェトの各地を旅行してゐる間に、列車の食堂はどの地方の鐵道もだいたい同じやり方をしてゐるのを知つた。

私の乘つたアムール線廻りのシベリア鐵道では、かういふ風に別に食事に不自由は感じなかつた。ところが、それから二週間ほどして同じ線を通つてモスクワへやつて來たM君の話をきくと、食物の關係では可なりの相違がある。M君は、ウラヂオからモスクワまで殆んど毎日鹽鮭を材料にした料理ばかり喰はされて閉口した、といふのである。これは、食堂車の支配人の旅客にたいする心のくばり方や、その時の材料仕入れの都合にもよるのであらう。要するに、私が食堂車の待遇からうけた印象では、そんなに食料品が不足してゐるとも思はれないのであるが、M君のうけた第一印象では、可なり食料品が不足してゐる、といふ事になる。

同じ旅行者にあたへる印象でも、その時と場合によつて、これほど違ふのである。

極東の建設と歐露の建設

五ケ年計畫によると極東でも可なりの建設が進行することになつてゐる。なるほど、鐵道の沿線から眺めても、驛々の附近には新らしい家の建てられたのや、建築中のものを可なり見かけた。鐵道の枕木なども堆かくつんであるのを目擊した。併し、そんなに驚ろくべき建設が進んでゐるといふ强い印象はうけなかつた。それがバイカル湖を越えて、シベリアの新首府であるノヴオ・シビリスクから西へゆくと、ずつと目だつて違つてきた。少し大きな停車場から眺めたゞけでも、可なり大きな建物がどん〳〵新らしく建てられてゐる。それよりも强い印象をうけたことは、停車場ごとに貨車の上やバラックの中に多數の農具やトラクターが運ばれてきたまゝ山積してゐる光景と、廣い耕地のあちこちでトラクターが盛んに活動してゐることである。それから、ウラルにかゝつて、スヴェルドロフスク（元のエカテリンブルグ）の附近へ行くと、

森がどん〳〵伐り開かれて大きな工場風の家や住宅が到るところに建築されてゐる。鐵道も複線の工事を盛んにやつてゐる。歐露に近づくほど盛んになる。その後、歐露の各地を旅行してから、歸りにも同じアムール鐵道で歸つてきたのであるが、その時には歐露でうけた目ざましい建設の印象のあとで、極東へくるに從つて火の消えたやうな感じがした。かういふ點から判斷して、極東でも五ケ年計畫がまるで進行してゐないとは言へないが、何だかまだ末梢神經の端の方までは充分に新らしい血が廻りきらないでゐるのだといふ印象を強くうけた。極東ばかりではない。特別の地方をのぞいては、一般にまだ邊境地方までは第一次五ケ年計畫中に充分な建設は行きわたつてゐない。まづ歐露の工業や農業の中心地方に第一次的に力がそゝがれてゐるのだといふ事は、誰れがみても爭ひがたい事實である。今年の一月から二月の初めにかけてモスクワで開かれた聯邦共産黨會議で提示された第二次五ケ年計畫案の骨子をみると、第二次五ケ年計畫では今まで手をつけ遲れてゐた極東や、東部シベリアその他の邊境地方の開發に力をつくす事になつてゐる。

畢竟、こゝでも同じことが言へる。極東だけを一瞥した人は、五ケ年計畫といつて騷ぐけれどもまだ〳〵宣傳ほどに進行してゐない、といふ印象をうけるに違ひない。その反對に、歐露の建設の中心地だけをみた人は、その目まぐるしい建設のありさまに驚異的な印象をうけるであらう。

大都會の印象

まづモスクワの印象を語らう。モスクワの舊來の市街、つまり中央區域を見たゞけでは處々に大きな官廳やアパートが默々として建てられてゐることゝ、四五年前まではゴロタ石で敷きつめられてゐたロシア一流の車道がアスファルト化されて來たといふほかに大した變化をみない。けれども一度郊外へ足を踏みだしてみると、モスクワの姿が一變してゐるのにおどろく。前には郊外の散策地として靑々とした森に包まれてゐた所が、すつかり伐り開かれて工場や勞働者のアパートやで一杯になつてゐる。倶樂部や劇場や運動場まで出來てゐる。

南露の方へいつてハリコフとかロストフとかいふ大都會へいつてもその通りである。郊外の新らしい大工場の建設されてゐる地域では全然新らしい別個の都會が現出してゐる。工場と住

宅地との間に綠林地帶をつくつて、そこには病院や娯樂機關も設備されてゐる。かういふ新らしい建設區域を『社會主義都市』とよんでゐるが、その地域だけをみると、如何にも社會主義的な印象をあたへられる。

こゝで特に氣づいた點をあげてみる。たとへば我々の國でいま新らしく工場や勞働者の住宅地が定められるとなると、大概の場合にその候補地は地價の安いところに選まれる。低地や濕地や、沼澤地を塵芥で埋め立てた所さへ稀れでない。地價が非常に高いからである。ところがソヴェトでは土地が國有になつてゐる關係から、工場や勞働者住宅の新らしい地域を定めるのに最も乾燥したいゝ土地を選ぶようにする。この點は非常にうらやましく思はれる。

大建設と個人の生活

五ケ年計畫の豫定によると、今まで工業的に立ちおくれてゐるソヴェト聯邦を工業化するといふことが第一になつてゐる。この工業化の過程を進めながら、國內の資本主義的な分子を掃蕩する。國內の資本主義的な分子のうちで一番大きな部分を占めてゐたのは、革命後ます〳〵分散的な經營になつてゐる農民の經濟であるから、これを集團化して社會主義的にする。これが五ケ年計畫の眼目であつた。國を工業化するといふことはどういふ意味かといふと、まづ工業發展の基礎をつくるために、生產手段の生產を盛んにするといふ事である。色々な工業に必要な、今まで外國から買ひいれてゐた色々な機械類などを國內で製造のできる設備をするのである。

このために一番必要なのは重工業である。重工業の建設は何をおいても眞先に進めてゆく。これが、五ケ年計畫の眼目である。これが出來あがれば個人の消費に必要な品物を增產してゆくことができる。が、まづ第一に着手しなければならぬのは重工業の發達である。かういふ譯で、消費品の生產はいくらか閑却される、といふ傾向は免かれない。從つて個人の生活の方は一方に重工業やいろ〳〵な機械工業などの建設が盛んに行はれてゐるのと比べて、非常に滿たされない所がある。何もかも不足勝ちである。それに、新經濟政策によつて相當に發達してきた都會の私有商業機關が、資本主義分子の掃蕩といふスローガンのもとに玆數年間に虱つぶしに絕滅されて行つたので、一時は消費物資の足りない上に配給網にも缺陷がおこつた。近ごろ

では漸やく公營や協同組合の配給網が整理されてきた傾向はあるが、まだ充分とはゆかない。物資はむろん不足してゐる。支那では『お早う。』といふ挨拶のかはりに『御飯を喰べたか。』と訊くといふが、ソヴェトでは電車の中でも往來でも知人に逢つた時の最初の言葉が『君の方の配給所の配給狀態はどうだ。』と訊くのが普通である。

こゝで生活品の配給の仕方を少し述べる。五ケ年計畫の前までは、個人經營の商店も到るところにあり、公營の店でも協同組合の店でも、金さへもつてゆけば誰れでも自由にその店にある品物を買ひいれることができた。五ケ年計畫になつてからは、消費品の配給を計畫的に統制することになつた。勤勞階級だけがまづ物資の配給をうける樣にするために、各人が一定の手帳を與へられ、一定の配給所に所屬させられることになつた。所屬配給所以外のところへ行つても買ふことはできない。また筋肉勞働者を第一に、その他の智能勤勞者の配給は第二次にする。配給の量にも、品物によつて制限があつて、筋肉勞働者には多く、智能勞働者には少なく配給することになつてゐる。この制限は、品物が足りないのを調節するためである。また筋肉勞働者への配給に重きをおくのは、現在いちばん必要な、直接生産に從事する者の能率を保持するといふ主意からきてゐる。だから品物の足りない時には、まづ筋肉勞働者が配給をうけ、他の者は我慢をせねばならぬ。政府や公共の機關または工場等につとめてゐない、いはゆる資本主義分子になると、手帳をもたないからどこの配給所からも配給をうけることが出來ない。僅かに殘されてゐる市場の小商人から非常に高い品物を買ふほかはない。かういふ分子の私生活は非常にくるしい。從つて小さい私有經營をやつてゐた者は國營機關や工場勞働者に續々轉職する。さうして次第に私有經濟が絶滅されてゆくのは、五ケ年計畫の目的に一致することなのである。

消費品の賣渡し分量に制限をつけるといふことは、品物が全般に充分に配給するために足りないからである。何によらず何時でも必らず制限をするといふ事になつてゐる譯ではない。一九三〇年ごろにはパンが非常に不足した。そこでパンの配給量に制限をつけた。それと同時に政府は國内の各地に大規模な穀粒專門の國營農場を建設し、集團農場をも奬勵してパンの增産に努力した。そのお蔭で一九三一年の秋にはパンの消費制限を解くようになつた。私がモスクワへ着いた一九三一年の春には、どこへ行つても純粹の昔からあつた樣な白パンは買ふことが

出來なかつた。『白パン』と名づけられるのは何割か黑パンの粉をまぜた灰色のパンであつた。ところが、私が歸る頃には白パンが市場へ姿を現はしたしパンの消費制限もなくなつてゐた。パン問題が解決された譯である。

砂糖の消費にも制限がついてゐた。砂糖の不足のために生菓子を賣るところは何處の都會へ行つても一軒もなくなつてゐた。一九三一年の夏になつて、砂糖の不足がやゝ緩和されたといふので、生菓子を賣る店が諸方にあらはれてきた。今でもまだ肉の不足は解決されない。今度は肉の消費問題を解決しなければならぬ、といふので政府は肉の增產に全力をつくしてゐる。

かういふ風に消費品の不足してゐることは爭ひがたい。だからソヴェト國民の生活の一端をみると、ひどく窮乏してゐるやうな感じを强くうける。殊に消費品の生產過剩のため商品がだぶついて經濟恐慌を起してゐる國々からソヴェト領內へ足を踏みいれた者からみると、最初の一瞥ではまるで乞食の國へでも行つたやうな印象をうける。併し、それが全部でないことは、少し長くゐてみると判つてくる。消費品は足りないのだけれども、行列に立つたり、順番を待つたりして、兎に角はたらいてゐる者は配給をうける。芝居だの音樂會だの映畫だのといふ娛樂機關は非常に普及してゐる。たゞ國の工業化の建設を急いでゐるために、消費品の一部は機械類を外國から買ひいれる代金を產みだすため不足勝ちな中から輸出もしてゐる。しかも消費品の輸入は絕對にやらない。こゝに統制經濟の威力が完全に發揮されてゐる譯である。

資本主義的分子の解消

前述のやうに、勞働手帳を持たない者は壓迫を受けるから、今まで小さな店をもつたり何かして資本家扱ひをされて生活に苦しんでゐた者は、店を閉めて政府の仕事に勤めたり配給所の配給係、つまり賣子になつたりする。自營の裁縫店を開いてゐた者はモスクワの市營の裁縫工場へ轉ずる。かうして資本主義分子は段々沒落して行つて勤勞層の中へ解消してゆく。其中で今まで相當大きな力をもつてゐた商人や企業家等の階級はどういふ風にして沒落しつゝあるかと言ふと、政府は政治的に之を壓迫するといふことはしないと、新經濟政策の原則の中で約束してゐたし、今でも新經濟政策を撤回した譯ではないので、資本主義分子を剿滅するといふスローガンを揭げて居りながら店を開くことに別に反對はしない。唯だ個人の店が少し大きく經

營をすれば、それに高率な稅金をかける。この人が若し稅金を拂ふのが辛いために店を閉めて、さうして破產の狀態になるとする。大概さういふ場合には矢張り人間の慾として全部を投出してしまはないで、少しは食ひ繼ぎになるやうに財產を隱すのが人情である。さういふ場合には『ゲ・ペ・ウ』はカラクリを知つてゐて、結局、稅金を拂ふ義務があるのに詐欺破產のやうな狀態にして財產を隱匿したといふことで、シベリアへ送つて强制勞働をやらせる。これは近ごろ外國で可なりやかましく批評をしてゐる、ソヴェト政府の强制勞働といふことの一つの現はれであるが、さういふ風な目に遭つてゐる人も相當澤山ある。吾々がもし資本主義制度の見地に立つて個人生活の方から見ると、一面にはさういふ恐怖政治的な現象もないことはない。つまり國の經濟組織を急激に社會主義化するといふ目的のために、一度新經濟政策で擡頭した私有經營者が可なりに壓迫をうけてゐる。資本主義分子がソヴェト聯邦のうちで盛んに金儲けのできた新經濟政策の初期の段階が終りをつげて、今ではそれらの分子が沒落するところの新經濟政策の最後の段階がやつてきたといふ譯である。また一方では勤めてゐる人々でも品物の足りない所から配給を受けるのに非常に窮屈である。是等の狀態をみると、一面では非常に華々しく建設がされてゐるけれども、他の一面では國民が非常に苦しい切りつめた生活をして居るといふことは爭ひ難いのである。

社會一階級層の沒落と解消

革命といふものが大きく一つの時代を劃して、そこの國民の中の一部の階級層を沒落さして行くありさまについて、私の氣づいた點を述べよう。今ソヴェト聯邦ではモウ階級沒落の過程といふものが第二の段階に這入つてゐると言へるかと思ふ。それはどういふ言味かといふとまづ一九一七年に革命が起つた最初の時には、革命の大きな波に煽られて非常な悲運に遭ひ、第一に沒落したのは帝制ロシア時代の上層階級をなしてゐた貴族、それから大資本家、大地主などであつた。これ等の人々は或る一定の期間――外國に逃げた人は別として――財產も徵發されたし、政治的權力も剝奪されて、生活にも色々な不自由を感じた。併しその時代から今日まで殘つてゐる人達は、結局今ではもはや勤勞層の中へ段々と解消して行つてをる。さういふ風に一遍沒落して、或人は諦め、或人は妥協し、或人は共產黨が進んで行かうとする、政治的

な目的に對して寧ろ共鳴をして行つた人達さへもある。政府の仕事に勤め、或は工場に這入り自分から昔とは違つた生活を喜んでするやうになつた人も澤山ある。また厭や〳〵ながらでもそれをやつて行かなければ食へない爲めに、さういふことになつて行く人もある。昔の將軍が辻の煙草賣になつて立つて居るなんといふ現象も、非常に澤山見られた。それはそれとして、その人々は今日では革命後十五年も經つて、自分の與へられた生活を落ついてやつてゆく樣になつて來てゐる。

革命から何年かの後にはそれ等の人はモウ勤勞者の中に解消されてしまつて、段々と政治的にも權利を回復して來てゐる譯だ。私が前にモスクワで三年間生活してゐた時代には――今から六七年前――其時にはまださういふ階級の沒落者は自分の悲運をかこつて居つた。それに反して昔の大きな商店や何かの番頭をしてゐた人とか、或は工場の註文取をしてゐた人とか、つまり仕事に直接經驗があつて相當な才能があるといふやうな第二流の人物は、新經濟政策によつて新しく自分で主人になつて企業を起して、めき〳〵と成金になつてゐた。ところが今日ではこの革命後にあらはれた新興ブルジョアと稱せられる人達、『つまり ネップマン』（新經濟政策成金）がいまや沒落の時代に打つかつてゐるのである。今窘められてゐるのは新經濟政策の時代に金持になつた、革命後のソヴェト聯邦に發生した新興ブルジョア階級である。この人達はヒー〳〵泣ごとを言ひながら、或人は政府の仕事などに勤め、或者は前述のやうに、金を隱したり何かして、それが發覺して流刑の憂目に遭つて居るといふやうな狀態である。都會ではさういふ資本主義的な分子といふものは五ヶ年計畫がはじまつてから、殆んど一掃されてしまつたと言つてよい。唯だ個人の商業として殘つてゐるのはホンのバザールだけである。バザールといふのは街の處々にある廣場のやうな所へ皆が集つてせい〳〵手に物をもつて賣買する一つの物々交換――無論貨幣が基礎になつて交換するのであるが、さういふ所に多少私有の商業が行はれてゐるだけである。そこへ出て來る品物は、以前の金持が僅かに賣殘した家財や着物を賣拂ふとか、勞働者が先づ肉なりバタなりを配給所から受ける權利を持つてゐる分量だけ買つて來て、家族の消費を半分に減らして五斤買つて來たら二斤なり三斤なりバザールで賣る。これが相當に高い値で配給をうける權利のない人達に買はれるので、その金で細君の靴下なり何なり必要なもので配給所にない品物を買ふといふやうな商業が營まれてゐる。またこれを仲買

して少しばかりの鞘を儲ける者がある、さういふものに過ぎないのである。これは經濟生活の全體からみれば極く小さな部分と言つて宜いだらうと思ふ。

五ケ年計畫の進行狀態

五箇年計畫の目的

今いちばん中心的な問題になつてゐる五箇年計畫といふものゝ進行狀態はどうか、それは一體どういふ目的に向つて進んでゐるか。

第一にこの五箇年計畫の目的は、政治的と經濟的の兩面から觀なければならないと思ふ。今まで日本の新聞や雜誌に傳へられてゐる五箇年計畫の領域といふものは、經濟的な方面が主である。何がどの位出來るやうになつたとか、どういふ風に建設が進んで居るとかいふやうな經濟的の方面だけである。むろん經濟が主で政治は言はゞ從であり、經濟が基礎になつて政治の目的はそれに附隨して解決される問題として現はれるのである。

第一の經濟的の方面からいふと、一九二八年の秋から始めて五箇年間に、其時を出發點とし

て國の經濟力を二倍にするといふ事である。しかも二倍にしながら自給自足のできるやうに、今まで工業的に遲れてをつた國を工業國に轉化させる。自分の國で可なり精巧な機械でも何でも作つて外國から輸入する事なしに足りるようにする。これが五ケ年計畫の『經濟發展と國の工業化』といふ第一のスローガンのうちに包括されてゐる經濟方面の課題である。

第二に、政治的な方面は何かと言ふと、新經濟政策時代に一般の制度が可なりに資本主義的に後退した關係から、國の經濟組織の中で資本主義的な分子が相當に勢力を持つて擡頭してきた。或る時代には新經濟政策のいはゆる退却政策といふものが資本主義への降伏であるかの如き印象を與へた。これを逆襲に轉じて社會主義の方へ引戻す、つまり新經濟政策時代に國の中で擡頭してきた資本主義的な分子をこの五ケ年間に絶滅する、階級といふものを無くする地固めをする――斯ういふ事なのである。

第三に、これは二つの方面に關聯してゐるが、國を工業化すると同時に、農村において農業を大農化し、且つそれを社會主義化して行く。今までバラ〳〵に分散してをつた農村の經營といふものを、その地域、周圍の情勢に從つて集團的な經營法に移してゆく。そして集團的に大農化された農業の機械化を圖り、それによつて農業の生産能率を高めてゆく。この集團化された農業は社會主義的な經營、つまり個々に分散した經營から集團的に轉ずると同時に、將來徹底的に社會主義化される爲の第一歩の形を持つた經營とする。であるから農業の集團化と機械化を基礎として、社會主義化を促がすと同時に生産能率を高め收穫率を增す、といふことになる。この三つが第一次の五ケ年計畫の根幹となつて居るところの目標である。

國の工業化

最初に國の工業化といふ事から觀察すると、是はもう非常な勢ひで今進んでゐる。どんな人でも一度ソヴェト聯邦の中心地方、工業地方を旅行した者は、到る處で新しい非常に大きな工場や、その工場に附屬する勞働者の住宅とかいつた樣なものがどん〳〵建設されて居ることに、非常に强い印象を與へられない人はないといふ狀態である。もう汽車がシベリアの中部を過ぎてウラルの附近に掛ると同時に、目覺しい建設の有樣が非常に强い印象を誰にでも與へる。それがモスクワを中心として更に南の方、ウクライナの首府であるハリコフといふ工業都市、更

に下つてドン河流域の工業都市に行くと益々盛んに行はれて居ることを感じる。この工業の建設は將來ソヴェト聯邦自體の自給自足といふものを目標にして進んでゐる。自給自足とはどうするのかといふと、生産手段――物の生産をする設備をつくる工業を發達させるといふことに歸着する。つまり紡績の機械でも、電氣機械を作る機械でも、或は石炭を掘る機械でも、鐵を熔かす機械でも、農業の機械でも總て生産の基礎になる機械を自分の處で作るようにする。畢竟約めて言へば、重工業の發達といふ事に第一の重心をおく事である。

自給自足策

こゝで一寸と全般的にソヴェト聯邦がさういふ政策をとり出した理由を述べよう。いはゆる自給自足策といふものを強くこの五ケ年計畫においてとり出した國際的な理由を、ソヴェト政治家の考へについて述べると、それは第一によほど前からスターリンが頻りに唱へてゐる『一國社會主義建設可能論』と密接な關係がある。此點でもすでにトロツキー等と意見が別れてをるのであるが、スターリンは現在の世界各國の帝國主義政策のお互ひに縺れ合つた國際情勢、つまり帝國主義諸國間の矛盾、お互ひに列强同志の利害關係が常にいろ〳〵な問題で衝突をするといふ國際情勢の間で、ソヴェト聯邦は一國だけで社會主義を建設する事が出來るといふ信念をもつてゐるのである。前には社會主義建設の順序として國際プロレタリア黨が一つに一致して急速に世界革命が遂行されるのでないと、或る一國で革命がおこつて社會主義建設をするやうな場合には、その社會主義建設といふものに對して非常な反感をもち恐怖を抱く周圍の資本主義國がこれを總がゝりで打倒しに來る。だから一國だけが孤立して社會主義の社會を建設するといふ事は困難である、といふ風に一般に常識として考へられて居つた。トロツキーの『永久革命論』といふのもそこに出發點をおいてゐる。けれども、レーニンは帝國主義の內容について研究を殘してをり、それを受け繼いだといふ形でスターリンは、世界全體の帝國主義國はお互ひに國際場裡において利害の衝突があつて、容易に一致の行動がとれない事情があるし、また帝國主義國の內部にも階級闘爭があつて、プロレタリア層はソヴェト聯邦攻擊の戰爭に反對をするから、そこでソビェトは一國內で社會主義の建設をする可能性があるといふ意見を提唱し出したのである。そうして今この五ケ年計畫ではソヴェト聯邦內における社會主義の建設とい

ふものを目標として進んで居るわけである。しかし世界各國がソヴェト聯邦に對して、或はソヴェトと五ケ年計畫の建設に對して出來るだけ經濟的なボイコットをしたり、妨害をあたへたりしようといふ氣勢はソヴェト政治家も夙に早くから見て取つてゐる。唯だ現金を持つて行つて物を買ふといふ場合には、今世界中どこの國でも生產過剩でストックの非常に多いのに惱んでゐる場合だから喜んで賣渡すけれども、ソヴェト聯邦に對して長期間のクレヂットを與へたり、或は公債の形で信用貸をして喜んで五ケ年計畫の建設を助けようといふ國は世界ぢう何處にも無いといふことを最初から覺悟してゐる。結局一國內で社會主義を建設するにしても、自給自足といふものゝ原則を確立しない限りはそれは成功しない危險がある。つまり外國から經濟的に拘束されてゐる限りはソヴェト聯邦における社會主義建設といふものは成就しない、かういふ考へを持つて居るのである。從つて前述の自給自足といふ事に重きをおく經濟政策をとり出した譯である。

農業とトラクター

今度私が旅行してみた結果からいふと、たとへば一昨年頃までは農業に用ひるトラクターを——トラクターといふのは農場で働らく自働車ですべての物を牽引する機械——主としてアメリカから盛んに買入れてをつた。アメリカからもドイツからもイギリスからも見本を送つて盛んに賣込みの競爭をしてをるが、ソヴェト聯邦の農業の現在の組織と、それから燃料や土地やその他一般にアメリカのトラクターが一番適してゐるといふ關係から、アメリカのトラクターが一番入つてをる。併し、去年はもうトラクターは國產のものが相當に澤山出來るやうになつて來てゐた。それから最近數年間にアメリカで、夥だしい農業勞働者の失業者を出す原因となつたコンバインといふ農場における戰鬪艦ともいふべき機械を、まづ國營農場のためにアメリカから買ひいれてゐた。それは可なり複雜な大きな機械で、コンバインといふのは色々な仕事を一つの機械がするといふところから來て居る名である。つまりトラクターに牽かれて麥の刈り取りから、精穀、乾燥まで一擧にやつてのける、怪物的な農業の機械である。かういふ機械をソヴェト聯邦がアメリカから買入れはじめたのはやはり一昨年が最初の事で、今日までに二千臺位それを買入れてゐるが、自分の處ではもう昨年から四五千臺も作つてゐる。今年あたりか

らもうトラクターもコンバインもアメリカその他外國から取寄せないで自給でやるといふ事になつてゐる。それから水力電氣や何かの非常に大きな發電所の機械も今日までのものは殆んど外國から買ひ入れてゐるが、去年からはもうそれも可なり澤山に自國で出來るやうになつてゐる。自動車もその通りで、今まで自動車は殆んど外國から買つてゐた。革命後自動車を製作する工場といふものはソヴェト聯邦の中では働らいてゐなかつた。併し昨年中だけで非常に大きな自動車製作所が二つも出來た。さういふ風に自給自足といふことが驚くべき速度で、殆んど想像の出來ないやうな速度で進められつゝある。その方面から見ると、一般に先づ驚くべき速度でソヴェト聯邦は經濟的に獨立の方向を辿りつゝあるといふ事が言へるのである。

農業の集團化

五ケ年計畫の最初の案では、全ソヴェト聯邦の農民の約二割を集團化する豫定であつた。が、この農業の集團化といふことは、その實質は別として、大體の形式においては非常な勢ひで進み、一九三一年の暮までに全農民の約六割以上が集團化された。この集團化の過程には最初のころ隨分無理があつたやうだ。宣傳のために各地に派遣せられた共産黨員が、競爭で功をいそぎ、無理に强制的に集團化をやらせたやうな傾きがあつた。その結果、一部の農民の間に政府にたいする一種のボイコットとか反抗とかいふ形で不平が現はれ、或地方では一旦集團化されたものがそれを組織した共産黨員が歸つてしまふと直ぐに解體してしまふといふものもあつたらしい。これではいけないといふので一九三〇年の秋から捲土重來の形で組織を成るべく綿密にして無理のないやうに、强制的に集團化して後戻りをしないやうに組織しなければならぬといふ訓令を出してやり直してゐる。その結果一九三一年の末までに再び約六割が集團化された。私はこの集團化の內容の問題について頻りに視察もし、考へもして歸つて來たのだが、要するに或る人達が一つの假說として言つてゐるやうに、大勢で一緒になつて働くから集團的な仕事といふものは愉快で、そのために能率が擧がる、孤立して淋しく仕事をして居るよりは大勢でやつて行く方が仕事に熱が出るし互ひに氣持よく仕事を勵まし合ふから餘計に能率が擧がる、斯ういふ說はたゞ一片の假說であつて、必らずしも總ての場合に當てはまるものではないと思ふ。一方では、それよりは自分が作つた物は自分のものになるといふ個人的利益の刺戟に

よつて、人間のエネルギーが發揮される方が強いといふ說がこれに對して持ちだされる。畢竟、この二つの言ひ方は好く行つたところで水掛論に過ぎないと私は考へる。けれども機械が人間の力をウンと跳び越えて征服的な能力を發揮するといふことは爭ひ難い事實である。集團化されるといふことに依つてそこの農業が機械化されるといふ可能性をもつてくる。今までのソヴェト聯邦の農業の狀態といふものは革命の後に非常に大きな地主といふものは潰されてしまつたし、以前の莊園なんかが機械的な大農業をやつてゐたものは政府の手に取上げられて、農民の經濟といふものは一般に非常に小さな分散的な經濟になつた。結局せい〳〵馬耕位のものが一番能率の高い耕作法であつた。これを集團化して非常に大きな機械でもつて一齊に耕やして行から、斯ういふ考へが集團化の基礎になつてゐる。これが非常に能率に影響を與へるといふことは、前に言つた人間が塊まつて仕事するから能率が擧がるとか、それからまた働らけば自分のものになり、それだけ得だと思ふから餘計に仕事をするといふ問題の比ではない。どちらにしても人間の腕や筋肉の力だけでやる能率の差といふものには限度がある。機械でやれば機械が良ければよいほど人間は筋肉的に樂になるだけで、能率がドン〳〵高くなることは爭ひ難い。ソヴェト聯邦のやうな廣い土地では誰が何といつても神樣のお惠みに縋るよりも、人間の魂に訴へるよりも、何よりも機械が耕作に對して非常な力を發揮するといふ事は議論の餘地がない。だから此の集團化された農業が集團化の目的を發揮するには何が一ばん肝腎かと言ふと、よく機械化されるといふ事に歸着するのである。故に今農民全體の六割が集團化されたとして今度はそれがどの程度に機械化されて居るかといふ事が非常に重要な問題になつてくる。最初農民全體の二割が五ケ年計畫の最後までに集團化されるといふ豫定であつたのが、急激にもうすでに六割まで集團化されてゐる。二割までしか集團化されないといふ豫定を持つてゐる時に政府がそれ以上に機械を供給するといふ準備をしてゐなかつたことは當然なのである。所が集團化運動が非常な勢ひで進んだとすると、機械の供給といふ方面で非常なおいてけぼりを喰つたことは間違ひないのである。そこに一つの、大きなギヤップが起つた。集團化するには化し た、併しこれを機械でやらないで、皆個々の人間の力、筋肉的な力だけでやつて居るといふ部分があるとすると、この集團組織はまだ後退する可能性が殘つてゐる譯なのである。

農業の機械化進展の狀況

ソヴェト農業がどのくらゐ機械化されて居るかを觀察して見よう。ソヴェト政府はこの三ケ年間有ゆる力を農業機械の增產といふことに盡して、五ケ年計畫の豫定に無かつたトラクター製作所の建設もやつて居る。五ケ年計畫の最初の案では馬にくつ付けて引張るやうな農具を作る豫定で建設した工場を急に改造して、トラクターで引張るやうな大きな農業機械を造るところの工場に改造したものもある。擴張した工場も澤山ある。概して五ケ年計畫の中で豫定よりも超過して一番澤山作り出したのは農業の機械である。農業の機械の製作は、豫定よりも二倍と九、約三倍近く增產してゐる。そんなに生產高が豫定より殖えたものは今のソヴェトの工業中で他に類がない。ソヴェト聯邦では鐵が非常に足らないといふ事が最近しきりにいはれてゐる。この鐵が足らないといふ事から非常な勢で軍備の擴張をして居るのだといふ說が一部外國人の間で傳へられてゐるけれども、私はさうでないと思ふ。少くとも現在に於てはさうでない。私がソヴェト聯邦の各地を見て廻つた處で一番鐵を喰つて居るのはこの農業機械の生產であつた。

誰れが見てもトラクターといふのは車輪からハンドルまで全部鐵で作つてある。大きな七十馬力位のトラクター一臺は優に大砲一臺を作る位の鐵を要すると思はれる。さういふ狀態だから、熱心に古鐵まで搔き集めて農業機械を造つてゐる。それでもまだ國營農業は別として集團化された農業の三割弱しか機械化されて居らないといふ狀態である。結局、集團化といふものが進められて、それが機械化されて行くといふ事が集團農業を本質的に强く固めて行くといふことになる。けれども、まだ七割が機械化されないまゝに殘されてゐる。これは勿論或る所では全部機械化されて、或る所では全部機械化されて居らないといふ譯ではない。或る處では五割機械化されてをり、或る集團農場では三割或る集團農場では八割といふ風に、色々な形になつて居るのだが、要するにこの集團化の目的を十分に發揮するためには、まだ七割だけ機械が足らないといふ問題が殘つて居るのである。どういふ風にして機械化を合理的にする方法を講じるかと言ふと、今の遣り方では大きな國營農場の發達してゐる處ではその國營農場と集團農場との間の相互扶助を奬勵してゐる。集團農場の方は農業勞働者をだして勞力を國營農場に提供して、さうして國營農場から集團農場のために機械の供給を受けるといふ相互契約によつて、機

械の配給をやつてゐる。だから國營農場の發達したものゝある附近の農村は殆んど九割以上まで集團化されてゐる狀態である。それに反して國營農場の少ない地方、つまり孤立した農村がそのまゝに百姓部落として殘つてゐる處では、どうしても集團化の成績が惡いのである。ソヴェト政府はさういふ處にいかにして機械を供給してゐるかと言ふと、全國で現在約千二百ケ所ほどトラクター農業機械のステーションといふものが出來てゐる。配給所が出來てゐる。其處にトラクターが何百臺とか、何千臺といふ風に置いてある。集團農業が組織化されると同時に、そのトラクターのステーションと契約すれば、農民は機械を買入れる事なしに自分たちの收穫物で使用料を支拂ふといふ約束で機械の供給をうける事が出來る。これがまだ一般に足らない。さういふステーションの建設がまだ足らないので昨今それを三千ケ所に殖やすといふ事を目標としてゐる。その他集團農業の大きなものは自分でトラクターを買入れてゐるけれども、是はトラクターの利用の方では餘り有利でないといふ事が最近非常に提唱されてゐる。何故なら、ステーションのトラクターを利用すれば四六時中常にそのトラクターが空く事なしに利用される譯だが、或る一つの集團農場でトラクターを持つてゐると、それ程には合理的にトラクターが利用されないからである。要するにトラクターの足らないこと、或は機械の足らないこと、それは一般に事實である。

もう一つこの集團農場のうまく行つて居ない點がある。ロシア人だからこそ、さういふ風で一年でも二年でもやり續けて行き得るのだと思はれる事がある。集團化された農場でどういふ風に收穫を分配するかは非常にむづかしい問題である。私が日本に歸つて來ても人からよく訊かれるのであるが、政府が色々と指導をしてゐても、その分配の基礎の確立されてゐる集團農場といふものはまだ非常に少いのである。一例を取つて言へば、昨年の秋から政府は熱心に集團農場の中における帳簿の整理といふことを宣傳してゐる。正確な帳簿を備へなければならぬといふ事を頻りに宣傳してゐる。一體どの位の率で集團農場では勞働とか、財產を提供した率とかいふものをキチンと登錄した帳簿を備へて居るかといふ調査をしたところが、帳簿を持つて居るものはその半分に達しない。半分は帳簿なしで大勢の百姓が集まつてやつて居るので、誰が何時間働らいて居るか、誰が何を提供したのか、また誰に何をどの位分配すべきかといふ事がはつきりして居ない。さういふ場合には、まだ全部が共產主義の經營になつたといふので

ないから、百姓の間で色々な疑惑が起り不平が起つて、集團農業の解體する可能性がそこに殘つてゐる譯である。併しそれを一生懸命に整理しようとして政府が努力してゐること、それから機械の足らない點を充實させようと努力してゐる事は、非常によく分る。さういふ風にソヴェト政治家が、いけない事はいけない、どこに缺陷があるかといふ事を明かにして、その缺陷を矯正しなければならぬ、足らぬ所を滿たして行かなければならぬといふ事を常にやかましく言つて、努力してゐる點は、大に買はねばならないのである。

農業機械製作の狀態

ここで此の農業機械の生産力についてソヴェト政府がいかに努力をしてゐるかといふ一つの例をあげてみる。トラクターは前に述べたやうに、最初はアメリカから買入れて、一昨年から自國でも造り出したのである。ヴォルガ河の沿岸のスタリングラードといふ處に、非常に大きなトラクター工場を建設して、アメリカの機械をそつくりそのまゝ買入れてチェーン組織、自動的に職場の中をベルトが流れて行つてそれに生産したものを次々へ送つてやるやうな組織で最新式の機械を据ゑつけて仕事を始めた。この工場は一日に百四十四臺宛のトラクターが出來る設計になつてゐる、つまり一年間に約五萬臺以上も出來る譯である。併しまだ昨年の春私が行つた時分には一日三四十臺しか出來なかつた。一日に百四十四臺造るべき工場で三四十臺宛しか出來ない。勞働者は必要な數だけ入つてゐるし機械は動いてゐる。が、慣れないために色色と機械に故障が起つたり、一つの部分は出來ても他の部分が出來ないといふ譯で、能率があがらない。出來たものも完全でない。そのために世界の技術家の間でも色々な說が起つて、『一體ロシア人といふ奴は昔からの土百姓で、精巧な機械などを使ふ能力はないのだらう。今幾ら政府が到るところに最新式の機械を入れる設計で五ケ年計畫の建設をしても結局において技術の方で失敗するだらう。』――かういふ意見が可なり强かつた。私が行つた時分には丁度さういふ意見がモスクワにゐる外國人の間でも支配的な意見となつてゐた。私自身も『或はさうかなあ。』といふやうな考へを抱かしめられたけれども、その時に共産黨の幹部は全部この問題に注意を集中して、どうしてもこのトラクターの生産率を豫定通りに引上げなければならぬ、われと思ふ自信のある技術家や勞働者は、そこへ集まれと宣傳し、共産黨の領袖などが常に出掛け

て行つて勞働者を勵ましたりする。あらゆる方法を取つて、何が惡い、こゝが惡い、かういふ組織が惡いといふやうな事を毎日新聞に發表して直して行くことに努力した。初め作つたトラクターは完全に動かなかつたのが段々動く樣になり、次には作りだされる數が殖えて行つて、去年の末までには毎日百二十臺出來るやうになり、今年になつて新聞を見ると一日百三十臺づつ造つて、設計の百四十四臺まではモウ一息といふ所まで、兎にかく一年間に漕付けたのである。もう一つのレーニングラードのトラクター工場も略ぼ同じ能率をあげてゐる。これに依つて、或る一つの失敗の一點に立止つてさういふ新しい建設なり新しく仕事を始めたものを批評することは非常に危險だと私は感じた。結局このスタリングラードのトラクター工場と、それからレーニングラードにあるトラクター工場と、更に昨年の末から仕事を始めたハリコフのトラクター工場、それから今年の夏までに建設を完成するウラルのチェリヤビンスクといふ所のトラクター工場を合せると、それらが完全に能力を發揮するやうになれば年々十八萬臺から二十萬臺のトラクターを生産するやうになる。全體に五十萬臺のトラクターを持つと、今耕やしてゐるソヴェト聯邦の農場は殆んどトラクターで全部耕やせるといふ勘定になつてゐる。トラクターが五十萬臺に達するのは何時か？　年々十八萬臺乃至二十萬臺作つて行くとして、現在は十五萬臺位しかないが一九三一年中には二十萬臺になる豫定である。近いうちに一杯の生産能力を出すものと見て、一九三五年頃迄には現在の農地の全體をトラクターで耕やすことが出來るやうになる。さうして毎年十萬臺づゝ壞れて行つても十萬臺づゝトラクターが殖えて行くといふ計算が立つ。だから集團農場が機械化されるといふことは、今はまだ過渡期にあるけれども、これが出來上つて來るとそんなに馬鹿に出來ないのである。

物資の缺乏は如何にして補ふか

更にもう一つ、物が足りない時にボリシェヴィキはどういふ風にして物を造り出すかといふことの例を述べよう。鐵が足りないといふことは、農業機械を非常に澤山作らなければならぬといふ事と同時に、一昨年あたりから非常に强く叫ばれてゐた。五ケ年計畫の豫定によると今年一杯に鐵の一年の生産高を一千萬噸にする譯であつた。昨年、一九三一年に出來た鐵の生産高は一ケ年に七百萬噸といはれて居る。もう一年間で三百萬噸だけ鐵の生産高を引上げなければ

豫定計畫に達しない。五箇年計畫の中では鐵の生産高は割合に遲れてきてゐる。實際鐵が足らなくなつて來たので、古鐵を頻りにかき集めて機械を作つてゐる狀態である。ボリシェヴィキはこの足らないから必要だといふ時には國力の全體を傾け盡しても、目的を達するといふ意氣を示すのを計畫經濟の特徴としてゐる。そこで幾ら掛つても構はぬ、一年半の間に非常に大きな製鐵所を二箇所も作るといふ計畫をたてた。それはウラルの南の方にあるマグニツトゴール、それからシベリアの首都になつてゐるノヴオ・シビリスクといふ所から支線で南の方に下つたグヅネツク盆地、この二箇所に世界最大の生産能力をもつ大製鐵所を建設した。この二つの製鐵所は此の二月には火を入れはじめた。僅々過去一年半の間に、一年間に各々二百萬噸からの鐵を作りだす大きな製鐵所を野ツ原の中に作り上げてしまつたのである。建設費をうんと費つて澤山の人を使つて、しかも野原の中だから皆が行くのを嫌がるので、非常に優遇して住宅設備などもよくして製鐵所を作つたのである。これが今年働きだすと、そこだけで四百萬噸、その他に今までの既設の製鐵所に新しく熔鑛爐を增設して、合計七百萬噸以上、つまり昨年までの鐵生産高より倍以上に、鐵の增産をすることになつた。これはまだ年の初めで實際生産して見ないと分らないが、兎にかく設備はできたのである。かういふ風に統制經濟によつて必要な點に向つて計畫的に國力の總てを傾けるといふ遣り方をしてゐる。

また別の例もある。一九二九年から三〇年にかけてパンが足らなかつたので、パンの增産といふことのために、全國十數箇所に非常に尨大な穀物だけを作る大國營農場を、いづれも一年間で建設した。私は行つて見て、これは驚くべき建設だと思つた。ドン河の岸にある『ギガント』と、それから『ゼルノグラド』といふ二つの穀物農場の如きは約十一萬ヘクター、つまり二十萬町歩以上、端から端まで三十粁位もある大農場が耕作されてゐる。その農場の中には縱横に自動車道路を作つて、その中心になる所には病院から學校や、クラブまで立派な建物の市街ができてゐる。視察に行つたり仕事の打合せに行つたりする人や、その他の人のためにちやんとホテルも出來てゐる。われ〳〵外國人もそのホテルで泊る譯だ。さういふ尨大なものを茫莫たる草原地帶へ作つて、さうしてパンの不足を調節するのに全力を盡す。その代り其の時にはパンならパンの生産を殖やすといふことに全力を注ぐから、他の方には色んな仕事で後廻しになる事も出來てくる。或は砂糖が足らなくなる。去年は砂糖の增産を圖ることに努力した。今

年はまだ肉が足らない。それで今度はアメリカへ技師を派遣して、アメリカ式な屠殺所や精肉所の大建設をやつて、全國を十六區にわけて統一し、非常に肉の增產をはかつて居る。今年のソヴェト聯邦の豫算を見れば直ぐ分るが、農業の部分においては農業の主體である穀物の生產と建設に投ずる豫算よりは、國營の牧畜場の豫算といふものが數倍になつてゐる。この計畫が出來あがれば、先づ肉はみんな滿足に喰へるやうになると言つてゐる。兎にかく或る一つの焦點を摑まへて、それに向つてぐん〳〵全力を盡して解決して行くといふこと、非常に必要な點へ向つて集中的に國の力全體の重心を懸けてしまふといふことが、ソヴェト統制經濟の特徵だと思はれるのである。だからその場合には、統一のない經濟組織の觀點からは嘘だとしか思はれない樣な大事業をやつてのけるのである。もう一つ別の方で統制經濟の力を發揮してゐる例を述べよう。

ドネプロストロイ

いま五箇年計畫としてやつてゐる建設の中で、一番大きな仕事はドネプロストロイである。ドネプル河の中流の水を利用した發電力約三十七八萬キロワットを有する大發電所の建設である。之は五箇年計畫に這入ると同時に著手して、私が昨年の夏に視察した時には今年の五月のメーデーに最初の電流を通はすやうにしたいと言つて居たが既に七月には完成された十月開所式が行はれた。この設計の如きは色んな國の技術家が來てみても之は一つの空想だと言つた。これを建設する時間の短かさ、河の深さと急流、その廣さ、すべてにおいてロシア人流の空想だ、非常な困難を經ても仲々出來上らない、出來上つた所で經濟的に算盤の桁が合ふものではない——斯ういふ評判が非常に强かつた。併し著手して、もう今日では出來あがつてしまつて居るのである。その大きな發電所をどういふ風に利用するかといふことが無統制經濟の國では問題である。全く其處は一寸と鐵道沿線から離れて居るだけであるけれども、一帶は殆んど今まで開發されてゐない野原である。其處へもつて行つて誰が一體その電力を使ふか、といふことが決まらなければ、先づさういふ老大な水力發電所を建設する考へは浮ばない譯だ。併しソヴェト聯邦でやつて居ることには、統制經濟といふ制度のお蔭で、非常に經濟の結合といふことが强く發揮され、利用されてゐる。第一、ドネプル河は昔から河底が深いので黑海から汽船

が溯江してゐる。ちようど今水力發電所を作つてゐる所の地點まで來ると、其處は有名な『ボロギ』といつて、河流の中に非常に岩石が重なり合つてゐて、それから上流へは今まで汽船が通へなかつた。ところで、第二に、その附近は非常に茫莫たる廣い草原地帶であるが、旱魃の際に灌漑をしたくてもドネプル河の岸が非常に深い切つ立になつてゐて、そのために灌漑用水がとれないから今日までは農業が發達しなかつた。今度水力發電所が出來ると其處へ大きな堰が出來るために、水面がぐつと上る。今まで河の岸に立つて居つた百姓屋が水の底に浸るといふ調子になる。今まで重りあつてゐた岩石も水力發電所の建設のために、ダイナマイトで爆破させて取り除けて終つた。其處へパナマ運河のやうな桝を作つて、三段にして汽船をそれから上流へ押上げる設備をしてゐる。之によつて黑海からキエフまで兎にかく可成り大きな汽船が溯江できるやうになる。一方堰き止めで水嵩は高くなつて、それから下流の草原地帶に灌漑をすることができる譯である。一時に水力で、安價な電力の生産ができ、それから水運の開閊、さらに灌漑用水の設備、この三つの問題を一時に解決するといふ計畫でかゝつたのである。さうなるとドネプル河の兩岸の草原地帶といふものは將來非常に富んだ穀物の産地、或は原料品を作る農地になるだらうと思ふ。併し三十七萬キロワットといふ非常に尨大な電力を誰れが使ふか？　これは一寸問題なのであるが、この水力發電所を作ると同時に、その附近の鑛物や石炭の採掘を增し、それから發電所のすぐ傍へ持つて行つて製鐵所や、またはコークスを作つたり、製鐵のために生じて來る副産物によつて化學肥料や化學藥品を作る大きな工場を建設してその生産を全部電氣でやるといふ譯である。實際この發電所が出來ると同時に、その廻りに河の底から壞して來た石を利用して大きな工場や勞働者の住宅を建てゝゐる。發電所が動き出すと同時に其處ではもう五萬人の人口を包括する一つの工業都市が出來ることになつてゐる。全く計畫的に作つたもので、一木一石と雖ども新に其處に計畫的に作られたものばかりである。かういふ風に、色々な工業を結合した新らしい工業地帶が出來る。之れをドネプロ・コンビナートと呼んでゐる。これは統制經濟でなければ、一體そんな大きな發電所を作つて誰れが電力を利用してくれるか當てもないやうな無統制な經濟では決して出來ないのである。統制經濟なるが故に斯ういふ大きなものが一時に出來る、さうして合理的に利用出來るといふ强味があると思ふ。私はさう信ずるのである。それを別々の經濟でコツ〳〵やつて行くのでは、何年かゝ

るか判らないほどの大きな建設を二年か三年のうちに作りあげてしまふ。兎にかく統制經濟の力强さといふものを痛切に感ぜざるを得ないのである。

ソヴェト農村の新らしい姿

私はかなり長いあひだ旅行の時間を農業地方に割いた。その時の印象と、その後に調べたところに從つて、ソヴェト農村の新らしい姿を描いてみる。

農業都市

ソヴェト聯邦でいちばん大きな問題は、いつでも農村問題だ。ソヴェト農村では今やめざましい勢ひで變革が行はれてゐる。この變革のありさまは親しく目擊した者でないと、たうてい信じがたいほどの急テンポで進んでゐる。この變革を創造するものは、社會主義化農業——ソフホズ（國營農場）とコルホズ（集團農場）だ。そこでは生產の革命、生活の革命、イデオロギイの革命が、一しよくたに起つてゐる。

私は、昨年の收穫戰のまつ最中に、北カフカズとウクライナの各地を旅行した。ドン河とド

ネプル河の流域に沿ふこの大平原地方は、パンの主産地だ。大規模なソフホズと、コルホズの中心地だ。商品として市場へでるパンの四割が、この地方で生産されるのだ。そこにはもうロシアの農村の古い姿はない。五、六年前にこの地方を二度も旅行した私にとつても、想像以上の變化だ。もし十四年前の革命當時に外國へ亡命したロシアの大地主たちがこゝへ歸つて來たら、かれらは浦島太郎の三倍もびつくりするに違ひない。

『農業都市（アグロ・ゴロド）』といふ言葉は現在のソヴェト聯邦でもつとも清新な響きをもつものゝ一つだ。ソフホズとコルホズが荒寥たるロシアの舊農村や人跡未踏の草原を新らしい都市と化してゆく。それが『農業都市』なのだ。私はこゝに、ドン河の流域にある二つの大ソフホズと、その近くのコンミューンやコルホズの姿を讀者の前にざつと描いてみたい。

農業都市『ゼルノグラド』（穀粒の都市といふ意）は、穀粒だけの生産のために最近二年の間に建設された巨人的な『國營農場（ソフホズ）』だ。一九三一年には各十萬ヘクター以上の麥の蒔付けをしてゐる。農場の本部を中心に、住宅、大食堂、修繕工場、機械や燃料の試驗所、發電所、學校、病院、劇場、託兒所、郵便局、消費組合、賣店、圖書館、新聞發行所、ホテルまですべて鐵筋コンクリートの建築がぎつしり並んでゐる。いづれも勞働者三千人、總人口五千人以上の純然たる都市だ。二年前まで、廣漠たる草原が馬の放牧に使はれるほか、人間が足を踏みいれたことのない舊カザック兵村の豫備地であつた。ゼルノグラドでは今ソヴェト聯邦第一の農業機械專門の工業大學を建築中だ。三階建ての宏壯な校舍だ。公園には草花が一面に咲き誇つてゐる。

農業機械の修繕工場には、アメリカ人の技師で『ウダルニク』としてレニン勳章をもらつた、マック・ドーエル君が働いてゐる。つよい日光の照りつける涯しのない農場では、タンクに似た何百臺の大型トラクター（七十五馬力）や、遠くから見ると、戰鬪艦のやうな姿をしたコンバインが、物凄いうなりを立てゝ、黄金の大洋の中を縱横に馳驅してゐる。麥の刈入れをしてゐるのだ。農業都市と農場を聯絡する坦道には傳令の乘用自動車や、オートバイが走つてゐる。

農場から停車場へは、刈入れと精穀を同時にするコンバインの三十六噸入りの穀塔から吐きだされる穀粒を滿載した搬車が、數輛づゝ連結して、トラクターに曳かれて行く。長い貨物列車は、機械や建築材料を麥の穂の波の中に浮いてゐる停車場へおろすと、そこに怪物のやうにそびえ立つて、一日に何千噸かを呑吐してゐる撰穀塔（エレワートル）から吐きだされる穀物を腹いつぱい詰めこ

んで歸つて行く。農業都市の收穫期の風景は、農村ではなくて、まるで戰場のやうだ。

農村の新生活

南露サリスク市の郊外、エゴルイク河の岸に、五ケ年計畫とともに生れた『アルチユヒナ』共産農場(コンミユン)は女人の村だ。『婦人に途をあたへよ。だが婦人も國の建設に參加する。』――かういふスローガンのもとに、貧しい農婦や赤色パルチザンの妻たちが集つて、集團農場(コルホズ)の最高形態たるコンミュンを組織した。最初は女だけのコンミュンだつた。共産黨中央委員會婦人部長アルチユヒナ女史の名をとつて農場の名にした。現在では二百三十三人の女と百二十一人の男が團員だが、農場の幹部はすべて女だ。結婚者は農場のあちこちに點在する獨立住宅に、獨身者は寄宿舍に住んでゐる。病人のほかは、中央食堂から食事の配給をうける。女は大規模な養鷄と養豚を管理し、男は十臺のトラクターを操縱して、野仕事をやる。倶樂部も圖書館もある。立派な赤煉瓦づくりの小學校や、幼稚園も託兒所もある。藥局もあれば、專屬の醫者もゐる。大工も煉瓦工も鍛冶工もゐる。人口三百五十餘人の小さな村落だが、ロシアの舊い村とは、文化の水準が夢のやうにちがふ。新らしいソヴェト農村の一つのタイプだ。

新しい農民の姿

モスクワ附近では、集團化された農戸はまだ四〇%以下だ。しかし北カフカズやウクライナの農業中心地では八〇%以上が集團化されてゐる。この邊の集團農場の形態は、コンミュンに到達する前期の農業アルテリ組織が大部分だ。

アルテリは財産の一部を共有化するが、まだ一部を私有のまゝに殘しておく組織だ。大きな村落では五百戸から八百戸の農民が、トラクターや馬を共有財産にして、畦もくぎりもない廣い農場で集團的に働いてゐる。かれらの野良仕事をしてゐる風景は、賑やかで陽氣だ。貧農の小屋は、白堊塗りの小住宅や共同住宅に建てかへられてゐる。氣のきいた集團農民(コルホズニク)は、もう古いロシアの農民が穿いてゐたやうな、白樺の皮でつくつた草鞋(ラプチ)をはいてはゐない。トラクターを操縱するには消費組合(コーペラチーフ)から供給される長靴をはかないと似合はないからだ。かれらの村の生活や、生産手段が變つてくると共に、かれらのイデオロギーも變つてくる。わづかな天候や害

蟲の襲來から、一年間の汗の結晶もメチャ〳〵にされてしまふのが、古いロシアの農民の運命だつた。これを自分の力でどうすることも出來なかつたロシアの農民が、神を祈つて、その災厄から脱れようとしたのは、自然のことだつた。機械力で耕作し、機械力で灌漑し、機械力で收穫し、飛行機で害蟲退治をやる時代になつた。集團農民がもう神様を信じなくなつて來たのは當然のことだ。集團農民（コルホズニク）と個人農民（エジノリチニク）とはその姿や態度をみたゞけで、直ぐ見わけがつく。彼等はおなじ農民でありながら、それほど違つてきた。個人農民があのロシア式の手鎌で、狹く區切られた畑の麥を刈つてゐる姿は、懷疑的で孤影悄然としてみえる。集團農民がトラクターを操縱してゐる顏は、朗らかで自信にみちてゐる。このコントラストは、『集團化へ！』といふポスターの好題材だ。集團農民はもつとも效果的な集團農業運動の宣傳者となりつゝある。

都市と農村の結合

ソフホズやコルホズに周圍から取りまかれてゐる南露の幾つかの工業都市もみた。いづれも最近の數年間に、人口が二倍以上に増してゐるのに一驚した。そこでは現在ソヴェト新聞の流行語である。『ギガント』的な農業機械の大製作所が、次ぎ〳〵に建設されてゐる。總じて都市の大建設がソヴェト農村の變革に應じ、それを促進するためになされてゐるのだといふことがはつきりと眼に映る。昨年の春から作業を始めたばかりのドン河ロストフ市外の『農業機械製作所（セリ・マシノ・ストロイ）』や、ドネプル河畔ザポロジエ市のコンバイン製作所、近い將來に農業電化の大根據地になるドネプロ・ストロイ大水力發電所、まさに外廓の建設を終つて、機械の据付に着手してゐるハリコフ市郊外の大トラクター製作所をもみた。それらは草原や麥畑の中に、大きな工場、住宅、大食堂、劇場、公園、クラブ、圖書館、病院、學校、託兒所、運動場を包括する『ソツ・ゴロド』（社會主義都市）を形成しつゝある。ウラル山中にも、シベリアの平原にも、新しいソツ・ゴロトが生れつゝある。それを見ると、急激なソヴェト工業の發展方向が近代資本主義國の工業發展の方向とまつたく異なつてゐることが、明瞭にわかる。これらの大規模な工業は何らかの植民地や海外の新市場を目あてに建設されてゐるのではない。みんなソヴェト農村のためだ。都會をやしなふ農村のためだ。レニンのいひのこした『都市と農村の結合』を實現するためだ。

石炭の都ドン・バスの中心地スタリノ市へ行つてみても、さうだ。無數の炭坑は、手掘りから機械掘りに改造されてゐる。坑夫のウダルニクは、『自發的産業計畫』を立てゝ、營々と『社會主義的生産競走』をやつてゐる。企業側の立てた産業計畫にたいして、勞働者側がそれ以上の生産計畫を提案するのが『自發的産業計畫』だ。優勝旗を獲得するために、一團の勞働者が生産計畫の突破に努力しあふのが『社會主義的生産競走』だ。これはソヴェト工業一般における勞働大衆の生産的アクチーヴの現はれだ。石炭の增産につれて、製鐵所も熔鑛爐の擴張建設をやつてゐる。それでも石炭と鐵が足りない。現在ソヴェト工業のうちで、いちばん鐵を消化するのは、農業機械とトラクターの製作所だ。農業集團化のおどろくべき進展につれて、農業の機械化が異常な速度で行はれてゐるからだ。

農村の階級闘爭

私はこゝで個々の印象について長く語ることをやめて、もつと一般的な問題に立ちかへらう。ロシアの革命進行過程中で、いちばん後に取殘されてゐたのは農村だ。一九二一年の新經濟政策による退却時代から、一九二八年の『五ケ年計畫』のはじまるまでに、ソヴェト聯邦の工業と商業は、大體において社會主義化された。が、農村だけは相變らず私有經濟が支配してゐた。それまでのロシアの農村の革命といへば、大地主の財産が沒收され、原則として土地が國有化されたゞけだ。そこでは經濟の主體が、やはり個人農民の手にのこされてゐた。農民でありながら農民を搾取し、都市の投機商人と聯絡して農産物の投機をやるクラークといふ、ソヴェト時代の農村上層階級は、このソヴェト農村と都會の間によこたはる溝渠の中で發生し、次第に一つの階級にまで發達したのだ。

五ケ年計畫は明瞭な三つの目的をもつて生れた。

(一) ソヴェト聯邦の工業化
(二) 農村の社會主義化
(三) 資本主義分子の絶滅

がそれだ。この三つの目的は、現在のソヴェト經濟組織のもとでは、其中でいちばん困難な、一つの問題の解決によつてのみ達せられる。それは農村の社會主義化だ。今までの分散的な、

生産率の低い私有農業がソヴェト農村を支配してゐるかぎり、國の工業化は不可能だ。そこでは農産物の餘剰を輸出して、外國から機械を買ひいれる餘裕も出來なければ、工業生産品にたいする農民の購買力も高まらない。農民は自分で作つた物を食つたあとで、都市へ供給すべき物は、ほんの僅かしか殘らない。また農民の私有經濟は生産物の自由取引を要求する。それが都市の經濟に反映するかぎり、ソヴェト經濟體系の中から、資本主義的分子を徹底的に絶滅することは不可能だ。だから農村の社會主義化といふ問題は、いはゞ『五ケ年計畫』の中心的なかなめなのだ。この問題の解決が、他の一切の問題を解決する鍵なのだ。

ところが『五ケ年計畫』の最初の案をみると、農村社會主義化にたいするゴスプランの課題は、きはめて素朴だ。計畫の最後の年（一九三二年）までに、一億三千萬人の農村人口のうち千九百萬人（約五六百萬戸）を集團化し、國營農場の勞働者を合せて總數二千萬の農民を社會主義化するといふ計算だ。ソヴェト農民全體の六分の一だ。これは五ケ年計畫を作案する當時には、ソヴェト政治家のうちのごく樂觀論者でさへも、農村の社會主義化が相當に困難な仕事だと考へてゐた證據だ。農村の社會主義化は、一定の物質的な資源があつて、それの開發と生産をどの程度まで高めるといふやうな、技術的な問題とはちがふ。ソヴェト人口中の七割以上が住んでゐる農村には、すでにクラークが有力な階級として根を張つてゐる。それに中農の上層が從屬してゐる。かれらの階級意識と闘ひ、『俺は主人だ。俺は自分の好きなやうに働いて、自分の好きなやうに收穫を處分するのだ』といふ農民固有の意識と闘はねばならぬ。非常に見透しのむつかしい、複雜な問題なのだ。

だからこの問題を中心にして、ソヴェト政治家の間にいろ〳〵な意見の分裂が起つたのは、當然だ。まづ農村階級闘爭にはいる前に、スターリン等の五ケ年計畫に反對した多くのソヴェト政治家が、門出の血祭りにあげられたのは人の知るところだ。ソヴェト農村における社會主義化のための階級闘爭はかうして一九二八年に始まり、一九二九年――一九三〇年に、最も激烈をきはめた。

クラークの敗北

その後、一九三一年にいたつて、『階級としてのクラークの清算』は一段落をつげた。農村に

おける正味二年間にわたる激しい階級闘爭のあげくに、共産黨中央委員會の根本方針が勝利したわけだ。この階級闘爭はさう簡單に經過したわけではない。その最尖鋭期に、ソヴェト政權が相當な危機に立つたのは事實だ。國内の市場でパンの供給者として相當な勢力をもつてゐたクラークは、穀物を隱匿したり、中農をかたらつて政府のパン買付を拒絶したり、家畜を殺したり、あらゆる手段で反抗した。そのため一九二九年から一九三〇年春にかけて、非常な食糧缺乏がおこつた。このクラークの反抗は、別の方面で大きな反映をおこした。現ソヴェト政權が、農村政策の失敗から挫折するだらうと觀察した黨員の一部や、政府の要職にある技術家や、知識階級の間に動搖が起つた。ソヴェト政權の危機を促進し、その顚覆を目的とする産業黨事件や、メンシェヴイキ事件の發生は、農村階級闘爭の著るしい反映に他ならない。

それから、最近になつて、農業の集團化運動が、決河のやうに進展しだした。これも偶然的な現象ではない。クラークが血みどろになつて敗北したことの反映なのだ。今までクラークに追隨して、貧農や中農下層の集團化運動を妨害してゐた中農の上層が、階級としてのクラークが倒壞したのをみて、急に集團化の方へ轉向しだしたのだ。

集團化戰線の混亂

集團化運動の波は既に一九三〇年からあがりはじめた。全聯邦を通じて、集團化された農戸の割合は、一九二九年の八%からこの年には、二二%以上に躍進した。パンの主産地では五〇%以上が集團化された。この暴風的な集團化運動の戰線ではいろ〳〵な混亂がおこつた。地方の共産黨員が、勢ひに乘じて强制的集團化をやつて、農民の反感を買つた場合もある。集團經營や勞働組織に缺陷があつて、收穫が不成績に終つた場合もある。分配法が不合理なために、集團農民が集團勞働に興味をもたなかつた場合もある。いつたん集團化された農民が、脫退しだした場合もある。いろ〳〵な方面で、缺陷と準備の不足が暴露された。これをみて或る人々は、はやくも集團農業はこれ自身が發達しがたいものだと論斷しだした。日本のソヴェト研究家の一部でも、これは失敗だといふ意見が相當にひろく行はれたものだ。

集團化戰線の整理と進展

一九三一年の春以來、共產黨中央委員會は混亂した農業集團化戰線の整理に全力をそゝいだ。强制集團化を嚴禁した。農民の自由意志による集團化を原則とした。集團農業のタイプを指定した。アルテリ組織の基準をつくつた。勞働の組織や分配の方法を農民の大衆的要求に適應するように改善した。殊に分配においては嚴格な『働き高拂ひ』を奬勵した。そして一九三一年中に全農民の五〇%までを集團化するといふ計畫をたてた。かういふ集團化戰線の整理がどういふ結果をあらはしたか？　一九三〇年の秋に起つた、いつたん集團化された農民の大衆的脫退を喰ひとめたばかりか、一九三一年にはいつて集團化運動が、今度はもつと驚くべき速度で進展しだした。

一九三一年の秋までに集團化された農戸の割合は全聯邦を平均して五八%（一千四百四十二萬戸）に達した。（單位千戸）

	集團化農戸數	全農戸に對する百分比
一九二八年	五九五	二、三%
一九二九年	二、一三一	八、一
一九三〇年	五、五六五	二二、二
一九三一年	一四、四二〇	五八、五

中央委員會の見込みより八%だけ超過したわけだ。現在までには、更に幾分か增えてゐる。この百分比の中には農業の發達してゐない邊域や、工業中心地方も含まれてゐる。もし農業の中心地方である北カフカズ、ウクライナ、ヴオルガ流域地方だけを取ると、どこでも八割以上の農戸と九割以上の蒔付面積が集團化を終つたことになる。これらの地方に對して中央委員會は昨年中に、『集團化運動が成功的に一段落したものと認める』といふ決議をした。

ピラミッドの逆倒

レニンは新經濟政策をいよ〳〵實施すると決心した時に、次のやうなことをいつた。

『ロシアの百姓が、あの痩馬の背中からトラクターへ、それから電化農業へと乘りかへる時に、はじめて社會主義の實現が可能になる。』

そしてその時代のロシアの經濟構成を五つに分類して、圖解的に說明した。

(一)家長主義的な農民經濟
(二)小規模商品經濟
(三)私有資本主義的經濟
(四)國家資本主義的經濟
(五)社會主義的經濟

この一から五までの經濟形態が、下から上へピラミッド型に立つてゐて、いちばん下の、基礎的な層をなしてゐるのは、分散的な家長主義的農民經濟で、いちばん上の、尖端の方にちよつぴりと存在するのが社會主義經濟だ。農村に關するかぎり、最近まで依然その通りだつた。農村の中心勢力は、『おれは主人だ』といふ言葉をいちばん誇りに感じてゐた家長主義的な私有農民だつた。ところが現在、一九三二年のソヴェト聯邦の經濟構成はちようどその逆になつた。工業はほとんど完全に國有化されてゐるし、商業も大部分は國營と協同組合の手に掌握されてゐる。そして最後に殘つた農業でも、いまや全農戸の過半が集團化された。二年前まで農村の中心勢力であつた中農は、集團農業の中へ解消し、階級としてのクラークの姿は消滅してしまつた。農村の中心勢力は集團農民だ。ピラミッドの基礎となつてゐるのは、私有農民の經濟でなくて、集團農民を包括する社會主義經濟なのだ。

スターリンは最近この變化したソヴェト農村の姿を鳥瞰的に說明して言つた。

『ソフホズが山脈の中心となつて前進してゐる。その背後から、コルホズの列が長くつゞいて行く。』

ソフホズとコルホズの關係

こゝで簡單に說明しておきたいのは、ソフホズ（國營農場）とコルホズ（集團農場）の關係だ。この二つの農業形態が、現在ソヴェト聯邦では社會主義農業と總稱されてゐるのだが、その內容はまつたく違ふ。ソフホズは、聯邦または聯邦中の獨立共和國が經營する國有の農業だし、

コルホズは農民の自由結合によつて組織される組合農業だ。その數や耕作面積からみれば、コルホズは今やソヴェト農業の主力形態だが、農業の規模や設備（機械化の程度その他）からみれば、ソフホズこそは最も力づよいソヴェト農業の『巨人』だ。

ソフホズの起りは、革命の直後に、大地主の完備した大農場やその土地を國家の手に徴發したときに、これを農民に分割せずに模範農場として國家が管理したのにはじまる。現在では五ケ年計畫でソフホズの數は四千以上に殖え、經營も擴張したが、前には數もずつと少なく、たゞ豫備地だけ澤山にもつてゐた。

だから新經濟政策の全盛期に、まだ個人農民がソヴェト農村の中心勢力をなしてゐたころには、ソフホズは一種の飾り物で百姓の愚痴の種だつた。『ソヴェト政權は土地を農民に分けると約束をしたが、い〻土地はみんなソフホズにしちまつた。』――これが農民のきまり文句だつた。五ケ年計畫以來、ソフホズは數において激增すると同時に、內容と意義が一變した。ソフホズは模範農場の範圍を脫して、生產農場に發展したからだ。穀產、畜產、野菜、原料品といふ風に、農場によつて分業化されたソフホズが、大仕掛けに生產をやりだしたのだ。そこに自然とソフホズとコルホズの密接な關係がうまれて來た。

最近にもつとも急激な發展をとげた穀產ソフホズを例にとつてみる。穀產ソフホズが特に急激に發展したのは、一九二九年の農村階級鬪爭に際して、パンが缺乏した經驗から、政府が穀粒問題解決のために、穀產ソフホズの發達に全力をそゝいだ結果だ。次の簡單な表を少し注意してみれば、驚くべき大規模な穀粒ソフホズが、いかに急速に建設され發展したかといふことが、一目で判るだらう。

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
ソフホズの數	五三	一四三	一九八
占有面（單位千ヘクター）	五、〇七二	一二、三一二	一四、五六二
蒔付面積	一四〇	一、一四九	四、二〇〇
トラクター（馬力）	五四、七五〇	二四七、一五〇	四三〇、八〇〇
コンバインの數	—	一、六二一	五、九二一
總穀產高（單位千ツェントネル）	八二〇	八、二〇〇	三七、〇〇〇

商品穀量（單位千ツェントネル）	四九二一	四、九二〇	二六、二三〇

かういふ大規模なソフホズは、現在のところコルホズにとつて、最も頼りになる要塞となつてゐる。ソフホズは最新式の農業機械やコンバインや、強力なトラクターを澤山持つてゐる。しかし農繁期に要する人間の勞働力に不足を感じてゐる。コルホズでは機械力さへ十分に使用すれば、人手があまつてくる。そこでソフホズは、自分の耕地でつかふ機械設備の餘力をコルホズに供給する。その代りに、コルホズから餘剩勞働力の提供をうける。かういふ相互契約で、コルホズは自分の機械なしにソフホズの機械で耕作を擴張する。だから、大きなソフホズの附近ほど、コルホズがよく發達する傾向をもつてゐる。そのほかコルホズの機械的根據地になつてゐるのは、機械トラクター配給所だが、それについては後に述べる。

コルホズの諸形態

コルホズには現在三つの形態がある。

（一）農業コンミュン

（二）農業アルテリ

（三）土地共同耕作組合

がそれだ。

この三つの形態のうちの最高形態は、むろん私有經濟制をまつたく揚棄した農業コンミュンだ。但し、近ごろでは農業コンミュンの中でも、勞働にたいする支拂は働きの高に應じコンミュン員の消費の一部を自由にし、貯金を許してゐるのが普通だ。生產手段だけは、絕對共有であつて、脫退の場合にも分割はされない。しかし、食物も衣服も履物も、嗜好のいかんに關係なく同一にするといふ小兒病的コンミュンの概念は、今日では淸算されてゐる。これに對して土地共同組合は、コルホズの最も初期的な形態だ。この形態は最近になつて激減した。

現在、コルホズの基本形態となつてゐるのは、農業アルテリだ。最近になつて共產黨中央委員會は『アルテリは――コルホズ運動の基本形態だ』といふスローガンを揭げた。それ以來コンミュンと土地共同耕作組合が、盛んにアルテリ組織に轉向しだした傾向がある。農業アルテリは財產のすべてを私有のまゝに殘してゐる土地共同耕作組合から、全財產を共有化するコン

ミュンに到達するまでの、過渡期における中間形態だ。生産手段の一定の部分を共有化するが、或る部分は私有のまゝに殘しておく。所得は働き高に應ずるのが原則になつてゐるが、昨年までは、均分制（ウラウニロフニカ）と稱して、その農戸の口數によつて分配したところもある。この均分制は明らかに失敗とわかつて、近ごろでは絶對に働き高拂ひを奬勵してゐる。

農業アルテリがコルホズの基本形態となりつゝあるといふ最近の傾向をはつきり物語つてゐるのは、昨年の五月ヴオルガ中部地方で行はれた調査の結果あらはれた次の數字だ。百二十萬餘の農戸のうち、七十七萬餘が集團化されてゐるが、その九八％以上はアルテリだ。

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
コンミュン	四・六％	四・九％	一・六％
アルテリ	三七・四	九一・四	九八・三
耕作組合	五二・〇	三・七	〇・一

同時にコルホズの内容にも急激な變化がおこつた。コルホズの規模が大きくなると共に、財産の共有部分の割合も多くなつて來てゐる。

	一コルホズの平均農戸數	勞働能力者	共有財産 役畜	共有財産 乳牛	蒔付面積（クタール）
一九二九年	一七	四四	三、二	〇、九	六八
一九三〇年	七五	一七九	五六、〇	一二、一	五五七
一九三一年	一二〇	三三三	九七、二	一四、三	九〇七

（ヴオルガ中部地方の調査による）

三年前までは三十五戸以下の小コルホズが九割八分を占めてゐたのに、今では百五十戸以上五百戸までの大コルホズが二割七分を占め、七十六戸以上の中コルホズが五割以上となつた。これはコルホズの内容の向上だ。集團が大きくなればなるほど機械化された高度なコルホズにうつる可能性が增すわけだ。

大農化と機械化

『わが國は世界で最大の大農國となつた。』

一九三一年六月の共産黨中央委員總會はさう決議をした。ソヴェト聯邦は、大農國としてのアメリカを追ひ越したらうか？　世界の農業恐慌に惱まされて、アメリカが蒔付減縮をやつてゐる時に、ソヴェト聯邦では大農化と蒔付增加をやつてゐる。前表で示すやうに、コルホズは平均百二十戸九百ヘクター以上の大集團農業だ。明らかに世界一の大農國だ。たゞ農業の機械化が大農化の速度に追ひつかないで困つてゐる。農村の勞働力が不足だ。昨年の秋の收穫期には、赤軍を出動させて、ソフホズやコルホズの收穫を助けさせた。アメリカでは昨年中に四百萬の失業農民が都會へ流出したが、ソヴェト聯邦では農村から都市への勞働力の流出がぴつたり停止した。そのために、都市の建設事業に障害がおこつた位だ。この勞働力の不足は、農業の機械化に拍車をかけるほかに、調節の方法がない。最近までにソヴェト農業はどの程度に機械化されてゐるか。

	一九三〇年	一九三一年
勞働家畜耕作	八九・〇％	七四・四％
機械トラクター耕作	一一・〇	二五・六

機械及びトラクター耕作の割合は、一年間に二倍に增してゐる。農業の中心地では、ソフホズとコルホズを平均して、四〇％まで機械化されてゐる。しかしソフホズが九三・五％（前年八八・三％）まで機械化されてゐるのに、コルホズでは僅かに二九・二％が機械化されてゐるだけだ。現在ソヴェト聯邦の農場で活動してゐるトラクターの總數は、十三萬臺餘になつた。レニンが希望した十萬臺を突破した。が、トラクターの數から見れば、まだアメリカの五分の一に足りないのだ。

鐵の飢饉時代

農業機械とトラクターの生産增加といふことは、現下のソヴェト工業の中心問題となつてゐる。昨年の春から生産に着手したロストフ農業機械製作所、ザポロジエ・コンバイン製作所、スタリングラド・トラクター製作所は、いづれも一萬人――三萬人の勞働者をもつギガント的な工場だ。一九三二年の春からは、建設をいそぐチエリヤビンスク、ハリコフ、サラトフ、ノヴオシビリスク等の、同じやうに大規模な農業機械や、トラクター製作所が相ついで生産をは

じめてゐる。ソヴェト工業のうちで、五ケ年計畫の最初の案をいちばん激しく突破してゐるのは、農業機械の製作だ。ゴスプランの計畫表でそれを示さう。

	一九三一年實行成績	五ケ年計畫案一九三一年度豫定との比	五ケ年計畫案最終年度との比
石炭（百萬噸）	八三・六	一五七％	一一一％
石油（〃）	二五・五	一五一	一一七
製鐵（〃）	八・〇	一二三	八〇
一般機械（百萬留）	二、四八三	二一四	一二〇
電氣機械（〃）	九九二	二一五	一一〇
農業機械（〃）	八一五	二三九	一三三

トラクターは一般機械のうちに含まれてゐる。機械生産の激增に鐵の生産增加が伴はないので、ソヴェト聯邦では、鐵の飢饉が起つてきた。そのためソヴェト政府は國内の工場その他に遺棄されてゐる古鐵の資源調査を一齊にやつて鐵の總動員を計畫した。

ロシア人と機械

新たに建設されたトラクターや農業機械の大製作所では、いづれもアメリカやドイツの最新式設備を採用してゐる。技術と熟練の不足から、いろ〳〵な難關にぶつかつて、まだ百パアセント生産能力を發揮できないのは事實だ。私が各地の工場を視察中に感じたことは、生産中に疵物が澤山できたり、機械にしば〳〵故障の起ることだ。職場の前の空地は、疵物の山が累々としてゐる。スタリングラドのトラクター製作所では、昨年の五月中だけで、千數百回も生産機械に故障がおこつた。生産過程が自働化されてゐる工場では、その都度に全職場の仕事が停止して、生産能率を低下する。かういふ現象をみて、外國人のうちには『ロシア人は新式機械を使用する能力をもたない』といふ斷案を下す人がある。それはまだ早計だ。どこの國でも新らしい機械文化を輸入する場合には、同じことだ。問題はこの困難を經驗と努力と熟練によつて克服して行くかどうかにある。一つの工場の失敗が、他の工場の經驗を富ますのだから、決して馬鹿にはできない。

現在ソヴェト聯邦は、工業全體を通じて、外國人の技術家や勞働者を三千人以上も招聘してゐる。ロシア人の技術的能力が工業の發展期に不足なことは明瞭だ。產業黨事件があつてからロシアの舊技術家は極度の不信を買つた。彼等はまつたく發言權がなくなつて、工場の隅つこで小さくなつて縮みあがつてゐた。これも技術家缺乏の大きな原因だ。最近スターリンも、人民委員會議副議長のルズタクも、しきりに舊技術家の利用と優遇を說いてゐる。技術家とその家族に、勞働者と同じ生活上の特典をあたへるといふ法令まで出した。勞働組織や賃銀制度の改善も說いてゐる。このボリシェヴイキ的な柔軟性と努力とが、難關克服の鍵なのだ。

アメリカかロシアか

最近までソヴェト聯邦でつかつてゐるトラクターの大多數は、外國產のものだつた。一九三〇年のトラクター輸入額は二千八百萬ドル、農業機械は千五百萬ドルに達してゐる。ソフホズの農場へいつて見ると、まるでトラクターの展覽會のやうだ。カーター・ピラア（米）、ゴノマク（獨）ウイカース（英）、それからソヴェト製のトラクターが入りまじつて活動してゐる。生產の合理化は機械のスタンダード化によつて行はれる。一九三二年中にはトラクターの數を現在の二倍にして、しかもソヴェト製のもので統一する計畫を立てゝゐる。これは空想だとはいへない。チェリャビンスクとハリコフに建設中の大トラクター製作所が建設を終つて活動を始めた。さうすると、既設のスタリングラドとレニングラドのトラクター製作所の生產能力を合せて、一年に十八萬臺の生產力をもつことになる。年々八萬臺づゝ破損するとしても、四年後には五十萬臺のトラクターがソヴェト農場を縱橫に走りまはるわけだ。これだけのトラクターが今とおなじ耕地の上に働くとすれば、ソヴェト聯邦の農場は百パアセントまでトラクター化されることになる。しかし一方からは耕作の面積も殖えるだらう。

現在ソヴェト聯邦ではトラクターも農業機械も、極度に長い勞働時間を課せられてゐる。アメリカでは一臺のトラクターが一年間に働く時間は、四百時間乃至六百時間だが、ソヴェト聯邦では平均二千五百時間も働らいてゐる。この上にもつと多くの時間を働らかすにはどうしたらいいかといふ研究が續けられてゐる。アメリカで一九二八年に七十萬臺のトラクターが働らいた總時間は、四十八億時間だつた。ソヴェト聯邦では一九三一年に十三萬臺のトラクターが課せら

れた總時間は、五十億時間だ。ソヴェト聯邦ではトラクターが不足だからだといふ問題だけではない。こゝには資本主義經營と社會主義經營の相違がある。私が實際にみたソフホズやコルホズでは、收穫の繁忙期にはトラクターもコンバインも、勞働者を三交代させて一日二十時間以上はたらいてゐた。機械を緊張的に使ふことは、むろん資本の節約を意味する。かういふ風に、機械が極度に緊張した時間を働らきうるのは、經營が社會主義化されてゐるかどうかに大きな關係がある。

コルホズとトラクター

農業の經營形態が大規模になり、それが高度に社會主義化されたところほど、合理的に機械が利用されるのは自然だ。この點でソフホズはもつとも合理的に機械を利用してゐる。それに次いで、中央機械及びトラクター配給所を利用してゐるコルホズの機械利用率が高い。一定のコルホズが專屬の機械を占有してゐるよりは、中央配給所の機械やトラクターを必要に應じて利用する方が合理的なわけだ。個人農業においては、機械の利用率はずつと低くなる。アメリカにおけるトラクター一臺の利用時間がソヴェト聯邦の利用時間よりも目だつて少ないのは、經濟形態の相違に大きな關係があると見ねばならない。經營形態別に示された一九三〇年のトラクター利用時間をみると、その關係がよく判る。

個人經營（一九二八年）	五三三時間
配給所に屬せざるコルホズ	一、三二三時間
配給所に屬するコルホズ	二、〇〇〇——二、二二九時間
ソフホズ	二、五〇〇——三、〇〇〇時間

コルホズがもつとも合理的に機械を利用するためには、機械配給所の網に全體のコルホズが包括されねばならぬ。機械トラクター配給所の網は、全聯邦を通じて、一九三〇年に百五十八であつた。一九三一年には千二百二十七に增加した。しかしコルホズに加盟した上で機械を利用してゐる農民は、四百二十六萬戸にすぎない。今日のコルホズに滿足に機械やトラクターを配給するには、配給所の網を三千以上にふやし、一つの配給所におけるトラクターの力を、少くとも平均千二百馬力（一九三〇年には五百四十九馬力）に增さねばならぬ。

コンバインの威力

前にもいふ通り、ソヴェト聯邦では、農村から都會への勞働力の自然的な流出が停止したので、都會の勞働力需要をどうして滿たすかゞ問題になつてゐる。こゝでは農業の機械化が、失業者を增大するといふ心配は少しも豫期されてゐない。反對に都市の建設にたいする勞働力の不足を調節する意味からも、農業機械化の必要を感じてゐるのだ。私がロストフ附近のソフホズで親しく調べたところによると、五十乃至六十馬力の大型トラクター一臺の耕作能力は、一年間に千乃至千二百ヘクターで、馬百三十頭に匹敵する。收穫に際してもつとも威力を發揮するのはコンバインだ。コンバインの怪物的威力は、刈取りながら同時に精穀をしてゆく點にある。アメリカ製『オリウエイ』式コンバインも、ソヴェト製コンバインも、十一メートルづゝの幅をトラクターに曳かれて颯々と刈つてゆく。一臺のコンバインは三人の勞働者が三交代で操縱し、一晝夜（十八時間乃至二十時間）に七十二乃至八十ヘクターの麥を刈つて精穀してしまふ。ひつきよう、三人の勞働者が、三百人の農民に匹敵する。コンバインが一臺增すごとに、

二百九十七人の人間勞働力が浮いてくるわけだ。アメリカでコンバインが發明されてから、農業勞働者の失業率が激增したといふ話はうそではない。ソヴェト聯邦が、アメリカからコンバインを最初に輸入したのは、一九三〇年のことだ。今年の春から一日に二十臺づゞザポロジエで製作してゐる。いま三つのコンバイン大製作所を建設中だが一九三二年の末までに十萬臺のコンバインを自國で作つて、アメリカを追ひ越す計畫を立てゝゐる。十萬臺のコンバインは、收穫時における約三千萬人の勞働力を解放することになる。農民の仕事の性質も農村の風景も、一變してしまふだらう。

オベスリチカの失敗

最近になつてソヴェト工業の方面でも、農業の方面でも、勞働の組織と賃銀（分配）に關する二つの問題がやかましくなつた。五ケ年計畫が始まつてから、工場やコルホズの間に、自然發生的に普及してきた制度が、生產能率に惡い結果をあたへたからだ。それは（一）勞働の組織における『オベスリチカ』と、（二）分配における『ウラウニロフカ』だ。『オベスリチカ』は、

生産の無休交代制度とともに廣く行はれだした仕事のやり方で、『交代無責任制』ともいふべきものだ。この制度によると、一定の勞働者が、一定の仕事臺なり、機關車なり、トラクターなり、または農場なりに結びつけられて、それらの生産手段の取りあつかひに、個人的に責任を負ふといふことがない。交代に際して、その度毎にちがつた仕事臺なり、何んなりに就くからだ。これはレニンが『國家と革命』の中でいつてゐる、共産制社會における仕事の分擔に似たやり方だ。働らく者の社會的責任感が發達して各人が社會の共有物である生産手段を大切にする場合に、はじめて可能だといはれてゐる制度だ。ところが全般の勞働者や農民の意識が、まだそこまで發達してゐない現段階では、個人的に責任の歸屬が不明なため、機械や仕事をぞんざいに扱つたまゝ交代してしまふので、機械の破損が增したり、生産能率の上に非常な惡影響が起つてきた。

ウラウニロフカ

『ウラウニロフカ』は賃銀なり收穫の分配なりを均分にするといふ制度だ。これも工業生産における集團勞働や、コルホズの間で行はれだした一つの傾向だ。勞働者が一つの生産過程のうちで、團體的に働らく場合に、熟練の程度や能力にかゝはらず所得を均分する。つまり賃銀の等差をなくする。コルホズでは働らいた時間や仕事の高によらず、家族の口數によつて收穫の分配をする。これは、制度そのものが社會主義的傾向をもつてゐるので、工場や集團農場で、一時は或る程度まで普及して行つた。その結果、工場では腕のいゝ勞働者が、條件のいゝ他の工場へ逃げだし、コルホズでは忙がしい蒔付や收穫の時に集團農民の各自が仕事に全力を出さないといふ傾向が起つた。『オベスリチカ』も『ウラウニロフカ』も五ケ年計畫の進展につれて『社會主義的攻勢』といふスローガンから派生した、一種の小兒病的傾向で、主として共産黨内の急進派がこの空氣をつくり出したのだ。

働く者にいゝ生活

スターリンをはじめ共産黨の幹部は、最近になつて一齊にこの傾向を排擊しだした。スターリンは『社會主義の時代でさへまだ分配は働きにしたがつて行はれるべきで、消費にしたがつ

て行はれるのではない。分配が消費にしたがつて行はれるのは共産主義社會が實現した時にだけ可能だ。』といふマルクスとレニンの言葉を引用して、『オベスリチカ』と『ウラウニロフカ』の清算を說き、各自の仕事にたいする責任制度と、働きに應ずる分配制度を奬勵しだした。同時にコルホズの勞働組織と分配について政府は次のやうな指令をだした。

（イ）「ズデリシチナ」（働き高拂ひ）の實施を基礎にして、勞働の組織をすること。

（ロ）「オベスリチカ」を廢して、一定の機械や馬や農具に一定の責任者を結びつけること。

（ハ）出來ることなら、收穫時に一定の農區にたいしても、責任者を定めること。

（ニ）コルホズの働き高の計算を正確にすること。

（ホ）コルホズの收入を適時に正しく分配すること。

『オベスリチカ』と『ウラウニロフカ』の清算によつて、五ケ年計畫の進行中に、勞働組織と分配の方面でおこつた戰線の混亂が整理されたわけだ。働き高拂ひ主義への轉向は、生產の向上を目的とするものだ。これをもつて社會主義的攻勢から、再び資本主義への退却を試みたものだと見る者もある樣だ。併し一方では社會主義的建設の一定の段階に、よく働く者によき消費を保障して、能率を刺戟するといふ手段にすぎない、と主張するであらう。現時のソヴェト經濟制度のもとでは、働き高拂ひによつて多くの賃銀をえた勞働者が、それを蓄積して工場主になることも、貧農がクラークになることも出來ない。增加した收入は、すべて生活水準の向上と消費の充實に向けられるだけだ。だから、資本主義への退却とはいへない。

勞働能率の問題

コルホズはまだ發達の初期にあつて、組織は十分に完成されてゐない。それでも集團農民（コルホスニク）の勞働能率は、個人農民にくらべてずつと高い。したがつて收入も多い。昨年の蒔付に際して、集團農民は個人農民の二倍半の勞働能率をだした。馬もコルホズの馬の方が、個人農民の馬の二倍はたらいてゐる。これは耕地が大農化され、農具も幾らかよいお蔭だが、集團的に働らく方が、人間や馬の勞働を合理的ならしめるといふ事情が仕事の上に反映するのであらう。こゝでは個人の收入に對する慾望の作用が、はなはだ局限的なものであることが證明される。北カフカズ地方の一九三〇年における集團農民の收入は個人農民の約二倍に當つてゐる。

農民營養の向上計畫

ソヴェト經濟の根本的な特徴は、『計畫經濟』だ。いちばん必要な戰線へ、いつでも國の經濟力を動員することが出來るといふ點だ。一九二九年のパンの不足に應じて、パンの增產計畫を立て、これに國の力を集中した。去年はもうパンの不足といふ問題が解決されたばかりか、相當な輸出を計畫してゐる。そして今度は、國民營養の向上といふ問題に轉向しはじめた。現在農業の中心問題は、肉と野菜の增產と、貯藏及び分配の問題だ。そして農民の營養向上といふ問題に、それが强く結びつけられてゐる。

帝政時代から今日まで、ロシア國民の營養物は、主としてパンとジャガ芋だつた。營養價が高くて消化のいゝ砂糖、脂肪、牛乳、卵、野菜、果物にたいする國民の消費率はおどろくほど低かつた。たとへばアメリカの一人當り穀粒消費高（一九二九年）は五プード四分の一だが、ソヴェト聯邦では十二乃至一三プードだ。ソヴェト國民はアメリカ國民の二倍以上も、パンを消費してゐるのだ。その代りに、砂糖の消費量はアメリカ人の七分の一、肉は三分の一以下、脂

肪は六分の一、罐詰は二十五分の一、卵は五分の一、バタは七分の一、野菜は三分の一だ。おなじソヴェト國民でも、農民と都市住民とでは、食物に非常な差がある。一九二八年の調査によると、農民は黑パン（裸麥）とジャガ芋と雜穀を、都市住民の半分も消費してゐない。砂糖のごときは、の代りバタ、肉類、卵のやうな營養物は、都市住民の平均二倍だけ消費してゐる。そ都市住民の五分の一以下しか消費してゐない。農村の社會主義化は、都市と農村の文化生活水準を接近させる。コルホズニク（集團農民）は草鞋（ラプチ）を長靴に穿きかへるばかりではない。砂糖や肉を都市の住民とおなじに要求しはじめる。トラクターを操縱し、機械で耕作する農民は、もはや生活意識においても、都市の勞働者と何ら變るところがなくなつてくる。こゝにソヴェト農村の營養の向上といふ大きな問題がソヴェト政府の前に提起されたわけだ。

大牧場主義へ

砂糖の增產問題は最近二年間にやつと解決されたが、現在は肉の不足が起つてゐる。畜產戰線の整理——これが最も大きな問題となつてゐる。

現在計畫してゐるのは、全聯邦の各地方を二十區の畜産區にわけて、多數の畜産ソフホズを組織し、各區に一ケ所の大規模な精肉及びバタ、罐詰工場を建設することだ。そのために多數の專門技術家をアメリカへ派遣し、見學をさせたり、機械設備の購入を交渉させたりしてゐる。かうして、それ〴〵の地方のソフホズとコルホズの畜産事業を指導統一するわけだ。今までの農村の畜産狀態は、これによつて大變革をする。牛にせよ豚にせよ、雜種が農家の汚ない小屋に分散的に飼育されてゐた今までの狀態から、一定の完備した畜舍に、集團的に生産率の高い純血種のものを飼ふといふ風に變つてゆく。これだけでも舊いロシアの農村の風景は一變する。百姓家のまはりに一二頭の牛が悄然と草を喰んでゐたり、豚が道ばたの水たまりの中に泥だらけになつて轉がつてゐるといふ、ロシア特有の風景は、白堊塗りの畜舍の櫛比と、何千頭といふ純血種の牛や豚が、廣い牧場に群をなすといふ景色にかはつてゆく。

一九三一年度の農業建設の中心が、畜産の發展におかれてゐるといふことはソフホズ建設豫算の割當をみれば、一目でわかる。（投資額單位百萬留）

穀粒ソフホズ	四四〇
畜産ソフホズ	七二八
原料品ソフホズ	一九四
その他	

これは全聯邦的な意義をもつ、ごく大規模なソフホズだけの豫算を抽出したものだ。このほかに、各共和國のソフホズやコルホズにも、國家豫算から多額の畜産事業費が支出される。畜産用の建築費だけを取つてみても、四億六千萬留が支出され、國全體の建築費總額の一一%、農業關係だけの建築費總額の三分の一を占めることになる。結局昨年中のソフホズとコルホズの畜産事業への投資額は十三億ルーブル以上だ。この額は石炭工業と製鐵工業の二つをあはせた總投資額に匹敵する。五ケ年計畫の最初の案からみれば驚くべき飛躍だ。現在でもモスクワ近郊の畜産ソフホズやコルホズの建設は、非常な速度で進んでゐる。その設備は、近ごろモスクワを通過した日本のある專門家が、歐米先進國の畜産設備のうちの最新式なものばかりだと驚いて行つたくらゐだ。

計畫經濟の强味

全國でコルホズの占有する土地のうち、畜産用にあてられる面積は四千五百ヘクターだ。殆んど全ドイツの面積にひとしい。このほかに一九三一年中に新設された畜産ソフホズの數は六百以上にのぼる。既存の畜産ソフホズと合せて千七百になる。そして規模はずつと大きくなつた。かうして個人農民の畜産上における勢力は次第に驅逐されて、社會主義的な畜産――ソフホズとコルホズの畜産が、一年の間に次のやうな大發展をする。（單位千頭）

	ソフホズ			コルホズ		
	一九三〇年	一九三一年	增率	一九三〇年	一九三一年	增率
大有角獸	一、六九〇	三、八三五	二二七	四、〇〇〇	九、〇〇〇	二二四
（內乳牛）	七〇二	一、二六四	一八〇	一、七〇〇	四、〇〇〇	二三五
豚	五七五	二、六〇〇	四五二	一、三三五	五、〇〇〇	三七五
羊	二、九〇〇	四、七九〇	一六五	五、一〇〇	九、〇〇〇	一七六

私がこゝで示さうとすることは他でもない。ソヴェト政府が五ケ年計畫による緊張した建設のうちで、農村の社會主義化と國民營養の問題に、いかに注意をはらつてゐるかといふことだ。それから、いはゆる『各個擊破』の戰術によつて、當面の難問題を一つ〳〵順次に片づけてゆくボリシェヴイキ流のねばり强さだ。パンの不足が起れば、この問題の解決に、國家の全經濟力を傾注する。そして美事に解決する。すると次ぎの問題に全力を移す。そしてまた解決してゆくのだ。その間に國力がどの程度に生產增加に堪へるかといふやうなことも、ちやんと計算して、計畫を立てる。これは何と言つても、他の國では簡單に眞似のできない、ソヴェト計畫經濟制度の大きな强味だ。

最後に一言したいことは、農業の電化と化學化の問題だ。この方面では五ケ年計畫の最初の案の半ばしか實現されてゐない。當面の問題解決に力を殺がれたゝめ、經濟的に計算の引合はない設備が後廻しにされたわけだ。今まで農業電化に用ゐられてゐる總電力は二萬キロワットに過ぎない。一九三二年にドネプロ・ストロイの大水力發電所が完成されると共に、この地方だけで三萬キロワットの電力を使用する大電化農場をつくる。しかしそれにしても、ソヴェト聯

邦の電化農業はまだ試驗時代を出でない。けつきよく農業の電化は、第二次五ケ年計畫の中心問題として殘されるであらう。こゝでは、第二次五ケ年計畫におけるソヴェト農業の展望にも觸れるつもりだつたが、別の機會にゆづることゝした。たゞくり返して言つておきたいのは、もうどんな事があつてもロシアの農村は昔の貧弱な姿に還りつこはない！　といふことだ。想像しがたいほどのテンポで進んでゐるソヴェト農村の變革は根本的だ。それは、制度とか政策とかといふ上部構造的なものゝ影響からだけではなくて、機械とか建設物とかいふ物質的な基礎の上に立つて行はれてゐるからだ。

最終年度の農業計畫

一九三二年度の農業計畫によると、全國にわたり殆んど九〇％までを集團化することになつてゐる。そして新たに農業機械トラクターの配給所千七百個所を新設し、合計三千百個所の機械トラクター配給所の網をもつて集團農場の機械化をはかる。これによつて四千八百萬ヘクターの耕地面積擴張をはかり、春蒔麥の蒔付面積一億二百萬ヘクター、冬蒔麥の面積四千二百萬ヘクターに達せしめる。結局、一九三二年度の國營農場の總耕地面積は千四百萬ヘクター、集團農場の耕地面積は一億八百萬ヘクターに達したのである。

土をいぢらない農民

モスクワからハリコフまで飛行機で四時間かゝる。ハリコフからドン河口のロストフまで、また二時間かゝる。飛行機の旅といふものは、そんなに愉快でもないが、決して不愉快なことはない。時間が非常に短縮されるだけでも有りがたい。落つこちるなんて心配は、何處にでもいゝ着陸場のあるロシアの平原地方では、まづ無いといつていゝ。それに、ぶん〳〵と威勢のいゝモーターが三つも廻つてゐるし……。

ロストフ市から、靜かなドン河の流れに沿ふて、二時間ばかり汽車にゆられて南へはいると『ギガント』、それから『ゼルノグラード』といふ世界最大の國營農場がある。そのどれもが十一萬ヘクタアといふ廣大な耕地で麥ばつかりを作つてゐる。農場の端から端まで三十キロメートルもある。――その農場を私は見物にいつた。去年の夏の收穫期である。

農民は土と親しむといふ常識は、そこでは當てはまらない。農民は太陽の光りと共に働くなんてことも、そこでは明らかに清算されてしまつてゐる。――我々の『農民』にたいする概念は、いつぺんに引つくり返されてしまつた。

第一に、そこでは農民が都會に住んでゐるではないか。一つの農場にはたらく農民の數が三千人である。彼等は、農繁期には大農場の中のところどころにある農區の屯所で暮らしてゐるが、休みの日には農場の中央へ集まつてくる。農場の中央は、アグロ・ゴロド（農業都市）である。そこには可なり大きな役所のやうな農場管理部がある。澤山の技師や何かゞゐる　水道もある。病院もある。學校もある。新聞社もある。農業機械の研究所もある。農業に關する發明委員會もある。農業勞働者の倶樂部もある。劇場もある。大食堂もある。ホテルもある。そのまはりをアパート住宅が取りかこんでゐる。これがソヴェト聯邦であたらしく生れいでつゝある、農民の住む都會「アグロ・ゴロド」の姿である。私はこんな清新な氣持をあたへる町をみたことがない。

農民がどんな風にはたらいてゐるか、自動車にのつて農場のあちこちとドライブして見てまはつた。まる一日、自動車で乘りまはつた。

涯しのない農場は、麥の穗の金の波をうねらしてゐる。縱橫に自動車路でくぎつてある。穀粒を滿載した貨車のやうな大きな車輛を四、五臺づゝ連結して、それを三十馬力ぐらゐの大トラクターがごとごと停車場の方へ引つぱつて行く。或る四ツ角へくると幾車輛はこばれて行つたか勘定をして記帳してゐる番人の小舍がある。

遠くの方からみると軍艦のやうに大きくみえる機械が幾つもいくつも麥畑のなかで、まるで戰爭のやうな響きをたてゝ働いてゐる。それはコンバインである。それに近づいて、私はコンバインといふ怪物的な機械をはじめて見た。一寸した文化住宅ほどもある大きな機械である。十幾メートルかの幅で、麥を刈り乍ら前進する。刈られた麥の穗がズツクの調帶で機械の方へ送られる。機械の中で穗が扱かれて、それから綺麗に籾が剝かれて、立派に精穀された穀粒が機械の上部にあるタンクへ送られる。このタンクには六噸の穀粒がはいる。それが一杯になると例の貨車のやうな連結された搬車がトラクターに牽かれてきて、積みとつてゆく。コンバインはまた前進する。麥の殼は機械のうしろからぱつぱつと吐きすてられる裝置になつてゐる。なんと驚くべきことであらう。アメリカでは、この機械が一臺ふへるごとに三百人づつの農業勞働者が失業した、といふ話である。コンバイン一臺の働く分量は、農民三百人に匹敵する譯である。三百人といへば軍隊の一個中隊以上ではないか。

コンバインの通過したあとは、麥畑が刈りこまれた芝生のやうになつてゐる。そこを、トラクターに牽かれた大きな機械鋤がぐんぐんと掘りおこして耕してゆく。均らしてゆく。それから秋になると、蒔いてゆく。みんな仕事は機械がするのである。

そこでは、農民が土をいぢるといふことはない。農民は機械をいぢるだけである。一晝夜三交代で、農民は七時間づゝ働く。機械は晝も夜もなく、自動車のヘッド・ライトのやうに電燈をつけて畑を征服してゐる。これでは、野良仕事なんといふ言葉はあてはまらない。畑は大きな工場のやうなものである。百姓なんといふ言葉は似合はない。農民は工場勞働者とちつとも違はない。たゞ違ふのは、紡績をつくるかはりに麥をつくつてゐるだけである。女の人も、トラクターを操縱したり、コンバインの機械係になつたりしてゐる。

土をいぢらない農民！　私はさういふ農民の群を、ソヴェト聯邦を旅行してゐるうちに澤山みた。だが、まだ總てのソヴェト農民がみんなさうなつてしまつたといふ譯ではない。これから何

年かの後には、さうならうとしてゐるだけのことである。

だから『都會と農村とは根本的に經濟の組み立てがちがふ』――なんてことは、私には信じられないことになつた。

ソヴェト聯邦の婦人

元氣潑溂たる青年

今度ソヴェトへ行つて（私は一九二五年に歸つてきた）非常に變つてゐると思つたのは、モスクワ市内の商業の社會主義化したことゝ、も一つは一般市民の氣持である。この市民達のうち四十前後の人なら革命前の生活を享樂して來た者もある。こんな人達は昔のことをくよ〳〵思ひだしたり、それに、『こんなことをしたつてどうせつぶれちやふんだらう。』とか、『どうせ資本主義的になつてしまふんだらう。』とかいふ風な懷疑的な人がこの前行つた時はかなり多かつた。それが今度は全然なくなつてゐた。それは一つは、昔のことをだん〳〵忘れてゆくといふことゝ、又一方ではあきらめて來てるのと、それより第一に、建設が目前で行はれてゐるので『自分もやらう。』と思ひはじめた結果である。それに若い人たちは頗る元氣だ。

往來を歩いても芝居に行つても映畫館へ行つても、どこでも元氣な青年男女がよく目につく。實に元氣だ。この人たちは革命の頃十歳以下だつたし、前の生活の經驗がない。そこへもつてきて、飢饉などを通つて來てゐるので、今の生活が非常によくなつて來てゐると思ふやうである。殊に婦人をみて愉快なのは、小さな事に頓着しないで非常に元氣よく働いてゐることだ。日本では、女が活潑になると女らしさがなくなるとか、男が嫌ふとかよくいふが、しかし婦人はやはり婦人だから、ソヴェトの働らく婦人にも何か別の形で女らしさはあらはれてゐる。

日本の婦人と對照してみると、日本の女はやはりまだ殼をぬけ切らない所がある。かなり進歩的な女の人たちでも、まだ〳〵、『自分は進歩的な女ですよ』といはないばかりの嫌味がぶらさがつてゐる。形は新らしさうでも、どこかに作つた女らしさ、日本のいはゆる女らしさがある。

ソヴェトの工場へ行くと、紡績工場、食料品や化粧品の工場では殆んど婦人が支配的に働いてゐる。鐵工場なんかへ行つてみても、婦人は男子と一しよにやつてゐた。もちろん、その場合、仕事は男と女と別れてゐるので、機械を動かすやうな仕事はするが、熔鑛爐のまわりなどでは婦人は決して働いてゐない。女の旋盤工などはたくさんゐた。この方面に二割位は婦人がはひつてゐたやうだ。かういふ風に、色んな仕事に婦人がはひりこんでゐるのは、建設の時代で人手が足りないといふこともあるが、一つは、婦人が仕事に馴れて來たためである。

男と一緒にやつてゐる仕事で、婦人の職場の班長も澤山ある。それに婦人でも、鐵工場の機械製作で、相當、力を發揮してゐるし、農場でもトラクターの運轉だつてする。殊に婦人勞働が主になつてゐるやうな工場では、工場監督から何から何まで婦人である。政治的方面に働いてゐる婦人も、最近かなりふえた。

政治家としての婦人

婦人が、政治家として社會的に活動する場合には、婦人でなくては思ひつけないやうな方面で働くのである。今、大きい都市に急速な勢ひで出來てゐる炊事工場、あの臺所を工場化したところ、あそこでは、何萬人分のスープ、カツレツなどの晝御飯が作られる。ソヴェトでは朝はたいていお茶だし、重要な食事は晝食で一日一回である。この時、うんと十分に、榮養をとつておくので、朝と晩は、パン、お茶だけの補助的な食事である。これは、食料が足りないから

かうしてゐるんぢやなくて、實際、これでいゝのである。この一日一回の食事は、スープ、魚肉、鳥とか乾果物の汁とか、うんと食ふので、私なども、さうやつてきたが、それで十分、腹はへらない。

で、この炊事工場で一日の主要な食事を何萬人分もつくつて、その場所で食べる人もあるし、またほかの色々な工場へ自動車で配給をする。もちろん、溫かいものは、冷めないやうな裝置になつてゐる。かうして臺所での勞働は、家庭から淸算されつゝある。これは、革命後に各アパートメントを中心にして中央食堂を作るといふ計畫よりも、また一歩すゝんでゐる。一昨年頃からこれは計畫されたので、今は到る所の工場都市に出來てゐた。この計畫は、黨婦人部のある指導者――名前は忘れたが、その婦人が、考へて、はじめたことである。

この炊事工場には食堂があつて、そこに所屬した人だけがたべる所と、附近の人は誰でも食べていゝ所とあるが、誰れでも食べていゝ所は幾らか高いやうである。つまり工場でくれる食券でたべればいゝが、その場所以外でたべようとすれば少したかい。かういふ風にソヴェト聯邦の婦人たちは、婦人でなければ考へつかない方面の仕事を、考へて、その組織者となつて實行してゐるのである。

婦人農業コンミュン

も一つ、婦人のやつてゐる方面のことで記しておきたいことは、黨の婦人部長アルチウヒナといふ婦人が、五ケ年計畫と同時に農村の社會主義建設にたいして婦人が如何に貢獻するかといふことを考へた。

そこで婦人の積極的な活動によつて婦人農業コンミュン――共產農團――が全國の農村のうちに相當多くつくられた。この婦人農業コンミュンといふのは、農業の中で婦人が一番しやすい仕事をみつけ出して、主に女が働いて、そこで生產されたものを外國へ輸出し、それによつてソヴェトの建設に貢獻するところの機械を買ふといふ風な方針をとつてゐる。これは、ソヴェト婦人たちが、國をあげての建設時代に、積極的に國家へ貢獻する仕事をしてゐる、いゝ例である。

その婦人に適した農業といふと、例へば養鷄をして玉子を生產して西ヨーロッパへ輸出する

とか、豚の肉や、畜産品や、バタなどを作つて輸出してゐる。これは、五ケ年計畫により一そう拍車をかけるために、婦人がどうしたら建設に參加できるか、といふことを考へた結果やりはじめたことである。

コンミュンのことで、一寸説明しておかう。これは若い婦人たちが集團的にあつまつてはたらく所で、現在の、婦人コンミュンといふのは、今は昔のコンミュンと違つてきてゐるのもある。革命の直後の時分には、コンミュンで働いてゐるものは絶對的な意味で窮屈なコンミュンだつた。今は、このコンミュンでは勞働の單位がきまつてゐて、働きの一部分が賃銀制度になつてゐる。その賃銀はコンミュンの中に預金されてあつて、物を買ふ時には小切手帳をもつてコンミュンの中の賣店で買ふ。初期のコンミュンは、かなり公式的な組織で、きる着物も同じなら、食事も同じで、胃のわるい人も、丈夫な人も同じものを食ふといつた風で、まるで修道院の生活のやうだつた。しかし現在のコンミュンでは、着物にしても夫々、自分の嗜好によつて買ふことが出來るし、勞働賃銀が蓄積されてゐるから、外の店へ行つてもその人の要求に從つて買ふことが出來る。また脱退する時には、その勞働賃銀の預金はもつて行ける。かうして今は初期の窮屈さは清算されてゐる。食堂でも、別に病人の食堂があつて、醫者に相談して個人個人に適した別の食事が出來るやうになつてゐる。

婦人コンミュンは、はじめ女がやり出して、何もかも婦人の手でなされ、議長なども婦人からえらばれるのだが、さうかといつて決して男を排斥するといふことはしない。

このコンミュンの婦人でも結婚することは出來る。もちろん、結婚すれば、住宅や獨立した部屋を與へられて住むことになる。

一般婦人の結婚

一般婦人の結婚に就いていへば、ソヴェトでは結婚と離婚は非常に自由である。離婚する場合男も女も苦しみなく分離することが出來るから、離婚はかなり多い。離婚が自由だといふのでむやみにみだらになつて、誰とでも幾度でも結婚するんだ、といふデマがよくあるが、あれはデマなので、勿論、例外として、はたからみても、あんまり出所進退の明らかでない離合が頻繁すぎるといふやうな場合、やはり社會的に非難される。これは、コムミュニストでも普通市

民でも同じである。つまり自分が思ひちがひで結婚した場合などには、樂に離婚できる。日本などでは離婚の場合、兩方合意でなくてはならないが、ソヴェトでは、どちらか一方に離婚したいといふ意志があればそれで離婚は成りたつ。

家庭は、一つの都市に、昔から定着して住んでゐる人々の家庭はそのまゝに殘つてゐるし、貴族なんかで前の自分の邸の一部に住んでゐるやうな人もある。何かの都合で外の場所へ移つてゆくとき、家族みんなが一緒に住めるやうな住宅を見つけることは困難だし、一緒にかたまつて移つてゆくといふことが、勤めの關係などから不可能なので、獨立した親子など、自然別別に住むやうになる。それに、向ふでは家族の財産制度も、父のものは子のもの、子のものは父のものとは云へないし、不動產を相續するといふこともないから、家族の關係は全く自由である。

たゞ、現在では住宅が不足だからずいぶん住宅難である。アパートへはいつた人でも隨分不自由がちである。家族の數で、住宅の廣さがきめられるんだが、三部屋から四部屋が限度だ。

併し、最近に出來つゝある社會主義都市、たとへば、ニヂニノヴゴロドとかドネプロストロイだとかマグニトゴル、クヅネツキーなどの製鐵所や、農業機械製作所のある所では、いきなり大きな工場や、生產機關が出來たのだから、組織的に、勞働者の住宅區域、配給區域、娯樂區域ときちんときめられて作られてゐる。これが社會主義都市といはれるものだ。今まであつた都市では、全然はじめからこの社會主義都市を建設するわけにはゆかないので、部分的に漸次に改造されてゐる。たとへばモスクワの市外などは、私がこの前行つた時は森だつたやうな所が、全部工場になつて、勞働者の住宅やスタヂオ――これは大きな運動場――が出來てゐたし、クラブも出來てゐた。かういふ風に、モスクワとかハリコフなどでは市の外廓をどんどん社會主義的に改造して行つてゐる。

しかし、何といつても、一番見事なのは、全然あたらしく建設される社會主義都市である。これは工場を中心にして生れつゝある新しい都市の形態だが、も一つ、農場を中心にしてうまれる農業都市といふ一つの都市の形態がある。

農業都市

個人經營でない社會主義的な農場には、國營農場（ソフホズ）と集團農場（コルホズ）の二種類あるが、いま、農戸全體の六割がこのコルホズにはいつてゐる。この點だけでも、集團化の成功といふことが明瞭になつてゐる。もちろん、ソヴェトで、集團化する場合、色んな困難はある。たとへば、ある場所を集團化しようとした時、その中のほんの少數の人がこれを承諾しないときがある。

さういふ時は、仕方がないからその人たちをほかの場所へ追ひはらつて、他の地所をやるとか、シベリアへ送るとかいふことになる。このことは屢々おこる問題である。次に、農業が集團化されるについて、一番大事なことは機械である。機械が十分に供給されるか否か、といふことに、この集團化の成否はかゝつてゐると私は思ふ。が、この機械の供給についてはまだソヴェトは遲れてゐる。この點、重工業を扱つてゐる人は非常に熱心につとめてゐる樣である。何故こんな溝が出來たかといふと、ソヴェト五ケ年計畫の初めには、これほど集團化が成功するとは豫期してゐなかつた。五ケ年計畫の終るまでに、せい〳〵二割か三割かゞ集團化されると思つてゐた。それが現在のやうに急激に集團化されたので、機械製作が間に合はないのである。

今のところ、集團農場の機械化された部分は三割であらう。五ケ年計畫のすべての事業のうちで、農業機械の生産が一番豫定を超過してゐると思はれる。つまり、豫定の三倍位も、この機械の生産率が上つて、最も高率といつていゝ。ある人々は、ソヴェトで今鐵が足りないのを見て、一番力を盡してゐるのは軍器の製造だといふが、私がソヴェトを廻つてみた所では、農具、つまりコンバイン、トラクターといふやうなものゝ生産に一番力を注いでゐる。

コンバインといふのは、畠における一種の軍艦のやうなもので、ソヴェトでは、今盛んに、之をつくつてゐる。婦人のコンバイン操縱者も相當に澤山にある。

かういふ風に集團化され、機械化された農場をみてゐると、百姓が體をかゞめて、手で刈りとつてゐる姿など實にものあはれな、一種の寂しさを感じる。それに反して機械をあやつる婦人の姿は潑剌としてゐる。

さて農業都市についていへば、これは、國營農場『ギガント』の例だが、農場の中心になる所は、停車場の傍で一つの町になつてゐる。この町はどういふ風にして出來たかといふと、約一年位の間に、ほんとうの野つぱらに出來たもので、人口は三千位もあるであらう。鐵筋コンクリートの建物もあれば、新聞社もあり、農業大學もあり、學生は三百人位で、實地に教育し

てゐる。つまり町にある農業の教育機關を農場の中に移してしまつたわけだ。

そこには百姓の寄宿舍があり、小さいけれども病院、劇場、クラブ、ホテル、中央食堂、小學校もある。日常に必要なものは何でも備へてある、第二次五ケ年計畫にはこの農場の集團化はます〳〵發展するであらう。機械の生産もたかまるであらう。それに今まで集團化された農場の組織も一そう確かにされるであらう。

機械生産がたかまれば、社會主義建設の中で、一番むづかしいとされてゐた農業社會主義建設が可なり多くの可能性をもつてくることになる。機械生産で、農具を十分に供給しさへすれば、農民のイデオロギーをたかへることは一番樂ぢやないかと思ふ。結局、能率を高めることは、一緒に働くといふことのみではなく、機械化されるといふことである。最近の豫定だと、第二次五ケ年計畫の終りまでには、殆んど全體が機械化される筈である。全國の農場に五十萬位のトラクターが働いて、十萬のコンバインが麥を刈るといふことになつて、百姓はたゞトラクターを操縱したり、修繕したり、運搬したりする仕事だけになり、農村と都會との相違――つまり、農民と勞働者といふ階級や仕事の差別はなくなつてしまふと思ふ。そこでは、今迄の百姓のやうな土にまみれて働くといふことは一切なくなつて、機械が農産物を生産するから、農村も一つの大きな工場と同じだといふことになるのである。したがつて男も女も機械を扱ふことさへ出來れば、筋肉的な力の差違は能率の上で問題にならなくなつてしまふ。

ソヴェト聯邦の子供

『文化と休息の公園』の托兒所と幼稚園

どこのうちでも、二重窓のめばりを除いて、窓のひとつを外して、若葉をわたつてくる微風を部屋の中へさそひいれる支度をしてゐる。モスクワ河の向ふから青嵐が吹いてくる。さうすると、もうぎきに夏が訪づれてくるのだ！

『馬鹿にいゝお天氣ぢやないか。今日から文化と休息公園が開かれるんだぜ！』

こんな日に部屋のなかに引つこんで統計をいぢくつてる奴があるか、といふ眼つきをしてS君が誘ひをかけた。

『さうだなあ、朗らかに遊ぶ人たちを見物にゆくか。』

私たちはクロポトキン街の家を出て、すぐ左へ折れてモスクワ河の岸をつたつて、やがて橋をわたつた。午後二時だつた。

文化休息公園の入口は人でいつぱいだつた。こゝは大博覽會のあとだ。劇場がある。映畫館がある。サーカスがある。木馬館がある。鏡の中へはいつて出口のわからなくなる八幡の籔がある。大きな風車のやうな物に人をのせてくるくる廻る仕掛もある。農業や工業の生產品やダイヤグラムを並べた展覽會もある。五ケ年計畫の進行狀態を電燈のダイヤグラムや、地圖で一目で判らせる樣にした大きな壁もある。衞生博覽會もあれば、『無神論者の隅』もある。モスクワ河の岸には貸ボートがある。その向ふには大競技場がある。

『僕はこゝの托兒所と幼稚園を見たいんだが……』

今度は私がS君に誘ひかけた。二人はウォーター・シュートのある池の緣をまはつて、北側を小さな林でつゝまれた托兒所へいつた。所長はオリガ・デミトリエヴナと呼ばれる四十前後の快活な婦人だ。

『こゝへ子供をあづけにくる親たちは、五日に一度の休日を利用して、自分たちがこの公園で一日ゆつくり遊んだり休息しようとする人達なんです。』

さう言つて話してゐるうちに、受附へは三組ほどの母親と子供があつまつた。乳呑兒と、三四歳ぐらゐの男の兒と女の兒だ。この子供たちがどう扱はれるか、私たちはそれに從いていつた。

まづ醫務室へつれて行く。そこですつかり衣類をぬがせて身體檢査をする。健康狀態や惡い病氣があるかどうかを調べる。それから、男の兒には男の兒らしい、女の兒には女の兒らしい托兒所備へつけの洗濯したての輕快な子供服をきせる。この一樣な子供服には可愛らしい金屬製の番號札がついてゐる。

乳呑兒は乳呑兒の組へ、そのほかみんな年齡によつて組をわける。一と組が八人から十人までに分けられて、一人づつの保姆がつく。

保姆は『さあさあ、ヴオローヂヤ、それからカーチヤもこつちへお出で』といふ風に慣れた調子で名をよんで、庭の遊び場へつれてゆく。

庭には、砂山がある、おもちやがある、すべり臺がある、小さなブランコがある。二歳から五歳ぐらゐまでの兒が、女も男もいつしよになつて遊んでゐる。新らしくやつてきた子供は、仲間に紹介される。性質によつて少しはにかんでゐる子供もあるが、度々托兒所へきた經驗のある兒は、にこにこして直ぐ仲間になつて遊びだす。

『弱い子供は早く遊び疲れます。日光の下でながく遊んでゐるのを嫌がります。さうすると日蔭へいれて休ましたり、部屋の中で晝寢をさせたりします。』

みんな朗らかに遊んでゐる。托兒所に慣れない子供はよく一人で幾つものおもちやを獨占したがる。

『これは僕のだ！』

自分がいつたん手放したおもちやをほかの子供が手にとると、さういつて抗議する。さうすると托兒所になれた子供は——

『これは僕たちのだ！』

と、手で自分たちの遊んでゐる仲間の上へ輪をかいて、それが仲間の總ての者に屬する事を教へる。かうして、初めて托兒所へはいつてきた子供はその社會性を鍛へられてゆく。

乳呑兒は大きな部屋の中で、眠つたり、足をばたばたさせたり、溫かい牛乳をのんだり、少し大きい兒らは柵の中を匐ひまはつたり、よろよろと立つたりして生活してゐる。

この托兒所の隣りにある幼稚園には五歳から七歳ぐらゐまでの子供たちが集まつてゐる。彼等の生活は、托兒所の子供たちよりずつと規律的だ。遊戯も、體操も、それからやさしい本の讀み方も時間できめてやつてゐる。

やがて日の暮れが近づくと、親たちが子供をつれにくる。夫婦づれで一日ぢう芝居を見てきた者もある。向ふの森の中でゆつくり讀書を樂しんできた者もある。若い親たちの中にはボート漕ぎやテニスに半日を送つてきた者もある。この托兒所と幼稚園があるために、親たちは貴とい休日を樂しく休息することができる。かういふ組織は、いまやソヴェト聯邦のどこの都會にもできゐる。

次代人若きピオネル

——(ピオネルの歌)——

ダロイ・ダロイ・モナフ

ダロイ・ダロイ・ポポフ！

ピオネル・ピオネル・ピオネル・ムイ！

——(太鼓の音)——

ばらばん！　ばらばん！　ばらばん、ばん、ばん！

——(ピオネル隊長の號令)——

一(ラス)、二(ドウワ)、一(ラス)、二(ドウワ)。左(レーウィ)！　左(レーウィ)！

モスクワの街頭は、ピオネル隊の行進によつて、明るくほがらかに彩られる。

赤色少年隊！　彼等および彼女等の姿は輕快だ。彼等のおほくは帽子をかぶらない。襟には一様の眞紅のプラトークをむすんでゐる。健康で、ほがらかで、集團精神に鍛へられてゐる彼等である。

ピオネルは、ソヴェト聯邦における赤色少年隊のことである。この國の教育制度は一般に男女共學である。どんな場合でも性の差別をもうけてゐない。だから少年隊も、少年少女の區別なしに、一つの團隊に統一されてゐる。ソヴェト聯邦の共産黨青年團同盟がレニンの名を冠してゐ

るやうに、少年隊も『レニンの若きピオネル』といふ名をもつてゐる。

バルチック海から黑海まで、ドネプル河畔から太平洋岸まで――全ソヴェト聯邦の都會といふ都會、農村といふ農村には、どこへ行つてもピオネル隊の波である。

――ばらばん！　ばらばん！　ばん、ばん！　ばらばん！

彼等は鼓手を先頭に立てゝ隊伍を組んで行進する。デモンストレーションの時でも、ピクニックに行く時でも、博物館の參觀に出かける時でも――。かうして彼等は、社會的に政治的に、道德的に訓練され教育される。未來の共產制社會をつくる『次代人』として鍛へあげられる。

ソヴェト聯邦で最初にピオネル隊が生れたのは一九二一年のことである。たちまち全國にひろがつて、今では百八十萬人の隊員をもつてゐる。隊の組織は少年の自治を原則とする。ピオネル隊の指導精神は、社會的勤勞教育を施こし、集團生活の習慣と訓練、社會主義の建設に必要な協力團結の精神と規律を涵養するにある。また實際的知識や政治、文化、體育上の教育を與へるにある。ピオネル隊の指導は、ピオネル隊の本部を通じて共產黨青年同盟（コムソモール）員がやつてゐる。ピオネルの細胞は生產機關や、子供の家、倶樂部のうちに設けられたピオネル隊である。

農村では青年同盟のうちに附屬してゐる。ピオネルは、年齡にしたがつて班と稱する八人か十人づつのグループに分れてゐて、それが四、五十人に結合したものを『ピオネル隊』といふのである。班長はピオネルの中から三・四ケ月ごとに選擧できめる。ピオネル隊には『隊のソヴェト』がある。班長とそれから隊長と副隊長がソヴェトの會員でピオネル隊の仕事や遊戲のやり方などを自分たちで相談してきめる。

ピオネルのモットーは『勞働者の事業を護つて闘ふ決心をもて！』――答へ：『決心はいつでも！』……。

ピオネル隊へは十歲から十六歲までの勤勞階級の子供たちが加盟する。あらたに入隊したピオネルは二ケ月間準備教育をうけてから、全隊のピオネルと隊旗の前で、モットーを守ることを誓ふ儀式をやる。その後、ピオネル隊のうちに八歲から、十歲までの子供によつて『十月革命の子』の隊が組織されてゐる。これはピオネル隊のかはいゝ候補生だ。

ソヴェトの家庭問題を語る

本篇は某誌のためにソヴェトの婦人、子供、家庭の問題を語つたもの。
質問者（A）女史と著者（B）の對話である。

子供國有問題

A　この間、ソヴェト五ケ年計畫のお話を伺つてから、ぜひもつといろ〳〵伺ひたいと思つて居りました。

B　どうぞ、何でも。知つて居ります事は欣んでお話します。

A　戰時共産主義當時とかきいて居りますが、子供を國有にするといふ事がありましたね。私共からきくと自分の子といふ觀念を捨てゝ、母親も入れはするがとにかく保姆に任せるといふ、從來の親子關係とは違ふやうにとれたのですが。

B　當時女の國有といふ事もいはれたでせう。何れも勝手に國有といふ言葉を用ひたので、家庭陶醉者に訴へる反ソヴェト側からのデマですね。

子供國有も同じ事で、その噂の起りは『子供を大切にせよ、ヤンガー・ジェネレーション、卽ち未來の建設に當る子供は國の共通の寶であるから、大切にせよ、社會が養ふ義務がある。』といつたのにあります。それに當時は物資が缺乏してゐて、親が我子を養ふ力がなかつたのですから社會の力で養ふ他はなかつたのです。

A　全く社會の事情による事ですね。

B　日本でも地震の時、壯健者より子供にまづ與へようとした、それと全く同じです。

子供は寶とは日本でもいふ言葉ですが、レーニンも『子供は社會の寶』といつてゐます。然し一度も親から子を取上げて一つ所にぶちこまうとはしなかつた。それとは全く別な意味で、子供の社會性を問題にしたのです。つまり個々の家庭に分れて教育したのでは、そのイデオロギーは階級的で、個人主義、利己主義が基礎となるから、どうしても子供には協同的社會的な精神をやしなふ教育法をせねばならぬとした譯です。

但し共産主義がまだ本當に確立されてゐない今日、まだその成績が十分に擧つてゐるとはいへません。

また一九二七年に制定された新親族法の中には兩親は『子供を扶養する義務がある。』といふ家族法がある位で、決して家族制度を認めないといふ所まで行つてはゐないのです。

A　それでは子供國有はうそだつたのですね。然し一度もそういふ風に思はれる樣な事はなかつたでせうか。

B　兩親の手から强制的に子供を奪ひ取つたといふ事は、ソヴェト時代になつてからも一瞬間たりともありません。但しブルヂョア國の親の權利と、ソヴェトの親の權利とは少し違ふでせうね。それは『子供は社會の寶』といふ考へから、親が子に對して害があるといふ時に、裁判で決定した後で親から子供を引離す事はあるのです。

A　あゝそれではさういふ事からデマが出たのでせうね。本當はよい意味で子供保護の爲めですのね。

B　親が大酒家で、子供を育てるのに不適當だといふ場合などは、裁判にかけた上で『子供の家』や『子供の共産學校』に入れます。

『子供の共産學校』は寄宿制度で、平等に共産主義イデオロギーで育て上げます。『私のもの』といふ事はなく、『私達』、『我々』といふ精神に、教育するのです。玩具でも何でもさう出來てゐます。

A　そこに收容される子供は、孤兒とか、親から離された連中ばかりですか。

B　親のある子でも親が希望すれば入れます。然し自發的に子供を其處に送つてゐる親は、黨員中でも少數の進步分子ですね。孤兒は『子供の家』の方に送ります。これも皆國費で、やり方は似たものです。これでこそ國家の子供なので、こゝで子供は、技師、學者等それ〴〵子供の才能に適して教育されます。浮浪兒から一流の役者になつた例もあります。何しろ革命當時は十歲の子供が今年では二十五歲になつてゐるのですからね。

A　子供國有の概念の相違なら本當によく解りますわ。全く親にとつては自分の亡き後、子供はどうなるかといふことは重い〳〵負擔ですからね。

B　この問題に限らず全體的にソヴェトの政治家は今まで革命を考へ、プログラムを持つて

ゐた。その考へに從つて今やつてゐるのだから、公平にみれば、惡い事は少ないのです。勿論實際にやつてみて巧くゆかない事はありますが、何しろ命を的にして新らしい政治を築いて來たのですから、その中に惡い所を捜すのは本當は困難だと私は思ひます。

A　どうしてまたあの樣に間違つて傳へられたのでせう。

B　野蠻だと思はせることが必要だつたのでせうね。世界中、ソヴェトを恐がつて叩きつぶさうとした頃のことですからね。然し確かに、親子で樂しむといふ時間は少いやうですが、さういふことを喜ぶのは、革命前には、矢張り中産以上の家庭で、つまり小ブルジョア的なたのしみなのですから。今日では、ソヴェトの子供は學校から歸れば、ピオネル隊の教練に行きますよ。

A　今の子は、それが普通で、淋しがらず、寧ろいきゝしてゐる譯なのですね。

B　子供は明るいです。それはすれつからしと見える位、大人の前で人おぢしませんね。

A　その點問題ではないでせうか。子供の社會性といふか、少し早く社會をお互の間にもちすぎるといふか、なんですか、おつとり育つ事がない樣に思へるのですけれど。大人との接觸が多すぎはしないのでせうか。

私にも經驗のある事ですが、子供の時代には、一人力の强いのがあると、周圍のものはみぢめなのです。まあ壓迫を感じるのですね。で、その空氣のために皆が滅入る、支配されるといふ樣な事があります。かういふ事に監督者がゆき屆くでせうか。それに品性の問題なんかもどうなのでせうか。

B　品性の鍛錬される機會は多いですよ。頭の惡い子は勿論引張られ易いでせうが、それは卽ち大衆の役目を受けもつ譯で、頭のよい子は指導者になるのです。これが先へ行つて伸びる機會をあたへるでせう。

A　それではみぢめなのは一生みぢめではないでせうか。學校の間はそれでも、歸ればうちで大將になれるといふ風な、のびる時間が與へられないのではありませんか。

B　日本の强い子、弱い子はさうですね。だが、ソヴェトではよわい者いぢめは大變やかましく禁じられてゐます。だからリーダーは餓鬼大將ではなく、本當の指導者なのです。自分のつよさ、頭のよさを利用して、相手を壓迫する事はそれはやかましく戒められてゐます。國際問

題などの教育にこれを用ひて、强者が弱い者をいぢめるのではない、進歩分子が、遲れてゐる者を引張つてゆく事はあるが、これはリードだ、と敎へてゐます。

敎育が、親なんかの個人的な希望でなく、集團敎育で、公平な委員會で方針をきめますからうまくゆきます。生れつきの個性に從ふ仕事に、子供はふりむけられ、頭のよい子は數學、機械、哲學などに進み、普通の子は凡人として、やさしい勤勞につくのです。そして高い敎育を受けたから偉いとか賃銀が高いとかいふ事は將來なくなる筈ですから、才能は價値評價の對象にはならず、それをば伸ばして社會が利用する事になります。確かに學問嫌ひの子に學問をつぎ込むといふ、今われ〳〵の周圍に在る事實を私達は尤もだとは思へないですね。

A　それは全く無理です。親も苦しむし、子も辛いですね。

B　日本に永くゐたスパルウキン氏など親として偉かつたですね。自分はあの樣な學者ですが、子供は子供の志望通りに何にでもしましたよ。

それ〳〵の才能に從はせるのは本當ですよ。立派な機械を作るのも、それと違つた仕事をするのも、それ〳〵の人間の費やすエネルギーは同じなのですからね。

日本の樣な、個人的な敎育、家庭的敎育をやるのでは、親は忙しいですね。將來の社會で同列な氣持で持場々々について働らける人間を作るといふことは刈り込んだ木の樣にする意味ではない。出來るだけ差別的な考へを少くする必要がある。この點がすぐ誤解されるのですが、平等的な生活、敎育の機會均等は、人間を同じ型にはめると思はれ易いが、それではなくて人間の個性は認めるが、利己主義、個人主義を排除する。それ〳〵個性によつて仕事を擇ぶことは自由だといふのです。

試驗制度もあつて、工場でも優れた者は、周圍が押上げて工場の指導者（共產黨と勞働組合が連絡して、民衆の世話役をつとめる機關）が、この工場においては惜しいから、リーダーとして敎育すれば幹部になれると、話しがまとまればその人を勞働組合の幹部養成學校に入れるといふ決議を大會に提出し、通れば入學させ、卒業すれば、勞働組合の組織の方に働かせる。そして段々に最後には大きい仕事にはたらく機會もあるといふ譯で、合理的に考へられます。

A　入學難といふ事はないでせうか。

B　ありませんね。學校が少い事は事實ですが、どし〳〵增加してゐます。募集人員も大體

きめてゐます。それに、上の學校にやらなくてはみつともないなどゝいふ事はなく、試驗も競爭試驗ではなく、平素からの選拔ですから。その時に階級的手加減といふものがない譯ではないが――つまり勞働者に優先權があり、次で學者、例のネップマンなどは後まはしといふ事はあるが――、又これが一面からみれば差別に見えますが、これは今迄の反動なので、次の五ケ年計畫では階級といふものはなくなる豫定なのです。

A　子供は平均どの位から勤勞層と認められるのですか。

B　十七歳です。だから十六歳までは仕事は出來ないのです。使ふことも出來ないです。

A　男女ともですか。

B　男女ともです。女に對する保護的な法律もありますけれども、仕事の上では男女は無差別です。女でも能率が高ければ、タイピストでも男より女の方が能率が高ければ、つまり一分間に何字たゝくといふ標準があつて、それで賃銀のカテゴリーをきめるのです。タイピストの男と女と競爭して女が能率が高ければ、女の方が賃銀が高いのです。ちつとも男女の違ひはないですね。

A　義務教育といふやうなものはどの位ですか。

B　一昨年頃から義務教育が施行されたのです。都會では七年制、農村の初等學校は五年でしたが、それから外に九年制のものもあります。九年ですとそれを出て直ぐ專門學校に入れる譯です。

A　それはどういふ人が入るのですか。

B　それは大抵上の學校へ入らうとする人が入るのです。普通の法律とか醫學といふものをやる人は、七年に入つてからまた中學と同じやうな學校を四年やり、それから大學に入るのです。それから義務教育制度も、ロシアにはいろ〳〵な民族があり、文化の程度も違つてゐますから、實施の出來ない地方では義務教育を一年延期するといふ法律もあります。

婦人の生活について

A　次ぎに婦人の生活について伺ひたいのですが。少しは讀み嚙つても見ましたが、工場中心、農村中心のやうで、よく解らない點が多いのです。一體私共のやうな階級――中產の下と

いひませうか、サラリーマンの妻たちは、革命によつて、どう解放されたのでせうか。大きい意味での解放はわかるのですが、直接の生活ではどんな風にこれを受けたのでせうか。今迄とはどんなに違ふか、それを伺ひたいのです。

B　客觀的にも主觀的にも大きいですね。婦選も得たし、法律上一切平等な權利を得たのだから、それは大きいですね。姦通罪や夫の側からの同棲または夫婦生活の强要などゝいふ事からも解放されたのだし、離婚も自由だし。

だが、上流の婦人は勿論困つたのですよ。第一に彼女の依存する主人と召使の地位がひつくりかへつたのですからね。中流の學者、技術者、文藝家などは餘り區別はないですね。それは食物などは革命後に一時は缺乏してゐてみじめではあつたのですが、それらは現在では餘ほど恢復して來てゐますし、中流の勤人は、勞銀も今の所、勞働者よりよい月給をとつてゐます。一番よいのは技術家、いはゆる專門家達で、この連中の家族のうちには、今でも白粉をつけて芝居を見に行つたり、例の密輸入の靴下なども穿いてる人が澤山ゐますよ。

A　ある人々には輕蔑されてゐますか？

B　餘り輕蔑されてもゐないですね。然し今少し堅實な人々は、革命といふあふりから、衝動をうけて働らくやうになりましたね。革命で夫が殺されたり、遠くの方へ出張中に內亂が起つて、交通が杜絶して歸れなくなり、そのまゝ他の女と同棲を初めたりした例もあり、いろいろな大混亂にあつた。しかもその中で、糧道は絶たれるといふ、苦勞をつぶさになめたのですから。

A　日本でもあの大震災の時には、中流階級の婦人もお團子を賣つたり、すいとんを賣つたりしましたからねえ。

B　局部的な異變の場合でも、それですもの。革命は全國的です。働く才能が女にも强まつたのは當然です。

A　それから、婦人の收入も自然多くなつたわけでせうか？

B　諸官廳や、政府でやつてゐる會社などに働く女は隨分多數です。祕書役のやうなことは殆んど女の仕事みたいになつてゐます。

A　賃銀は男より廉いのですか。

B　ソヴェトでは原則としては、能力で賃銀をきめるので性の如何によつて差はつけません。簿記係、タイピストなども資格がきめられてゐて、才能の同じものは賃銀も同一です。事務員なども、等級がついてゐて、實力試驗で、等級を登錄する事になつてゐます。だから、働いてゐる間に實力が認められゝば、組合の現地委員會が、その試驗をするのです。勿論實力がなければ、試驗で等級を落される事もあります。

A　丁度、一等看護婦、二等看護婦などゝいふのと同じですね。

B　然し、男の一等、女の一等といふ風に性の差別でわけてはないのですよ。

A　それは本當によろしいですね。

B　然し、現實ではまだどうしても女の方が能率の低い事が多い。これは後から仕事に入つて來たのですから、むしろ當然の事です。

A　それは或時期が來れば、除かれる事ではありますまいか。

B　えゝ。それで結局は、女に適したこと、男に適したことゝいふ風に仕事の分野が、それぞれ部分的に出來てくるでせう。

A　それもある程度時期が經過すれば、當然のことでせうね。

B　女の才能の現在低いことは、在來の家庭的な因襲が影響してゐますね。これには調査が出來てゐます。

勞働者や勤人が夫婦共稼ぎの場合、私生活と、公生活との勞働を併せると、女の方の負擔がまだ〳〵多いのです。普通公生活では、男も女も同じに働く場合が多いのですが、歸宅して臺所の仕事はなるべく妻にさせる。子供の世話も妻にさせる事が多い。勿論これは前の時代からの因襲ですがね、まだ完全に片づいてはゐないのです。

A　働らく女が多くても、さうなのですか。

B　さうです。だから女は自分の能力を　百パーセント公生活で發揮する事が出來ない場合が多いのです。女を家庭の絆から徹底的に解放した後で試驗してみなければ、本當の女の能力はわかりますまい。

そこで、近ごろのやうに炊事工場を盛んに建設して、個々の家庭から臺所を廢止すれば、女の負擔は餘程減ずるでせう。女の生活の缺陷を女自身が發見して政府や黨や社會に對して、女

自身の立場から直接に改善を要求するようにしてゐますよ。

共同食堂のこと

A　長い間の因襲から考へると、大食堂の食事は如何なものでせうか。個人とその好みといふものもあると思ふのですけれど。

B　革命といふものは、大きな熔鑛爐ですね。そこを通りぬけると人間が鑄直されるから、そういふ問題も案外簡單に解決されるのですね。食べるといふ事が趣味として扱はれる場合は食事の劃一主義はつらいでせう。

所が革命の起つた場合にはそういふ趣味のための機關や機會は失はれたのです。そしてさういふ時代を通過して來た人々は、兎もかくも樂に食べられゝばよいのです。それに實際には、このごろでは食堂で出る食物だとて、同じ物ばかりではないし、病人には病人食堂も出來てゐて、醫師の證明を持つてゆけば、病狀と體質に適したものを食べさせてくれるのです。だから病氣をして醫者に金を拂つたり、食養生をやつて支出の嵩むといふ心配の多い制度より氣安いでせう。

尤も革命の直後には、食事に對してもかなり小兒病的に考へた時代もあつたやうですが、今では物も大分豐富になつて來ましたから、趣味も多少は加へられて來てゐます。つまり同じ榮養價のとれるものを、種類は數種作つてあつて、食べる人達はそのメニュウから好きなものをえらぶ事が出來るのです。

汽車の食堂などは、時間でちやんと定つてゐます。昔は小人數の人々のために、二三十種も料理が調理され、一人が何時までも長い時間坐りこんで、飽食してもよかつたから、金持しか利用できなかつた。それはその人にとつては樂しみでせうが、多數にとつては不都合な事でせう。汽車に乘つて旅行すると、汽車では好きなものを選ぶ事は出來ません。汽車の晝飯は一色しかない。これは非常に合理化された譯ですが、汽車の中では四十分以上客は飯を食へない。十二時頃から始まつて四時半頃までに五回位順序があつて、第一番、第二番、第三番……といふ風にボーイが汽車の中にきゝにきます。それで紙片に何度目と記入してそれを貰つて置いてその紙片を持つて行く。その紙片を持つてゐなければ食事が出來ない。紙片さへ持つてゐれば

席は必ずとつてあつて、みんなが着席する。それから時間まではそこにゐても構はないが、濟んだ時間になるとまたボーイが三番目のお客さんは直ぐ來て呉れと呼びに來る。行くと全部がみんな一緒のテーブルについて同じ食べ物です。さういふ時に何回目といつて置いて行かなかつたりすると駄目です。遲れても食べられないのです。それから汽車の食堂ではビールの外に酒は出さない。秩序と自由といふことの觀念が、昔と非常にちがふのですよ。それは一つの社會秩序なのです。

A　さういふ訓練をされるとはえらいですね。

B　日本では電車の中でも、自由と我儘を共通に取扱つてゐますね。夜更けの電車の中などで、よくみる光景ですが、醉拂ひがのつてゐる。それを大勢の人がやきもきしながら我慢してゐる。所があれなどもソヴェトでは、我慢は醉拂ひの方にさせる事ことになつてゐる。それは簡單です。

社會秩序といふ事が、一般的な概念になつてゐるのです。醉拂ひ自身が、公衆の中では、醉はない風をしてゐます。それでもぐづ〳〵何か話し出したりして、醉拂ひだと判れば、乘客が、車掌の手さへ借りずに、下してしまひます。醉拂ひもすなほに輿論に從ひます。

A　それは羨ましいですね。小說などでみると、ロシアは昔は、ウオッカなどゝいふ强い酒をのんで、醉拂ひが多かつたやうですのにね。

B　いはゆる『自由』のけんらん時代にはさうでしたね。革命前は醉拂ひがあばれるのは普通だつたのです。然し、革命が國民を大緊張させたのです。今では醉拂ひが公衆の生活を紊すといふやうなことが見つかれば大變なのです。勿論かういふ事は將來絕對にゆるむ事がないなどゝはいへませんが、然し電車内などでは、日本みたやうな不體裁は決してないでせうよ。道德が變つてきましたから。

A　トルストイの作品なんか見ても、貴族の馬車が醉拂ひを三人もひき殺すのなんかありましたね。

B　アンドレエフの書いてゐる大學生活を十年もしてゐる老大學生氣分などゝいふものが、親しまれたものですが、今日ではあゝいふ氣分も根本的に淘汰されました。

住宅問題

A　次には住宅問題について伺ひたいのです。共同住宅などの事も少しはきいて居りますが過去の個人主義がのこつてゐて困る事はないのですが、とてもいやなものでした。表面を飾るのです。だから私、四五軒で一緒にゐる事なんか、どうかしらと思ひます。問題はないのでせうか。

B　それはありませう。だが、革命後のモスクワなんかの住宅難はお話になりませんからね。まづ住めればよいのですよ。

A　それはそうでございませうね。段々事情が解つて來ましたわ。

B　まあ段々今の狀態がよくなつてくれば、一つのゆつたりした住宅は有ちませう。その時には今の爭ひの原因は少くなります。共同食堂が發達すれば臺所の爭ひもなくなれば、中央洗濯所が出來ると、窓のおしめを干す領分や境界問題にたいする文句もなくなります。こゝで考へられることは、日本人のこの種の生活に對する考へ方は、あちらの人々とは違ふといふことです。

日本人は氣に入らぬ人の向ひ側にも住むのはいやといふ風ですが、いやなら挨拶せずにすましたつてよい。それが日本人は決して出來ない。だから彼方の人の樣に問題が簡單に片づかないのです。

A　全くねえ、だが離れてすみたいといふ事はないのでせうか。

B　人間にはいやな氣持の生活は整理したい生活本能はありますね。今のソヴェトは住宅がとても不足で、新住宅を貰へれば、これは非常に有難いのです。モスクワなどでは昔の金持の住んでゐた大きな一室をいくつにも區切つて住んでゐる位で、勿論臺所は一つです。だから他人の仕事をしてゐる傍をごめんなさいと通らなくちやならないし、一緒にいくつも石油コンロを並べて料理も作らなくちやならない。だから私が先きだといふやうな喧嘩は勿論ありますね。然しこれはすぐ忘れる樣です。殊に臺所をめい〳〵が必要とする生活が清算されゝば、それはなくなります。

それは昔身分がよかつたといふ樣な連中は、センチメンタリズムと、低徊趣味を多分に有つ

てゐるから、何とか彼とか云つてゐますが……。今ではまだ多くの家庭に臺所仕事が殘つてゐるから女は辛いけれど、他の生活はないのだから厭でも矢張り馴れます。個人生活に對する自他の見解といふものがはつきりしてくるのですね。

A　えらいですね。

B　例へば、情事に對しても、隣家の妻君が、夫の留守に他の男を引入れたとしても、話題位にはするが、きゝてが必ずしも話し手に同情はしない。新聞だつて日本の樣な社會記事はないから、泥棒や火事の記事は時として出るが、そんな個人の問題はかきたてません。個人の私生活に干渉しあふといふことは成るべく避けるがよいとなつてゐます。

A　泥棒や火事は大勢の生活を脅かすが、個人の情事などは他の人々に何でもないといふ譯ですね。

所でそんなに簡單だと、一方人情が薄いといふ樣な事はないのでせうか。

B　さうでもないですね。英國などでは公園で子供が遊んでゐて轉ぶと、われ〳〵日本人はたゞ馳けて行つて起して塵など拂つてやる。そして『なぜそのまゝにしておいてくれないか。』と乳母や母親から怒られたりするといふ話もきいたが、ソヴェトでは子供のためには勿論助けあひます。然しいつでも隣人です。ですから一體に日本人ほど世話やきではない。これは建物の關係も大いにあるのですね。

同じ家に住み乍ら、お互に顏を知らない事はよくある。二三十軒のアパートは帝政時代から出來てゐるのですが、今は四五部屋位のが、三百軒も集團してゐるのがあつて、隣なんかしらないで暮せる。むしろ仕事關係、學校友達などで交際する事が多く、地域關係は少いが、これもロシアに限つたことではありますまい。家屋全體の修繕のため、家賃、電燈などの委員會が出來てゐて、その選擧權は一家の主人が有つて居るが、かういふ社會的な仕事の上での接衝はあります。

戀愛と社會道德

A　今度は一番無智な質問といはれさうな戀愛について伺はせて下さい。ソヴェトでは、結婚は容易らしいのですが、情痴の世界の問題はどうなのでせうか。

戀愛がもつれて三角關係になつた樣な時はどう解決してゐますか。例へば男が妻以外の女に愛を感じた時など。

B　新しい戀愛對象の方を多く愛する事もあれば、妻と愛人とに愛が七三に分けられる事もありませうね。

コロンタイの言つたやうに『喜びなければ悲しみもなし』といふやうな淡い戀愛觀が支配した時代もあります。併し、社會秩序としては一夫一婦が主義です。

A　この場合夫が妻をすて、離婚して愛人と結婚出來ますか。

B　出來ます。夫はその女性と登記所にゆき、妻との離婚を屆けて、新に結婚を登錄する事が出來ます。

A　離婚はその樣に一方的でよろしいのですか。それは大問題ではないでせうか。

B　ソヴェト婚姻法の立法精神では結婚は合意によるので、双方が同意せねば、出來ません。從つて一方がその同意を撤回した場合には、結婚は破れるのが當然です。だから離婚は一方だけの意志でよいといふ譯です。

A　女のすてられる事は相當多いのでせうか。日本の女は、相當の年齢になつて夫との間に戀愛はなくても、妻は家を出て戀をする希望もない。子を愛し、子にひかされていき〳〵した生活ではないが、暮してゐる夫婦は多いやうですけれど。

B　ソヴェトでも實際問題としては、前時代の因襲としてさういふ生活も殘つてはゐるが、さういふ生活はソヴェトの理想ではありません。社會道德は實際生活の變化につれて變つてゆく。人間の經濟が、一人々々離しても保證されてゐる社會では、子と共に住まうと思へばすめるし、夫と別れてゐても子供は育つし、子供が兩親から扶養されねばならぬときは、兩親のうちの經濟的に力づよい方が負擔する事になつてゐるから、夫が失業して、妻が月給取りで別居してゐるやうな場合には、子の扶養のより重い負擔は妻がする事になつてゐます。夫婦が別れたからその日から何の責任もないといふ譯ではないのです。離婚と經濟的負擔の義務とは別です。

但しこれも實際問題としてはまだ男が經濟力がつよい場合が多いから、男の負擔する場合の方が多いのですが。とにかく今までの樣に經濟的理由から離婚したくても出來得ないでゐる事は夫婦の常道ではありません。

A　その扶養料の支拂ひはよく實行されてゐませうか。

B　裁判で宣告するのです。そしてその支拂は、義務であり、負擔であつて、離婚、別居、などいふ場合に適用します。それを支拂はないと更に法律で强制します。とにかく一般的に道德の標準は昔からの殼をすてゝ新道德が生れつゝあるといへます。勿論道德といふものは一般的な永久不變のものではなく、時代と環境によりいろ〳〵變化が起りますが、男が女を漁り散らしたりする事が、稱讃されてゐる譯では決してありません。それ所か非難されてゐます。

彼に法律上の罪があるとかないとかいふ問題でなく、自己滿足のために享樂を追及して、生活の規律をみだし、他人に迷惑をかけたといふ點で社會道德的に非難されるのです。

A　なるほど正しい非難ですね。

B　ソヴェトには同僚裁判といふのがあります。たとへば一人の勞働者（共產黨員でも何でもよい）が幾人もの女工を弄んだといふ樣な露骨な不道德な行爲があつた時、性的享樂の爲だけといふ時にはその所屬の組織の一人が、（勞働者も勤人も何かの組合に入つてゐるから社會的に拘束されぬ人はない）これを『社會的道德の認識不足からだ。』として組織に訴へれば、集つた連中は事實を調べて、裁判をするのです。國家の裁判の樣に法律を適用するのではないが、彼の行動を社會的に害があると認めれば、新聞に發表もすれば、工場の中へそのことを貼り出して戒飭もする。改悛の情があれば酌量もするといふ事になつてゐます。

A　自治的にやる譯ですね。

B　裁判に附すべきか、放つておくべきか、其の中間に屬する程度の生活は、相當ありますが、子供はつくり放しといふやうな男女關係は、今では社會的に許されない事になつてゐます。

A　なるほど神近氏の記されたものゝ中に出てくる女が、二年に七回夫をとりかへ、八回目に屆けにゆくと、登記所の役人が怒つた。そしたら女も怒つたとありましたが、それは法律では許されてゐても、社會道德的にいけないからお役人が怒つたのですね。

B　未來の共產主義の社會では法律はなくなるといふ程ですから、今のソヴェトでは法律は原則だけを示し、他は社會的道德を非常に發達させて、それに强靱性をもたせる事を大切にしてゐます。共產黨員の生活でも、黨員らしくせよといふ事が大變大切になつてゐる。過去の社會では、自由職業者でも孤立的に生きられるし、團體的統制をうけませんが、ソヴェトでは皆團體的統

制をうける。この個人の行動は或る程度まで自由であるが、それが埒を越えて非難に値する時は同僚が統制の力をもつ。法律だけの中で生きてゐるのでなく、社會的に生きてゐる譯です。とにかく大勢の組織の中で一人だけ非難され孤立するといふ事は、隨分つらい制裁ですよ。

B　經驗により、やり方が惡かつた時は批評して、道德を新たに作つてゆくのですね。

B　えゝ。だから過渡期の犧牲者は勿論ありますよ。例のコロンタイズム、あれが問題になつたのは革命後五六年目の頃でしたでせうね。戀愛の自由といふわけで、若い人々は非常にふしだらになりました。勿論人間は、或る年齡に達すれば性慾が發達する。だがそれを社會的秩序といふ事を考へずに、その儘發揮してよいか否かはかなり問題でせう。併し一時はこの翼のない丸裸のキューピットの天下だつた時代があつたのです。コロンタイのいはゆる『無翼のキューピツト』がのさばつた時代、赤裸な本能主義が、男女の性の世界を征服した時代は、一九二一、二年頃までのことです。革命當時は、全く生活の混亂がはげしかつたのですが、一九二一年に例の新經濟政策が施行されて、食物も少しはゆとりが出來、生活が稍や落ちついて來ると、混亂時代の放縱な性生活をそのまゝに押通して行かうといふ潮流と、一般生活が少し安定したので、性生活の混亂に氣づいてこれを整理しようといふ考へとが對立的に現はれて來ました。そして議論の種になつたのですが、あの前者が、後者をば、センチだとか、舊弊だとかいつて大に我儘勝手をやつたのが、この時代なのです。

ですから、たしかに革命後の數年間は性生活の混亂狀態がありましたが、決して皆が公認して定めたわけのものではなく、共產黨員中にも、この傾向を非常に心配してゐた人もあつたし、レーニンの生活の樣に一夫一婦主義で、結婚の時に互ひに同志とし同僚として尊敬しあつた上で夫婦になるのでなければ、結婚の動機が輕卒だと說く人も多くなつてきた。一方、我々の時代には戀愛とか、一生涯そひとげるなんてことを豫定して相手を選擇してゐるひまはない。社會的に忙しいのだから、自分達だけ生理學的に性問題を解決すれば、それでよい。その結果として生れた子供の養育は、社會に任せたらよいといふ考へをもつ人も出て來たのです。この二つの潮流が論爭の末、黨の指導方針、道德律としては、裸のキューピット主義はよくないといふ事に決定されたのです。事實結婚も生活も保證されない混亂時代には、ぶつかつた所で出來あふといふ現象が起るのも止むをえない。それが、生活が安定すれば夫婦が生活を樂しむ領域も

廣められるといふ譯です。物が安定してくれば自然に整理されるものですね。問題を考へるひまもない混亂時代の義務勞働制は、恰度軍隊と同じで、家庭の事などは考へてゐられない。留守も長くなるとすれば四五年も獨身ではゐられないし、女の方も夫の生死さへわからず、從つてそういふ時代には貞操觀や道德觀も、ちがつてくるのは仕方がないでせう。我々が別の環境の中にゐて、他の環境の中で起つた現象を兎や角言つたところで、それは却々肯綮にあたるものでないのです。ソヴェトの法律は貞操を强要しないけれども、それは貞操を勝手に放縱にしてよいといふ意味ではないのです。

A　ありがたうございました。お蔭で大變はつきりいたして參りました。どうぞ又機を作つて御教示にあづからせて戴きたいと思ひます。

數字にあらはれた工業發展のテンポ

五ケ年計畫がはじまつて以來、ソヴェトの工業は殆んど完全に社會主義化されてゐる。ところで一九三一年度の社會主義化工業生產の總額は、金額にして二百七十億ルーブルである。これを前年度、すなはち一九三〇年度にくらべると全體で二一％の發展である。

もし重工業と輕工業にわけて觀察すると、重工業では二八・七％、輕工業では一二・六％、木材工業では一二・六％の發展である。重工業の發展が、輕工業の發展にくらべて、ずつと急激なテンポを示してゐることは明瞭である。

重工業のうちでも、殊に急激な發展を示したのは、機械製作工業と、電機工業である。この一年間に機械製作の發展率は四〇％、電機工業の發展率は實に六一・五％である。更に詳しい數字上の說明はあとで述べるが、かういふ急激な工業上の發展は、今日まで何處の國の歷史にも前例のないことである。

計畫案を突破した工業

したがつて、工業の多くの部門では、五ケ年計畫の第三年目である一九三一年中に、ゴスプランが最初に立てた『五ケ年計畫の基礎案』の豫定を、遙かに突破するにいたつた。例へば、次のやうな狀態である。

石油の生産は、五ケ年計畫の最後の年の年産額を二千百萬噸と豫定してゐたのに、一九三一年には既に二千三百萬噸餘を生産した。

トラクター及び農業用機械は、すで一九三一年中に五ケ年計畫の最後の年の生産豫定よりも三二%だけ餘計に生産する樣になつた。

工業用機械製作は、五ケ年計畫の最後の年までに、年産額四十三億五千萬ルーブルに發展させる豫定のところを、一九三一年に既に四十七億三千萬ルーブル生産した。

電機工業は、おなじく一年の生産を八億九千五百萬ルーブルまで高める豫定のところを、既に九億二千四百萬ルーブルの生産を示すにいたつた。

そのほかにも、豫定計畫を突破したものは澤山ある。

電氣動力は、五ケ年計畫案によると、一九三一年中に五十億キロワット時を生産する豫定であつたのを遙かに突破して、六十四億キロワット時の生産をしてゐる。

石炭は、五千三百萬噸の年産豫定の所を、實際では一九三一年中に五千六百萬噸生産した。

もつとも急激に豫定を突破したのはトラクターの生産である。五ケ年計畫の最初の案では、二つの大工場完成を計畫したが、實際では四つの大工場を作つた。これは、農村の集團化運動が豫想外に急激な發展をとげたので、それに伴つてトラクター生産力の增大に全力を注いだ結果である。全國にわたり次々に組織される集團農場へトラクターや農業用機械を供給するための、機械トラクター配給所は、一九三〇年には僅か三百八十五個所で、その規模もあまり大きくなかつたが、一九三一年中に千五百七十四個所となり規模もずつと大きくなつた。

機關車も、計畫によると年産六百六十臺の豫定であつたが、實際は一九三一年度に八百十二臺を生産した。

輕工業の方でも、一九三一年度の靴の生産豫定は六千萬足であつたが、實際は七千六百八十

萬足の生産をした。

技術的水準の問題

ソヴェト聯邦が今まで技術的に先進諸國に遲れてゐたことは爭ひがたい。この技術的におくれた國に拍車をかけて、他の先進國に『追ひつき追ひ越す。』といふのが五ケ年計畫の大きな目的の一つである。スターリンは昨年の夏にモスクワで開かれた技術家會議の席上で『我々は先進諸國から五十年も百年もおくれてゐる。この時代の距離を十年間に驅けぬけなければならない。』と言つた。

五ケ年計畫の最初から、世界中の最新技術による工業設備を盛んに買ひいれたのは、自國の技術的水準を、まづ世界の先進國の水準まで高めるためであつた。

各國とも、それ〴〵自國の技術的傳統といふものを持つてゐるので、外國で新らしい技術的發見が行はれても、直ちにそれを取りいれて應用するのに、色々と不便な事情の伴ふ場合が多い。ところがソヴェト聯邦では、殆んどすべてが新らしく始められるにひとしい大建設に着手したのだから、世界ぢうの最新技術をいつぺんに取りいれる可能性がある。たゞ、新らしい機械設備にふさはしい人間の技術と、能力の水準を高める事に努力する必要が殘されてゐるだけだ。從つて、最初はまづ外國の技術家や勞働者を招聘してやつてゐるが、段々ソヴェト國民の手で新らしい生産が行はれるやうになつてゆく。さういふ點は日本の明治時代における工業發達の過程とよく似てゐる。たゞそれが時間的にもつと急激なテンポで、しかも大規模な形で行はれてゐる點だけがちがふのである。

一九三一年中だけに新らしく事業を始めた、新らしい大工業を取りあげてみても十指を屈して尙ほ足りないほどである。

(イ) ハリコフのトラクター製作所。(ロ) モスクワの自動車及び機械製作企業結合。(ハ) ニジェゴロド自動車製作所。(ニ) ウラルの大型機械製作所。(ホ) サラトフのコンバイン製作所。(ヘ) マグニトゴルスク製鐵所。(ト) クズネツキー製鐵所。ベレズニコフ化學企業結合。

かういふ新らしい大工場が建設されても、これを動かす實際的な能力が伴はなくては何にもならない。スターリンも『ボリシェヴィキは技術を獲得しなければならぬ』と言つてゐる。

一九三一年の初めには、自動車やトラクターの國産品はあまり完全でなく、外國から多くの供給をうけてゐたが、一九三二年には國産品だけで需要を滿たすことになつた。五ケ月間で大きなブリュミング機械を作りあげることに成功した。レニングランドの機械製作所は新たに精巧な機械を製作するやうになり、輸入織機を驅逐した。帝政時代のロシアは殆んど自國内に造船所らしいものを持たなかつたが、最近數年の間に七十隻の大汽船を竣成した。

レニングラドの北部電線工場では、新らしいエナメル海底電線の製作に成功し、二十二萬ボルトの海底電線を作るやうになつた。

最近に全然あらたにソヴェトで製作されはじめた農業機械の種類は七十餘に達する。機械製作の方面で一九三一年中に新種類の製作を始められた機械は、實に全機械生産の二五%を占めるといふ點からみても、如何に工業技術の方面で躍進的な發展を遂げてゐるかゞ想像できる。從つて五ケ年計畫の初めの頃にみた、機械類の巨額な輸入といふ外國からの經濟的拘束からソヴェト聯邦がが漸次解放されてゆく見透しがはつきりしてゐる。

かういふ技術的進歩に伴つて、技術家の不足といふ問題が必然的に起つてくる。ソヴェト政府は今やこの技術的達成を充分に合理的に運用するため、新らしい技術家と新らしい工業條件に適する熟練工を養成するのに全力を注いでゐる。一九三一年現在の專門工業學校と工場附職業學校に學習中の人員は、全ソヴェト聯邦を通じて實に百八十萬人に達する。一九三二年に卒業する若い技術家の總數は三萬八千人の豫定であるが、一九三三年には八萬五千人に達する。一九三二年に工場附職業學校を出る者は三十五萬人に達する。

發展過程に起つた缺陷は何か

しかし、總てが順調にばかり進展してゐるのではない。一九三一年中にあらはれた工業方面における色々な缺陷は決して少なくない。第一に、一九三一年度の工業計畫中であらたに立てられた、生産品の質の向上といふ計畫は豫定の水準を達成されてゐない。それから運輸狀態が充分でなかつたため、原料や燃料等の配給に缺陷が起り、工業の急速な發展が阻止された部分も決して少なくない。また別の所で說明するやうに、勞働組織や賃銀問題の缺陷から生産能率の向上が思ふやうに行かなかつた點もある。更に企業内部の經營のやり方が充分に合理化され

ないために、發展の速度に悪い影響をあたへたといふ實例も稀れではない。これらは何れも急激な發展過程のうちでは、往々にして免れがたい所のものである。

兎も角も五ケ年計畫の最後の年である一九三二年度には、今まで外國から輸入した色々な工業品を、國内で産出するといふ計畫に向つて益々歩を進めてゐる事は驚嘆に値する事實である。

五ケ年計畫最終年度の工業生産計畫

一九三二年度の工業生産計畫を一瞥しよう。

國營工業の生産高は一九三一年度にくらべて三六%の増大をみる豫定計畫である。これを金額に見積ると、一九三二年の全工業生産額は三百七十五億ルーブルに達する。この増産のために勞働者數の増加は百二十萬人、即ち一九三一年に比べて一四%の増加である。

かういふ工業發展の過程でいちばん大きな問題となるのは鐵の増産である。なぜなら、どんな機械にしても鐵の消費なしに出來るものは一つもないからである。

一九三二年度の鐵の生産計畫は次の如くである。

銑　鐵――九百萬噸。
鋼　鐵――九百五十萬噸。
展　鐵――六百六十萬噸。

この鐵生産計畫を實現するには、一九三一年度に比べて一年間に一躍四百萬噸といふ莫大な鐵の増産をはからねばならぬ。かういふ急激な鐵の増産は、世界の歴史に例のない事である。近代の機械文明國の年々の鐵の増産率を歴史的にたどつて、その一番はげしい増産時代を取つたところで、四百萬噸といふ鐵の年産額を達成するのに、イギリスでは三十五年間（一八六四年――一八九九年）、ドイツは十年間（一八九二年――一九〇二年）、アメリカは八年間（一八八二年――一八九〇年）を費やしてゐる。帝制時代のロシアが鐵の年産額四百二十萬噸（一九一三年）まで漕ぎつけるには數十年間を費やしてゐる。

一九三二年中にソヴェト聯邦で建設される製鐵關係の建設は次の如くである。

熔　鑛　爐――二四
製　鋼　爐――六七

電氣熔鑛爐――一二
ブリュミング――七
展鐵機――二一

この製鐵事業の發展のために一年間に投下される資本額は十五億ルーブルである。この計畫が實現するとソヴェト聯邦はアメリカに次ぐ世界第二の鐵產國になる。一九三一年には既に五ケ年計畫の最初の豫定どほりにイギリスの鐵生產高を追ひこして世界第四位を占めたが、一九三二年度においてはドイツとフランスを一擧に追ひ越すことになる。

前にもいふ樣な世界に類のないやうなマグニトゴルスクとクズネツキーの二大製鐵所の完成と、從來の製鐵所の改造擴張によつて、かうした急激な增產ができる譯である。

鐵と共に工業發展上の必須條件は石炭の增產である。ソヴェト聯邦の各地における石炭埋藏量の豐富なことは世界無比である。今尙ほ次から次へと新らしい石炭層が發見されてゐる。

最近の二年間に、ソヴェト聯邦は石炭產額において世界の第六位から第四位に躍進した。一九三二年度中にイギリスとドイツを追ひ越して、アメリカに次ぐ第二位を占める計畫を立て、これを實行にうつしてゐる。一九三一年の石炭產額は五千六百萬噸である。これを帝制時代の二千九百萬噸に比べると約二倍である。一九三二年度の石炭生產計畫は實に九千萬噸である。一年間の增產率は五〇％に當る。各地の炭坑における採掘作業を機械化すると共に、幾多の炭坑增設によつてこの增產計畫を遂行するのであるが、新炭坑の設備はいづれも最新の技術を應用することになつてゐる。

今までのソヴェト聯邦では石炭の生產能率はいちばん設備のいゝドンバス地方でさへも先進國に比べるとずつと劣つてゐた。例へばドンバスにおける勞働者一人の一日平均生產高はルール地方炭坑の一、五四噸なのに比して〇、八八噸にすぎない。ルール地方の炭坑では九三％まで採炭が機械化されてゐるのに、ソヴェト聯邦で最善の炭坑といはれるドンバスの機械化率はまだ六八％にすぎない。

一九三二年に新たに建設に着手される炭坑の數は三百八十坑である。この年產設計は實に二億四千萬噸といふ巨大な數字を示してゐる。そのうち一九三二年中に開坑されるものは三十八坑、年產額三千八百萬噸である。新設炭坑の規模の大きさは驚くべきものがある。例へばクズ

ネツキー盆地のコークス用第一號坑のごときは、一坑で年に三百二十五萬噸の石炭を出す設計である。これはその大きさから言つて世界第二の炭坑である。一九三二年度にグズバス地方だけの產炭計畫は實に一千萬噸以上である。

ソヴェトでは計畫經濟の特徴を發揮するため、工業生產力の配置といふ問題がやかましく論議されてゐる。原料なり生產物資なりを廣大な聯邦の一端から他の一端へ運搬するといふことは經濟上からみて非常な不合理である。殊に石炭のやうな重量の多いものは成るべく生產と消費の地域を統一限定して、經濟的に合理化をはかる計畫を立てゝゐる。そのために工業の中心地である各地方ごとに石炭產地を開發し、必要に應じて之を擴張する方策を講じてゐる。

ドンバス及びクズバスのほかに、一九三二年中に大きな炭坑の增設計畫をもつのは、モスクワ近郊地方、ウラル、カザキスタン、極東、トルクメニスタン、ベチョラ、カレリア、ザカフカズの諸地方である。

機械生產の增大率

ソヴェトの工業五ケ年計畫中でいちばん華々しい躍進を示した機械生產について、そのテンポを示してみよう。五ケ年計畫に着手する年、すなはち一九二八年のソヴェト聯邦における機械生產總額は十七億ルーブルであつた。それから數年間の生產增大率は、實に驚ろくべきものだ。

一九二九年――二十四億ルーブル。
一九三〇年――三十四億五千萬ルーブル。
一九三一年――四十七億ルーブル。

そして一九三二年の豫定では七十億ルーブルの機械を生產する計畫である。英、米、獨、佛、それに日本をも加へて一九二九年の恐慌以來どこでも機械の生產高は減退してゐる。世界ぢうでソヴェト聯邦だけが、この樣な躍進を示してゐるのは偉觀である。

大型機械製作の新らしい中心地はウラルとクラマトルである。この二つの機械製作所は一九三二年中に建設を終つて活動をはじめる計畫であるが、後者はまづ第一に一臺が一萬八千噸といふ世界無比の大型展鐵機械の製作にかゝる。一年間の機械生產力は一つの製作所で十五萬噸に達する。

前述のやうに一九三二年度の機械の總生産額は七十億ルーブルである。そのうち農業用機械だけの生産高は九億四千萬ルーブルである。トラクターの年産は八萬二千臺である。自動車の生産高は七萬三千臺である。機關車は千三百臺、貨車五萬輛といふ事になつてゐる。

電力の增大

最近數年間の發電力の增大を數字で現はすと次のやうになる。

一九二六年――二十萬キロワット。
一九二九年――四十七萬キロワット。
一九三〇年――六十萬キロワット。
一九三一年――百十萬キロワット。

そして一九三二年中に起工される電化計畫の中にはヴォルガ中部のイワノヴォ・ヲズネセンスク地方、ニジニゴロド地方、それからカマ河を利用したベルミ地方の三大水力發電所が含まれてゐる。この三つの發電所だけを併せた總電力は實に百萬キロワットに達する。

失業者のない國

ほんたうに建設してる！

ソヴェト聯邦への旅から歸つてくると、色々の人がおなじやうに、『ところで君、ソヴェトではほんとに評判どほり盛んな建設をやつてるのかい？』――と訊く。

評判どほりどころではない。評判や想像以上なのに私はおどろいて歸つてきたのだ。

『こいつだけはボリシェヴイキの豪勢なことを認めないわけにや行きませんや。ピヨトル一世の大建設だつて、いまのあの連中のやつてることに比べると小つぽけなもんでさあ。』

社會主義は性にあはないと自分から宣言してゐるどんな小市民主義のロシア人に訊いてみても、さう答へる。ソヴェト政治にたいする感情の好惡の問題ではない。誰だつて親しくあの物すごい建設の光景をまのあたりに見た者は、驚歎の眼をみはらない譯にゆかなくなるのだ。

モスクワだつてハリコフだつて、そのほか何處の都會でも、つい近頃まで郊外のいゝ散策地帶だつたところが、この一二年の間に跡方もなく森が伐りひらかれて、鐵筋コンクリートや煉瓦づくりの工場や勞働者住宅でいつぱいになつてゐる。

一年前にウラルやドネプル河畔の大建設地を見てきたばかりの人が、『その邊はたゞ茫漠たる野つ原だつたんだから、まだ迚も見るほどの物は出來ちやゐまい。』――と忠告するのを、出かけて行つてみると、もう其處には驚ろくべき大工場や水力發電所ができあがつてゐる。モスクワへ歸つてその話をすると、一年前にみてきた人は『ほんとにそんなに進行してるのかい？』容易に信じないのである。

ドネプロストロイのごときは奇蹟的なものである。三十七萬キロワットといふ大發電所を中心に、大きな製鐵所や化學工場や、それに附屬する色々な工場、勞働者住宅、劇場やクラブまでが併行的に建設されてゐる。要するに、五萬人からの人口をもつ一大工場都市が二年ばかりの間に突如として草原の上に出現したわけだ。

少し名の知れた工業地帶の都市へ行つてみると、かならず一萬から二三萬人の勞働者を働かせる大工場が最近に完成されたり、近く完成されようとしたり、又は建設にとりかゝつたりしてゐる。小さな工場や小さな家は建てない。社會主義化される國にとつて緣故のないものだからであらう。新らしく建てるものはみんなでかい物ばかりだ。ドン河口のロストフ市の近くにある國營農場『ギガント』や『ゼルノグラド』だつて、一年餘りの內に四五千人の農業勞働者や、大農業機械の根據地や、農業大學までを包括する立派な農業都市を建設してしまつた。

『ほんたうに建設してる！』

私はそれ以外に答へる言葉がないのだ。

働らく者の世界

『ソヴェトでは失業者がないといふが、ほんたうかい？』――さういふ質問もよくうける。

あれだけの大建設をやつてるんだから、働らく手が足りないといふことは誰れにだつてうなづける。働らかうと思へば誰れでも仕事がなくて困るといふことはない。勞働者でも事務員でも引つぱり凧だ。だから條件のいゝ方へ轉々と移動して一つ所で落ちついて働らかなくて困る

といふ現象がおこつてる位だ。

『妻君たちを仕事にだせ！』――といふ宣傳ビラがどこの工場へ行つてもそこらぢうに貼りつけてある。紡績工場や食料品工場でおもに女が働らいてゐるのは當然だが、大きな鐵工場などへ行つても必らず女が二割か三割ぐらゐ機械の前へ立つて、男とおんなじやうに鍛冶屋の仕事をしてゐる。女の職場長も珍らしくない。

資本主義分子を絶滅して、國民の全體を皆な勤勞分子に鑄直してしまふのが五ケ年計畫のプログラムになつてゐる。だから懐ろ手をして遊んだり、自分で商賣を經營して喰つてゆくのは骨が折れる。骨が折れるどころか不可能だ。第一にさういふ者は消費品の配給所で配給をうける權利を剝奪される。勤勞者として働らいてゐる者のほかは、消費品の配給をうけるための手帳が貰へないのだ。この配給所以外で物を買はうと思へば非常に高い。だから、今まで商賣をしてゐた者も、それを棄てゝ勞働者になつたり國營の賣店の番頭になつたりする。かうして資本主義分子がどし〳〵勤勞層のなかへ解消してゆく。

働らく者にはよい待遇があたへられる。筋肉勞働者の方が事務員や普通の官公吏よりも多くの分量の消費品を配給される權利をもつてゐる。工場へゆくと、職場の隅に赤い板と黑い板が並んでかけてあつて、勞働能率の高い者は赤板へ、缺勤したり勞働能率の低い者は黑板へ名前を掲示される。赤板に名をかゝれた者は『ウダルニク』と稱される。社會主義建設に貢献した名譽の突擊隊員といふわけで色々な特權をあたへられる。消費品の配給もよけいに受けるし、全體に配給の行きわたらない時でも先取權をあたへられる。働らく者の世界だ！

失業調節の大熔鑛爐

勞働には一定の熟練がいる。いくらソヴェト聯邦でも勞働に對して少しの熟練もない者がいつでも仕事につけるといふ譯はない。建設に忙しければ忙がしいほど不足を訴へてくるのは能率の高い熟練勞働者だ。

ソヴェト聯邦で失業者の絶滅に大きな影響を與へたのは、一週五日七時間制といふ勞働時間の短縮だが、もう一つ失業調節の上に非常に大きな役目をしてゐる尨大な機關がある。それはモスクワの中央勞働研究所と、これに統轄されて全國約三百箇所に散在する職業教育機關だ。そ

こでは一定の職業にたいして熟練のない者に、仕事の難易によつて三四ケ月から八九ケ月の間に職業教育をあたへる。どういふ勞働部門でも極めて分業的に專門の仕事を科學的、合理的な方法で教へるから、今まで徒弟制度のもとで數年もかゝつた仕事を、中年の者でも僅々數ケ月間でおぼえさせる。たとへば鐵工にしても孔を穿ける仕事なり削る仕事なりを、そればかり專門におしへ込む。そして出來るだけ早く一人前の熟練勞働者として生産に從事することが出來るやうにする。

大建設時代のソヴェト聯邦で現在いちばん不足してゐるのは建築工だ。今まで手に一定の職業のなかつた者や農村から出てきて勞働者になりたい者の大部分は、こゝで最短期間のうちに建築工に仕立てあげられ續々と現場へ送りだされてゐる。

かうして大建設時代に建築工に仕立てあげられた幾十萬といふ勞働者は、現在の建設時代が一段落した時にはどうなる？　さういふ場合に大きな意義をもつものは職業の再教育だ。現在でもソヴェトの職業教育機關は閑散な仕事から忙がしい仕事への職業再教育を盛んにやつてる。モスクワの中央勞働研究所へいつて見ると、ちやんとその時々の勞働力の需給關係が表示してある。そして一々本人の才能なり希望なりを調査した上で、理髮師から大工へ、指物師から旋盤工へといふ風に再教育にかゝる。それが非常に簡單にできるのは、統制經濟といふ制度のお蔭で職業別に勞働力の過不足がいつも全國的にちやんと判つてゐるのと、科學的な設備があつてごく短期間に職業教育が行はれるからだ。職業病にかゝつたり、負傷したりして轉職の必要がある場合にも職業再教育のお蔭で失業したり生涯の廢疾者になることから免かれうる譯だ。

失業者のない國！　そこには職業教育機關といふ失業調節の大熔鑛爐が全國的に網をはつてゐることを忘れてはならない。大きな都會には獨立した勞働研究所があるが、それ〴〵の部門の大工場には大がい工場の一部に職業教育機關が配置されてゐるのだ。

强制勞働をやつてるか

『だが、さかんに强制勞働をやらせてるさうぢやないか？』

そんなことを言ふ人もある。働らいてゐる人間のみんなが皆な『早く國の經濟を建て直してすべての者に樂のできるいゝ社會をつくらう。』――と前途の光明を意識して明るい氣持で仕事

をしてゐるとは言へない。けれどもそれを意識してゐる連中が社會主義建設の積極分子といふので、共産黨員でなくても同じ職場で仕事をしてゐる周圍の人心を引つぱつてゆく。その上に、賃銀はたいがい働らき高制度になつてゐる。勤勉者は賞揚されて特權があたへられる制度になつてゐる。だから皆なが努力して働らく。大がいの工場では『ブリガーダ』といつて十人から二十人位ゐに職場の班ができてゐて、この班にたいして工場の幹部はこの月は幾何の生産をせよといふ一定の生産計畫をあたへる。この生産計畫を受けとると、『ブリガーダ』の全員が相談をして自分たちの力の及ぶかぎり幹部から與へられた以上の生産計畫を立てゝ工場ぢうへ發表する。これを『生産計畫對案』(フストレチヌイ・プロムフインプラン)といつてゐる。この生産計畫對案でどの班がどの程度まで生産計畫を引きあげたか、またどこまで完全に自分たちの出した對案を遂行するかは、全工場の注目の的になる。誰々の班(イワノフ班とかペトロフ班とか班長の名がつけてある)は最後の第五日に生産計畫の何パアセントを遂行した、といふことが絶えず掲示される。かういふ班と班が互ひに一つ工場内で生産の競爭をやる。そして優勝旗の爭奪戰をやる。これがソヴェト聯邦で『社會主義的生産競爭』と名づけられるものだ。

時には甲の工場と乙の工場が對抗して競爭をやる。だから、或る班の中に怠け者がゐても彼は一緒に仕事をしてる仲間の手前なまける譯にはゆかないで、引つぱられてゆく外はない。勞働者がどうしても一生懸命にはたらくやうな旨い仕組になつてる。けれども、それは勞働者たちが自發的につくる生産計畫の對案によつて勞働者の仲間同志が勵ましあふといふ組織で、强制勞働とはいへない。ソヴェト聯邦で强制勞働をさせてゐるのは監獄と流刑地だけである。監獄は名からして『强制勞働の家』となつてゐる。この監獄の中にも生産競爭の組織があつて、囚人の中にもウダルニクがある。ウダルニクは家族との接見の回數や、休暇をもらつて自由に家庭へ歸る日數を多くあたへられるといふ風な特權がある。

消費品の配給を手帳制度にしたりして資本主義分子がだん〳〵勤勞層へ解消してくるやうな政策をとつてゐるが、それでも巧みに網をくゞつて不正な金儲をやる者がある。さういふ連中で財産を沒收されたり、流刑地へ送られて材木の伐り出しとか鐵道建設の仕事に强制的に働かされてゐる者は相當にある。けれどもアメリカで昨年あたり騷いだやうに、强制勞働で造らせた物をダンピングするなどゝいふのは、ソヴェト商品の世界市場への進出を怖れた貿易競爭者の

逆宣傳にすぎない。

生活はどうなんだ！

父親も働らき、女房も働らき、長男も次女も働らいてゐるといふ樣な勞働者の家庭は決して珍らしくない。さういふ家庭の收入は非常に多いから購買力は高まつてゐる。むしろ消費品の不足になやんでゐる。國民全體が勝手に消費したんでは足りなくなる樣なものは、國內で增產して調節がつくまでは一人あたりの配給量に制限をつけてゐる。外國から輸入するのは國內で出來ないものか、止むを得ない急を要する品だけで、個人の消費の方は當分不自由を忍ぶほかはない。

私と一緒に或る工場を視察した人が、二十五六歲位になる一人の勞働者をつかまへて訊いた。

『革命前の生活と現在とどつちが君たちには暮らしいゝね？』

勞働者は素朴な眼で微笑しながら答へた。

『殘念なことには僕は革命前の生活がどんなだつたか知らないんですよ。今だつてどこが惡いんです。老人たちは色んなことを言ひますけれど、誰れだつて若い時分のことはよく思へるもんですからね。』

なるほど革命が起つたときには彼は十歲前後の少年だつたに違ひない。それから反革命戰爭と飢餓の中で育つてきた彼が『今だつてどこが惡いんです。』といふ氣持はよくわかる。彼はよくなつて行く世の中より知らない。その彼と同じやうな青年が工場はもとよりソヴェト聯邦の何處へいつても中心になつて働らいてゐる。だから、そこで釀しだされる雰圍氣は朗らかだ。

たゞ消費品を買ふときに人によつて配給所が極つてゐて、自分達の店には品物がないといふ不平をよく聽く。これは資本主義分子と勤勞分子を篩ひわけるために手帳制度の配給法が設けてあるためだ。一つの例外は、私が旅行した所ではアゾフ海の沿岸のダガンログ市だ。こゝは昔から有名な工場都市で、そこの町に住んでゐるのは殆んど勞働者ばかりだ。だから資本主義分子の掃蕩といふことも大した鬪爭手段を用ゐずに行はれたし、どこの配給所でも誰れにでも賣つてくれる。行列に立つて順番を待たなければ買へないなどゝいふ事はない。夕方になつて町を散步してゐる人達をみると、男も女も質素だがみんな一樣に小ざつぱりした服裝をして

る。公園へはいつて音樂堂の前へ立つても、他の町のやうに、勞働組合員はいくら、學生と軍人はいくら、その他の者はいくらといふ樣に入場料はとらない。そこへ遊びにくるのは、我々のやうな外國人や旅行者は別として大がい勞働者だから、全部だれでも無料にしてある。ほんたうの社會主義の世界といふ氣がした。モスクワでもどこでも此のタガンログ市のやうだつたら、實に生活がのんびりしてゐて愉快だらうと私はおもつた。

五ケ年計畫と勞働組織の諸問題

五ケ年計畫は、生産增大といふ方面において注目すべき成績をあげてゐる。併し、この生産增大のうちにあつて、勞働の組織の方面でも色々な變化がおこつた。一時的に色々な缺陷が起つた點も少なくない。今やソヴェト政府は、そこに發生した缺陷を清算して、今後の生産發展にそなへるためにます〳〵勞働組織の合理化をはからうとしてゐる。

發展途上における勞働組織の缺陷

各種工業の建設進展のうちにあつて、勞働の組織一般にたいする各種の缺陷が廣く論議の種となつた。一九三一年の夏頃から一九三二年初頭にわたる勞働問題の中心は、これらの缺陷の清算といふことにおかれた。その概要を摘記すれば次の如くである。

一、一九三一年の初頭において運輸機關の活動が非常に惡かつた。そのために工業の急速な

發展を阻止した。

二、工業の運用、特に勞働の組織（無責任制）、賃銀制度（均分主義）、工場における計畫統制と技術的指導に大きな缺陷があつた。そのため生産能率の向上と原價低減の計畫を充分に遂行することが出來なかつた。

三、指導的な地位に立つ國家的經濟機關と企業との間における連絡が不完全なため、企業聯合中央部の各企業にたいする具體的な指導がうまく行かなかつた。

四、賃銀引上げと勞働生産率の向上との相互關係が全く滿足すべき狀態にいたらず、そのために賃銀基金の支出が可なりに超過し、從つて原價低減の豫定計畫が實行されなかつた。

五、冗費の節約が充分に徹底しなかつた。

六、計畫が遂行されたかどうかといふ審査監督が不充分であつた。

こゝに指摘された缺陷の内容を少しく具體的に說明してみる。

「オベスリチカ」について

第一の、運輸機關の活動における缺陷とは何ういふことであるか。

むろん經濟力の急激な發展につれて、機關車や車輛に非常な不足を生じたことは爭ひがたい。が、同時に勞働の組織から生じた大きな缺陷が暴露された。それは『無責任制』である。『無責任制』とは、ソヴェト經濟一般の社會主義化の進展に伴つて廣く採用されはじめた勞働の制度の一つである。これは、社會主義化された經濟のもとでは凡ての働らく者が主人――すなはち傭主のためでなく、各自が自分の屬する社會のために働らくのであるし、また誰れもがどの部署についても自分の能力と仕事に對する注意力を百パアセント發揮するから、一定の仕事に一定の個人を縛りつけて責任をもたせる必要はない、といふ思想からうまれた勞働制度である。この制度は一九三〇年頃から運輸機關だけでなく他の勞働部門においても採用された。併しこの制度がもつとも本質的な缺陷を暴露したのは運輸機關においてゞある。從來からロシアでは一定の機關車の運轉には一定の運轉手が配屬されてゐて、その機關車の合理的な運轉にたいし責任を負ふことになつてゐた。『無責任制』においては、それと反對に運轉手は勞働時間だけ機關車を運轉して時間がくると交代してしまう。その次の交代時間には必らずしも前の機關車を運轉するのでなく、他の機關車に乘り組むことになる。まだ機關車の型が一つに統一され

てゐないし、その機關車の故障等について交代後は責任がないことになつてゐるので、自然と取扱ひが粗雜になり、破損が頻繁に起るやうになつたのである。誰れもが責任を持つべきなのに、誰れもが責任を持たないといふ傾向が生じた譯である。そこでこの制度は一九三一年の春頃から喧ましい問題になり、結局從前どほり責任制を採用することになつた。『無責任制』のために不足がちな機關車や車輛の故障が頻發し、運輸能力が減退した結果として一番打擊をうけたのは製鐵工業である。石炭と鐵鑛の輸送がちぐはぐになつて熔鑛爐が休止するといふ現象が時々おこつたからである。從つて一九三一年には非常な鐵の生産不足が起り、他の工業の生産發展に可なりの障害をあたへる事になつたのである。

「ウラウニロフカ」について

第二の缺陷のうちでも『無責任制』が最初にあげられてゐる。機械や仕事に一定の人間が結びつけられて責任をもつて働らくといふ勞働の組織は、まだ働らく者の全體がはつきりとした社會主義の意識の上に立たない間はむづかしいといふ證據を示した譯である。次にあげられてゐる賃銀制度の『均分主義』といふのは何ういふことか。

やはり社會主義化の過程のうちに發生した一つの傾向である。勞働者は勞働の部門や熟練の程度に拘はりなく大體おなじ賃銀の水準を保つやうにする、といふのが『均分主義』の思想的な據りどころである。この制度もやはり『無責任制』と同じ時代に各工場でかなり廣く採用されはじめた。これはソヴェト勞働組合内の左翼が提唱しはじめた事である。どの工場でも優秀な熟練工よりは半熟練工の方が多數を占めてゐるといふ現在の情勢のもとに、この制度は忽まち全國の各工場を風靡した。併し、それと同時に優秀な熟練工は他のよき賃銀を與へる生産機關へ、また骨の折れる勞働に從事してゐた者は他のもつと樂な勞働部門へ、といふ風に激しい勞働力の移動がおこつた。例へば輕工業だけについてみても一九三一年度の一年間に紡績工業では全勞働力の六八%、麻工業では一〇四%、皮革工業では一〇二%、毛織工業では六〇%といふ大きな割合が移動してゐる。かういふ現象はむろん生産能率にも大きな影響をあたへてゐる。

賃銀改革の新方針

ソヴェト政府は生産能率向上のためにこの『無責任制』と『均分主義』を絶滅してもつと合理的な勞働組織と賃銀制度とを確立する必要があると考へて、一九三一年の夏頃から徹底的な政